

## 所蔵図書(1-500) (Tanaka Yutaka)

- 1) 「日本語が亡びるとき」 英語の世紀の中で (水村美苗著) (1-500)
  - 第1章 アイオワの青い空の下で<自分たちの言葉>で書く人々
  - 第2章 パリでの話
  - 第3章 地球のあちこちで<外の言葉>で書いていた人々
  - 第4章 日本語という<国語>の誕生
  - 第5章 日本近代文学の奇跡
  - 第6章 インターネット時代の英語と<国語>
  - 第7章 英語教育と日本語教育平成20(2008)年10月31日初版第1刷発行  
平成20(2008)年5月12日初版第3刷発行(筑摩書房)
- 2) 「時は流れず」 (大森荘蔵著)
  - 1 物語としての過去 2 殺人の制作 過去制作の一断片
  - 3 「後の祭り」を祈る 過去は物語り 4 時は流れず 時間と運動の無縁
  - 5 他我問題の落着 6 他我問題に訣別 7 主客対置と意識の廃棄
  - 8 「意識」からの解放平成8(1996)年9月10日第1刷発行  
平成9(1997)年5月26日第5刷発行(青土社)
- 3) 「人間の死に方」 (中野好夫著) 新潮選書
  - ・トルストイの最後の日々 ・ある懐疑主義者の回心
  - ・「ガリヴァー」の作者の死 ・夏日随想 ・フロイトと死の衝動
  - ・親鸞、その晩年と死 ・佐賀の乱と江藤新平 ・プーシキンとその妻昭和44(1969)年6月30日発行  
昭和58(1983)年6月5日第22刷(新潮社)
- 4) 「文学ノート」 (大山定一著) 筑摩叢書173
  - I ドイツ文学の系譜 ・ドイツ精神について ・ドイツ文学覚え書 ・方法と決意
  - II 作家論 ・ゲーテ ・ロマン派の文学 ・ゲオルゲ
    - ・リルケ ・カロッサ ・トーマス-マン
  - III 文学雑記 ・文学における美の問題 ・翻訳文学論
    - ・訳詞の問題をめぐって ・詩のころろ ・芭蕉論ノート昭和45(1970)年11月30日初版第1刷発行(筑摩書房)
- 5) 「診断名サイコパス」 ---身近にひそむ異常人格者たち(ロバート・D・ヘア著)  
Robert D. Hare: Without Conscience  
The Disturbing World of the Psychopaths Among Us (小林宏明訳)
  - 第1章 サイコパスとの遭遇 第2章 診断のためのプロフィール
  - 第3章 精神病質チェックリスト 第4章 自分だけの法律(ルール)
  - 第5章 心のなかの大きな消しゴム 第6章 残忍な「お遊び」
  - 第7章 コートのポケットから出てくる言葉 第8章 クモの巣にとらわれたハエ
  - 第9章 生まれつき"悪い"子供 第10章 致命的な誤診 第11章 なにか打つ手は?平成7(1995)年4月15日初版発行(早川書房)
- 6) 「ドイツ民俗学入門」 (ヴァルター・ディーナー著)  
Walter Diener: Deutsche Volkskunde (川端豊彦訳)
  - 1 民俗学の本質と意義 2 集落・家・屋敷 3 常民の服装 4 信仰と迷信
  - 5 作法と習俗 (1)人生の主段階 (2)行事と祭日 (3)仕事と仕事日昭和35(1960)年4月15日初版発行  
昭和44(1969)年12月20日再版発行(弘文堂)

- 7) Walter Diener: "Deutsche Volkskunde Ein Grundriss" (Reclam)  
 I Wesen und Bedeutung der Volkskunde II Siedlung, Haus und Hof  
 III Volkstracht IV Glaube und Aberglaube  
 V Sitte und Brauch (1) Die Hauptstufen des Lebens  
 (2) Fest und Feiertage (3) Arbeit und Alltag  
 Reclams Universal-Bibliothek Nr. 7227 (1951)
- 8) 「螺鈿迷宮」(海堂尊<Kaidou Takeru>著)  
 序章 アリグモ 第1章 血塗れヒイラギ 第2章 スズメのお宿  
 第3章 メディカル・アソシエイツ 第4章 枯れススキ 第5章 銀獅子  
 第6章 薄闇の白百合 第7章 わがままバイオレット  
 第8章 アンラッキー・トルネード 第9章 桃色眼鏡の水仙 第10章 屍体の森  
 第11章 薔薇工房 第12章 星座が告げるもの 第13章 陸の孤島  
 第14章 白鳥は舞い降りた 第15章 プリンセス・ターミネーター  
 第16章 白鳥皮膚科医院 第17章 ヘリオトロープの女神 第18章 煙と骨  
 第19章 真夏の神話 第20章 フェイク大集合  
 第21章 メメント・モリ 死を想う時 第22章 天空の半月 第23章 古豪 VS.新鋭  
 第24章 レディ・リリイ 第25章 潮騒の二重唱(デュエット)  
 第26章 ヘルタースケルター 第27章 ニューロレプト  
 第28章 デス・コントロール(Death Control) 第29章 火喰い鳥と氷姫  
 第30章 沈黙のピアス 第31章 エーアイの暗号 第32章 不顕性の原罪  
 第33章 蝸牛炎上 第34章 螺鈿の闇と光の中で 終章 夢幻の城  
 平成 18(2006)年 11月 30日 初版発行(角川書店)
- 9) 「グリム兄弟」(高橋健二著) 新潮選書  
 序章 グリム兄弟の伝記について 第1章 両親と兄弟と故郷  
 第2章 青年時代と苦難の中の研究 第3章 「子どもと家庭の童話」  
 第4章 図書館員時代 第5章 ゲッティンゲン七教授追放事件  
 第6章 ベルリン時代 第7章 「ドイツ語辞典」 第8章 グリム兄弟と日本  
 昭和 43(1968)年 11月 30日 発行  
 昭和 50(1975)年 3月 25日 5刷(新潮社)
- 10) 「二つの時代の証言」(ローベルト・ハーヴェマン著)  
 Robert Havemann: Fragen-Antworten-Fragen,  
 Aus der Biographie eines deutschen Marxisten (永井清彦訳)  
 ナチズムとスターリニズムへの対決=訳者まえがき  
 1 秘密警察との出遭い 2 解放そしてスターリン主義 3 独裁の終末  
 4 "プラハにパリ・コムニオン!" 5 未完の社会主義 6 "危険な"革命家  
 7 壁のなかの送信機 8 "春"を怖れる社会主義 9 自由は埋葬されるか  
 10 四度目の"招待" 11 政治裁判 12 それでも革命は未来をもつ  
 昭和 46(1971)年 9月 30日 初版発行(河出書房新社)
- 11) 「西ドイツ『過激派』通信」  
 (H-ヴォルム 奥野路介 野村修 好村富士彦 池田浩士著)  
 ・日本の仲間たちに役立ててもらおうためにわたしのドイツ的な頭を整理する試み  
 (Herbert Worm<ヘルベルト・ヴォルム> 池田浩士訳)  
 ・かき消された旅団---<社会主義患者集団>の失跡と痕跡(奥野路介)  
 ・70年代の状況と二人の詩人---Erich Fried<フリート>とツァール(野村修)  
 ・西ドイツ赤軍派の獄中『自殺』と Peter Paul Zahl<P- P-ツァール>  
 ---超高度管理監獄内部の死と詩(好村富士彦)  
 ・表現それ自体が犯罪である領域で---文学的抵抗の伝統と非伝統(池田浩士)  
 昭和 55(1980)年 9月 30日 第1刷発行(田畑書店)

- 12) 「ロンドンの恐怖」切り裂きジャックとその時代(仁賀克雄著)  
 プロローグ 犯行以前  
 第1章 第一の殺人 第2章 第二の殺人 第3章 スコットランド・ヤード  
 第4章 第三の殺人 第5章 第四の殺人 第6章 ジャックの挑戦状  
 第7章 ウォーレン総監辞任 第8章 第五の殺人 第9章 その後の類似事件  
 第10章 切り裂きジャックの正体 第11章 さまざまな容疑者  
 第12章 ジャックの子孫たち 第13章 切り裂きジャック伝説  
 エピローグ 百年後の犯行現場  
 昭和 60(1985)年 6月 30日発行(早川書房)
- 13) 「ユナボマー爆弾魔の狂気」FBI 史上最長 18 年間、全米を恐怖に陥れた男  
 (タイム誌編集記者 ナンシー・ギブス/リチャード・ラカヨ/ランス・モロー/  
 ジル・スモロー/デビッド・ヴァン・ビエマ著)  
 Mad Genius: The Odyssey, Pursuit, and Capture of the Unabomber Suspect  
 by Nancy Gibbs, Richard Lacayo, Lance Morrow, Jill Smolowe and David Van Biema  
 with the editorial staff of TIME Magazine(田村明子訳)  
 平成 8(1996)年 9月 5日初版発行(KK ベストセラーズ)
- 14) 「北欧神話物語」新版(K・クロスリイ-ホランド著)  
 The Norse Myths by Kevin Crossley-Holland (山室静・米原まり子訳)  
 昭和 58(1983)年 10月 20日初版第1刷発行  
 平成 3(1991)年 9月 30日新版第1刷発行  
 平成 10(1998)年 3月 20日新版第11刷発行(青土社)
- 15) 「ナチ戦争犯罪人を追え」(ガイ・ウォルターズ著)  
 Hunting Evil by Guy Walters (高儀進訳)  
 第1章 逃亡 第2章 『地の果てまで』 第3章 『決して忘れぬ男』  
 第4章 鼠を助ける 第5章 オデッサ神話 第6章 『特殊な旅の手配』  
 第7章 至極扱いにくい人物 第8章 隠れる 第9章 アイヒマン  
 第10章 荒っぽい裁き 第11章 『このナチ狩りというもののすべて』  
 第12章 ナチ狩り、その後 平成 24(2012)年 3月 30日発行(白水社)
- 16) 「閉ざされた時空」ナチ強制収容所の文学(篠田浩一郎著) 白水叢書 46  
 第一部 強制収容所のなかで 第1章 外的宇宙としての強制収容所  
 第2章 内的宇宙としての強制収容所 第3章 死と狂気  
 第二部 強制収容所のそとで 第4章 崩壊する宇宙--生き残った人びと  
 第5章 姿なき強制収容所 第6章 現代世界と<強制収容所>  
 補遺 ドイツ強制収容所略史--その成立から第二次大戦まで  
 昭和 55(1980)年 2月 5日発行(白水社)
- 17) 「西ドイツ」ゲルマン気質(NHK 特派員 井手重昭著)  
 1 自然と精神的風土 2 ゲルマン教育 3 マイスター制度 4 学生たち  
 5 ドイツ女性の像 6 市民生活のパターン 7 政治の風土 8 NPD(国家民主党)  
 9 二つの首都 昭和 45(1970)年 11月 25日第1刷発行(日本放送出版協会)
- 18) 「München ミュンヘンの光と影の中で」(小島衛著)  
 ・シュヴァービングの片隅で ・《聖》しこの夜 ・西独の《青年将校》たち  
 ・国境の《神秘劇》と《壁》 ・《壁》の奥の風景 ・愚者の祭り  
 ・ミュンヘンのアメリカ人 ・踊りの群れ ・アドリア海とラロンの墓  
 ・青いりんどろ ・《日本》鑑賞会 ・広場とかわき ・《客人》の風景  
 ・都のぞきの旅 ・犬と子供 ・カプリ島の唄 ・インスタント-浦島太郎  
 ・内緒ばなし ・映画と《戦争記念史跡》 ・二度目の春  
 ・《いとうるわしき五月かな》 ・ツイッター弾きの老人 ・ミュンヘンに《帰る》旅  
 昭和 52(1977)年 11月 30日第1刷発行(PHP 研究所)

- 19) 「ドイツ 傷ついた風景」(足立邦夫著) 新しい文学 11  
 I 生きている「過去」II ドイツの苦悩 III 遅れてきた世代  
 IV 「過去克服」への長い道 V 「東」の局外者 VI 加害者イスラエル  
 VII 13 パーセントの市民 VIII 統一ドイツの行方  
 平成4(1992)年6月5日第1刷発行  
 平成5(1993)年6月18日第2刷発行(講談社)
- 20) 「アウシュヴィッツ収容所」《所長ルドルフ・ヘスの告白遺録》  
 私は人間の尊厳を傷つけた---Kommandant in Auschwitz von Rudolf Höss (片岡啓治訳)  
 第一部 わが魂の告白 1 幼い一匹狼 2 戦争に憧れて 3 義勇軍志願  
 4 獄窓の中で 5 母なる大地へ 6 ナチ親衛隊に帰る 7 非国民との闘い  
 8 アウシュヴィッツ所長となる 9 私は人事を尽した 10 闘い破れて  
 第二部 1 ユダヤ人をどう処理したか 2 ヒムラー隊長と私  
 昭和47(1972)年8月発行(サイマル出版会)
- 21) 「ジャン・パウル ノート」--自我の謎と解明(恒吉法海著)  
 第1章 言語格子の彼方の巨人たち  
 第2章 『ジーベンケース』におけるロマネス  
 第3章 『見えないロジック』における疑似対話  
 第4章 『生意気盛り』における二重奏 第5章 ジャン・パウルにおける三角  
 第6章 『彗星』瞥見 第7章 ジャン・パウル受容の問題  
 第8章 機械的処理によるゲーテとジャン・パウルの文体  
 昭和59(1984)年8月25日発行(九州大学出版会)
- 22) 「<忘却>の文学史」  
 ひとは何を忘れ、何を記憶してきたか(ハラルト・ヴァインリヒ著)  
 Harald Weinrich: Lethe--Kunst und Kritik des Vergessens (中尾光延訳)  
 第1章 言葉のなかの忘却 第2章 人間も忘れれば神もまた忘れる  
 第3章 その性忘れやすき理性の機知 第4章 啓蒙思想と忘却  
 第5章 思い出すのも剣呑、忘れるのも剣呑  
 第6章 忘却の術から湧き出る新たな力 第7章 忘却の詩学  
 第8章 忘れる権利は誰にもある。だが忘却することで安寧が得られるか?  
 第9章 アウシュヴィッツ忘れまじ  
 第10章 コンピュータに蓄えた、すなわち忘れた!  
 平成11(1999)年9月5日発行(白水社)
- 23) 「だれが君を殺したのか」(イリーナ・コルシュノウ作) 新しい文学 11  
 Irina Korschnow: Die Sache mit Christoph (上田真而子訳)  
 昭和58(1983)年5月16日第1刷発行  
 昭和59(1984)年4月20日第4刷発行(岩波書店)
- 24) 「ドイツとドイツ人」(NHK 特派員 加藤雅彦著)  
 第1章 ドイチュラント 第2章 東と西の間で 第3章 歴史的な分裂と分権  
 第4章 変わってきたドイツ人 第5章 ヒトラーと今日のドイツ人  
 第6章 社会主義下のドイツ人 第7章 ベルリンとボン 第8章 競う二つの奇跡  
 第9章 マルクス主義政党・東と西 第10章 ドイツ統一は幻想か  
 昭和51(1976)年6月20日第1刷発行  
 昭和52(1977)年3月20日第4刷発行(日本放送出版協会)
- 25) 「ドイツとの対話」(伊藤光彦著)毎日新聞東京本社外信部  
 ・ドイツとの対話 ・ペンの人物画 ・街角の万華鏡 ・旅へのいざない  
 ・私の世相巷談 ・社会の裏窓から ・ライン河のつぶやき  
 昭和56(1981)年9月25日発行(毎日新聞社)

26) 「現代史ベルリン」(永井清彦著) 朝日選書 246

- 第1章 廃墟にやってきたソ連兵--敗戦直後
  - 第2章 200万人の兵糧責め--1940年代末
  - 第3章 戦車に踏みにじられた労働者の抗議--53年の「6・17事件」のころ
  - 第4章 "普段の出血"を止める壁--61年8月13日とその前後
  - 第5章 "守護者"アメリカへの期待からさめる時--60年代の精神史
  - 第6章 「占領の永続こそ安全」か--70年代以降の奇妙な状況
- 昭和59(1984)年1月20日第1刷発行(朝日新聞社)

27) 「ヨーロッパの森から」

ドイツ民族誌(宮下啓三・福嶋正純・福居和彦著) NHK ブックス 397

- 1 すみれ---春の使者 2 忘れな草---愛の妙薬 3 ゆり---純潔と処女性のシンボル
- 4 菩提樹---神聖な木 5 りんご---女性の愛と美と性のシンボル
- 6 梨---エロチックな表象 7 ブナ---神秘的な力 8 バラ---花の女王 9 樫---森の王
- 10 モミの木---希望の緑 11 小夜啼鳥(ナイチンゲール)---夜の歌姫
- 12 カッコウ---春の代名詞 13 ツバメ---春と幸運を運ぶ鳥
- 14 コウノトリ---暖かい日をもってくる鳥 15 カラス---呪われた魂
- 16 鶏---太陽の象徴 17 蜜蜂---蜜とローソクを与える昆虫 18 狼---特別製の胃袋
- 19 熊---百獣の王 20 ねずみ---運命の糸をかじる 21 蛇---家の守り手
- 22 かえるとひきがえる---人の魂の化身

昭和56(1981)年8月20日第1刷発行

昭和58(1983)年8月1日第6刷発行(日本放送出版協会)

28) 「メルヘン案内」グリム以前・以後(宮下啓三著) NHK ブックス 413

- 第1章 メルヘンとは何か英雄 第2章 合理主義とファンタジー
  - 第3章 道徳的教訓とたわむれ 第4章 世界観になったメルヘン
  - 第5章 現実とのかかわり
  - 第6章 メルヘン・ア・ラ・グリム(グリム風のメルヘン)
  - 第7章 絶望と風刺と虚無 第8章 劇場の舞台の上で
  - 第9章 裏返されたメルヘン 第10章 20世紀の創作メルヘン
  - 第11章 現代のドイツ・メルヘン 終章 ドイツ・メルヘンの特性
- 昭和57(1982)年4月20日第1刷発行(日本放送出版協会)

29) 「ウィリアム・テル伝説」ある英雄の虚実(宮下啓三著)NHK ブックス 348

- 第1章 英雄とは何か--テルは何者か--
- 第2章 テル抜きのスイス史とトコの話--実在しなかったテルとその素性--
- 第3章 那須与一とテル--英雄の条件、英雄化の道程--
- 第4章 だれがテルを必要としたか--テル誕生の動機とテル像の発展--
- 第5章 栄光の頂上に立つテル--シラーによる劇化--
- 第6章 革新の英雄か保守の英雄か--矛盾する性格を負わされて--
- 第7章 歴史からの追放--だが、テルは生きつづける--
- 第8章 英雄の生きにくい時代--20世紀におけるテルの運命--
- 第9章 日本人のテル像--明治時代から現在まで--

昭和54(1979)年7月20日第1刷発行(日本放送出版協会)

30) 「グルッペ四十七史」---ドイツ戦後文学史にかて---(早崎守俊著)

- 前章 1968年8月21日 第1章 ふたつの『デア・ルーフ』
- 第2章 皆伐の文学 ---「グルッペ47」の誕生とその創設期---
- 第3章 文学とジャーナリズム ---成長期の「グルッペ47」---
- 第4章 政治と文学 ---隆盛期の「グルッペ47」---
- 第5章 「文学の死」に向けて ---「グルッペ47」---
- 終章 1977年9月18日 平成1(1989)年12月20日発行(同学社)

- 31) 「おぼれる人生相談」(松浦理英子著) 相談 1~相談 53  
平成 10(1998)年 12 月 25 日初版発行(角川書店)
- 32) 「ポケット・フェティッシュ」  
誘惑、もう一つの欲望世界への(松浦理英子著) 白水 U ブックス  
平成 12(2000)年 7 月 10 日発行(白水社)
- 33) 「神秘の芸術」--リーメンシュナイダーの世界--(植田重雄著) 新潮選書  
I リーメンシュナイダーとその時代 II リーメンシュナイダー紀行  
III 中世ヨーロッパとキリスト教 IV 神秘思想の表現  
昭和 51(1976)年 5 月 20 日発行(新潮社)
- 34) 「グリム兄弟とアンデルセン」(高橋健二著) 東書選書 107  
1 アンデルセンとグリム兄弟との出会い 2 グリム兄弟の生涯  
3 アンデルセンの生涯 4 学級者と作家--著作の比較 5 生の軌跡--愛と孤独  
6 メルヒェンの語り手 7 グリム兄弟と私 8 アンデルセンと私 9 結び  
グリム兄弟とアンデルセンの年表  
昭和 62(1987)年 7 月 1 日第 1 刷発行(東京書籍)
- 35) 「ロマン派からの飛翔」ブレンターノの詩法(エンツェンスベルガー)  
H. M. Enzensberger: Brentanos Poetik (飯吉光夫訳) エピステーメー叢書  
・序 ・研究の基盤と方法 ・悲しむ心の子守歌 ・足萎えの織り工が夢みるるとき  
・荒野の夢 ・病める心から ・ブレンターノの詩的言語の生成  
・ブレンターノと詩の伝統との関わり方 ・詩的および経験的意識  
・ブレンターノの影響と評価 ・詩的言語の歴史におけるブレンターノの位置  
昭和 55(1980)年 9 月 20 日第 1 刷発行(朝日出版社)
- 36) 「ヘルダーリン」(ウルリヒ・ホイサーマン) ロコロ・モノグラフィー叢書  
Ulrich Häussermann: Hölderlin (in rowohlt monographien) (野村一郎訳)  
・故郷 ・母たち ・父たち ・少年 ・反抗者 ・さすらい人 ・学ぶ人  
・仕える人 ・寂静(じゃくじょう) ・年譜 ・証言 ・文献  
昭和 46(1971)年 9 月 20 日発行(理想社)
- 37) 「20 世紀のドイツ語」(ハンス・エガース)  
Hans Eggert: Deutsche Sprache im 20. Jahrhundert (岩崎英二郎訳)  
序論 第 1 章《現代ドイツ語》とは何か 第 2 章 文構造についての統計  
第 3 章 現代の名詞文体 第 4 章 現代の文章語における動詞 第 5 章 語構成  
第 6 章 語彙と語選択 第 7 章 言語と社会 術語対照表  
昭和 50(1975)年 5 月 10 日発行(白水社)
- 38) 「洗練されたドイツ語」その育成の歩み(E. ケルヴェル/ H. ルートヴィヒ)  
Eduard Koelwel / Helmut Ludwig: Gepflegtes Deutsch (乙政潤訳)  
I ドイツ語育成 300 年の歩み  
1) ドイツ語の成立 2) すでに 300 年前に 3) 「ドイツ語の使用と改善」  
4) ゴットシェートからゲーテまで 5) 19 世紀のドイツの詩人と思想家の文体上の影響  
6) 国語育成の使命と限度 7) 全ドイツ国語協会の活動  
II 現代のドイツ語育成  
1) 光るもの必ずしも金ならず 2) 国語育成と国語批判  
3) 核心をつかめば、言葉は流れ出る使用と改善 4) 流行語に背を向けよ  
5) 外来語の是非 6) 短縮語や略語はなくてもすむか  
7) 個別的な表現は一般的な表現にまさる 8) 上手に書くことはむずかしくない  
9) 語から文へ 10) 膨張と冗語に反対 11) 《名詞病》  
12) 最良の忠告：ありのままに書きなさい!  
昭和 52(1977)年 9 月 25 日発行(白水社)

- 39) 「文学部をめぐる病い」 教養主義・ナチス・旧制高校 (高田里恵子著)
- ・ 自覚症状 まず、何が問題なのか ・ 病歴 大政翼賛会文化部と第一高等学校
  - ・ 病源 さらば、東京帝国大学 ・ 自己診断 高学歴者の悲哀
  - ・ 症例 学校小説としての『ビルマの豎琴』
  - ・ 伝染『車輪の下』、あるいは男の証明 ・ 余病 中野孝次、カフカから清貧へ  
平成 13(2001)年 6 月 18 日初版発行  
平成 13(2001)年 8 月 31 日初版第 2 刷発行(松籟社)
- 40) 「荘厳なる詩祭」 死を賭けた青春の群像(松永伍一著)
- ・ 影の詩史のニンフたち ・ 荒淫のはての孤独祭(藤田文江)
  - ・ 悶絶のうた(竹村浩) ・ 花骸の執念(淵上毛銭) ・ 雪と赤旗の葬列(長沢佑)
  - ・ 苦々しき変身(小笠原雄二郎) ・ 嵐のなかの野人(渋谷定輔)
  - ・ 沈む真珠(浜口長生) ・ 非転向の鞭(陀田勘助) ・ 海は凍っていた(長沢延子)
  - ・ 悪魔と美少年(村山槐多) ・ 無声慟哭(宮沢賢治) ・ 消された足跡(大塚甲山)
  - ・ 郷愁の内面(石川啄木) ・ 上州自殺考  
昭和 45(1970)年 11 月 25 日第 1 刷発行  
昭和 47(1972)年 3 月 20 日第 2 刷発行(田畑書店)
- 41) 「群衆---機械のなかの難民」 (松山巖著) 20 世紀の日本 12
- 第 1 章 20 世紀の群衆の貌 第 2 章 「坊ちゃん」たちの怒り  
第 3 章 性急な人々 第 4 章 機械人の群れ 第 5 章 狂える歯車  
第 6 章 消耗品の群れ 第 7 章 摩滅する群れ  
第 8 章 ノリのような建築のなかで  
平成 8(1996)年 10 月 14 日第 1 刷(読売新聞社)
- 42-1) 「独逸文法 接続法の詳細」 (関口存男著)
- 第一篇 形式を主とする概論  
第二篇 意味用法を主とする詳論  
第一章 接続法の本質 第二章 間接話法  
第三章 要求話法 第四章 約束話法  
昭和 18(1943)年 9 月 10 日発行 2000 部(日光書院)
- 42-2) 「独逸文法 接続法の詳細」 (関口存男著)
- Näheres über den Gebrauch des Konjunktivs
- 第一篇 形式を主とする概論  
第二篇 意味用法を主とする詳論  
第一章 接続法の本質 第二章 間接話法  
第三章 要求話法 第四章 約束話法  
昭和 46(1971)年 10 月 15 日第 6 版発行(三修社)
- 43) 「サンダカン八番娼館」 底辺女性史序章(山崎朋子著)
- 1 底辺女性史へのプロローグ 2 偶然の邂逅--天草への最初の旅--  
3 二度目の旅へのためらい 4 おサキさんとの生活  
5 おサキさんの話--ある海外売春婦の生涯-- 6 声なき声をさらに多く  
7 おフミさんの生涯 8 おシモさんの墓 9 おクニさんの故郷  
10 ゲノン・サナさんの家 11 さらば天草  
12 からゆきさんと近代日本--エピローグ--  
昭和 47(1972)年 5 月 25 日初版第 1 刷発行  
昭和 51(1976)年 6 月 20 日初版第 32 刷発行(筑摩書房)
- 44) 「スクール」 (小檜山博著)
- 平成 11(1999)年 3 月 10 日第一刷発行  
平成 18(2006)年 4 月 22 日第二刷発行(集英社)

- 45) 「素顔のスイス」(木村太郎著)  
 I 手づくりの楽園 II フラン上がれば物価が下がる III 物価有事立法  
 IV スーパー・スター「ミグロ」 V 揺るがなかった大黒柱  
 VI 元手なしで稼ぐ法 VII 全方位外交の本音 VIII 戦争は忘れずにやってくる  
 IX 紺屋の白ばかま X "ケチ"こそ美德 XI 生きがいを教える XII 600万の州  
 昭和 55(1980)年 2 月 20 日第 1 刷発行(日本放送出版協会)
- 46) 「物語フィリピンの歴史」  
 「盗まれた楽園」と抵抗の 500 年(鈴木静夫著) 中公新書 1367  
 1 章 フィリピンの歴史を遡上する 2 章 盗まれた楽園  
 3 章 カトリック宣教と原住民 4 章 全民族の抵抗運動へ  
 5 章 中国系メスティーソの勃興と抵抗 6 章 フィリピン革命  
 7 章 アメリカのフィリピン占領 8 章「友愛的同化」の虚と実  
 9 章 1930 年代の民族主義の軌跡  
 10 章 日本軍のフィリピン占領とエリートの"対日協力"  
 11 章 抗日人民軍(フク団)と米比軍ゲリラ  
 12 章 戦後の反政府活動 13 章 ニノイ・アキノとフィリピン政治  
 14 章 マルコス政治と"ピープル・パワー"(人民の力) 革命  
 平成 9(1997)年 6 月 25 日発行(中央公論社)
- 47) 「フィリピン日常会話」ポケット版  
 簡単便利! やさしいタガログ語(山下美知子著)  
 平成 16(2004)年 4 月 1 日発行(日東書院)
- 48) 「フィリピン語文法入門」(大上正直著)  
 Introduksyon sa Gramatikang Filipino(CD 2 枚付き・新装版)  
 平成 15(2003)年 3 月 5 日第 1 刷発行  
 平成 22(2010)年 8 月 30 日第 6 刷発行(白水社)
- 49) 「日本を捨てた男たち」フィリピンに生きる「困窮邦人」(水谷竹秀著)  
 第 1 章 フィリピン人に助けられて 第 2 章 利用された人生  
 第 3 章 逃げ続ける若者 第 4 章 海外で失った自由 第 5 章 掛け違えたボタン  
 平成 23(2011)年 11 月 30 日第一刷発行(集英社)
- 50) 「マニラ通」Master of Manila(日名子暁 Hinaga Akira 著)  
 第 1 章 フィリピン盛り場クルージング 第 2 章 戦後日比交流史  
 第 3 章 日比下半身外交員 第 4 章 またの名を日比親善大使  
 第 5 章 ロイ・青山 第 6 章 フィリピン政治狂想曲  
 第 7 章 標的は日本人!! 第 8 章 マニラ現在形  
 平成 16(2004)年 2 月 23 日第一刷発行(太田出版)
- 51) 「純米酒を極める」(上原浩著) 光文社新書  
 第 1 章 日本酒とは純米酒のことである 第 2 章 純米酒に対する誤解  
 第 3 章 純米吟醸酒を爛にして飲む 第 4 章 米とつくりの重要性  
 第 5 章 酵母の命が酒の強さを生む 第 6 章 誰が日本酒をダメにするのか  
 第 7 章 良い酒販店、飲食店の見分け方 第 8 章 上原流「唎き酒」指南  
 平成 14(2002)年 12 月 20 日初版第 1 刷発行(光文社)
- 52) 「名主の裔」(杉本章子著)  
 ・名主の裔(「別冊文藝春秋」昭和 60 年第 170 新春特別号)  
 ・男の軌跡(「歴史読本」昭和 55 年 4 月号)  
 平成 1(1989)年 5 月 20 日第一刷(文藝春秋)



- 53) 「多摩困民記」(多田茂治著)  
1 旅窓の夢 2 幻の爆裂弾 3 内通の論理 4 流民の墓  
昭和 54(1979)年 8 月 10 日第 1 刷発行(創樹社)
- 54) 「日本文明 77 の鍵」(梅棹忠夫編著) 文春新書 435  
1 群島 2 森林 3 四季 4 世界最古の土器 5 貝塚 6 航海と交易 7 神殿都市 8 米の経済  
9 日本人はどこからきたか 10 征服王朝 11 金属器 12 寺院 13 律令 14 奈良 15 京都  
16 漢字と仮名 17 日本語 18 歌と小説 19 神道 20 神話 21 武士 22 文書 23 城  
24 自由都市 25 マルコ・ポーロ 26 銀 27 朱印船 28 鉄砲 29 江戸 30 将軍 31 交通  
32 藩 33 儒学 34 開発 35 工業 36 町人 37 大阪 38 鎖国 39 長崎 40 趣味 41 旅行  
42 劇場 43 出版 44 教育 45 黒船 46 東京 47 札幌 48 植民地 49 軍隊 50 中央と地方  
51 官僚 52 郵便・電信 53 憲法 54 政治機構 55 家族 56 戦争 57 産業革命 58 労働組合  
59 地震 60 広島 61 洋装 62 テレビ 63 カメラ 64 自動車 65 メカトロニクス 66 家庭  
67 エネルギー 68 コピー 69 交番 70 外交 71 税と福祉 72 ホテル 73 性  
74 子どもと老人 75 高度経済成長時代 76 ニュータウン 77 情報  
平成 17(2005)年 4 月 20 日第 1 刷発行(文藝春秋)
- 55) 「村に吹く風」(山下惣一著) 新潮文庫  
1. れんげの花が消えた 2. 牛肉食いたし、アメリカ憎し  
3. アパートと若衆宿 4. 百姓は少数派。でも、土がある  
平成 1(1989)年 12 月 20 日発行(新潮社)
- 56) 「壁を跳ぶ男」(ペーター・シュナイダー) 白水社世界の文学  
Peter Schneider: Der Mauerspringer (越智和弘・藤代幸一訳)  
昭和 59(1984)年 12 月 5 日発行(白水社)
- 57) Harold Robbins: "Die Spekulanten" Roman (GOLDMANN)  
(Aus dem Amerikanischen von Gerhard Beckmann)  
Genehmigte Taschenbuchausgabe 1997
- 58) 「夢野一族---杉山家三代の軌跡」(多田茂治著)  
序章 杉山家三代の父性 第 1 章 黒田家お伽衆 第 2 章 茂丸立志  
第 3 章 人生泡沫の如し 第 4 章 近衛兵・杉山直樹 第 5 章 香椎・杉山農園  
第 6 章 新聞記者・杉山泰道 第 7 章 夢の久作さん 第 8 章 久作の迷宮世界  
第 9 章 胎児の夢 第 10 章 三人の息子たち  
平成 9(1997)年 5 月 15 日第一版第一刷発行(三一書房)
- 59) 「死刑囚の記録」(加賀乙彦著) 中公新書 565  
第 1 章 ある殺人者との出会い 第 2 章 東京拘置所ゼロ番区  
第 3 章 独房の現実と夢 第 4 章 刹那主義の人びと  
第 5 章 冤罪を主張する人たち 第 6 章 鉄窓の宗教者 第 7 章 死刑囚と無期囚  
昭和 55(1980)年 1 月 25 日初版  
昭和 55(1980)年 4 月 30 日 6 版(中央公論社)
- 60) 「マリーエンバートの悲歌」(マルティン・ヴァルザー)  
Martin Walser: Ein liebender Mann (八木輝明訳)  
平成 24(2012)年 9 月 15 日初版第一刷発行(慶應義塾大学出版会)
- 61) 「さまざまな場所---死の影の都市をめぐる」(ジャン・アメリー)  
Jean Améry: Örtlichkeiten (池内紀訳)  
パート・イシュル--ウィーン ケルン--アントワープ  
ギユール--ブリュッセル チューリヒ--ロンドン パリ 私のドイツ風景  
昭和 58(1983)年 7 月 25 日初版第 1 刷発行(法政大学出版局)

- 62) 「香水---ある人殺しの物語」(パトリック・ジュースキント)  
Patrick Süskind: Das Parfum (池内紀訳)  
昭和 63(1988)年 12 月 15 日 第一刷  
平成 2(1990)年 3 月 10 日 第六刷(文藝春秋)
- 63) 「ユージェント」(ヴォルフガング・ケッペン)  
Wolfgang Koeppen: Jugend (田尻三千夫訳)  
平成 4(1992)年 5 月 25 日 初版発行(同学社)
- 64) 「逃亡する馬」(マルティン・ヴァルザー)  
Martin Walser: Ein fliehendes Pferd (内藤道雄訳)  
昭和 63(1988)年 11 月 1 日 初版発行(同学社)
- 65) 「過去への扉をあけろ」(ハンス=ユルゲン・ペライ)  
Hans-Jürgen Perrey: Zeitzeugen gesucht (酒寄進一訳)  
平成 25(2013)年 2 月 20 日 第一刷発行  
平成 27(2015)年 1 月 20 日 第二刷発行(童話館出版)
- 66) 「鳩」(パトリック・ジュースキント)  
Patrick Süskind: Die Taube (岩淵達治訳)  
平成 1(1989)年 5 月 24 日 初版発行(同学社)
- 67) 「コントラバス」(パトリック・ジュースキント)  
Patrick Süskind: Der Kontrabaß (池田信雄・山本直幸訳)  
昭和 63(1988)年 11 月 1 日 初版発行  
平成 2(1990)年 2 月 20 日 再版発行(同学社)
- 68) 「左ききの女」(ペーター・ハントケ)  
Peter Handke: Die linkshändige Frau (池田香代子訳)  
平成 1(1989)年 11 月 10 日 初版発行  
平成 2(1990)年 2 月 20 日 再版発行(同学社)
- 69) 「龍の血を浴びて」(クリストフ・ハイン)  
Christoph Hein: Der fremde Freund (藤本淳雄訳)  
平成 2(1990)年 10 月 30 日 初版発行(同学社)
- 70) 「蜘蛛の巣」(ヨーゼフ・ロート)  
Joseph Roth: Das Spinnennetz (池内紀訳)  
平成 3(1991)年 10 月 30 日 発行(白水社)
- 71) 「南海の孤島フェルゼンブルク」(ヨハン・ゴットフリート・シュナーベル)  
Johann Gottfried Schnabel: Die Insel Felsenburg (常木実訳)  
昭和 48(1973)年 9 月 初版発行(郁文堂)
- 72) 「輪舞」(アルトゥア・シュニツラー)  
Arthur Schnitzler: Reigen---Zehn Dialoge (岩淵達治訳)  
平成 9(1997)年 7 月 20 日 初版第 1 刷発行(現代思潮社)
- 73) 「秘事 ひじ」(河野多恵子著)  
「新潮」1999 年 7 月号~2000 年 9 月号(2000 年 1 月号は休載)  
平成 12(2000)年 10 月 30 日 発行  
平成 13(2001)年 2 月 10 日 8 刷(新潮社)

- 74) 「回轉扉」(河野多恵子著)  
 昭和 45(1970)年 11 月 20 日発行  
 昭和 46(1971)年 1 月 20 日 3 刷(新潮社)
- 75) 「シュテヒリン湖」(テオドア・フォンターネ)  
 Theodor Fontane: Der Stechlin (立川洋三訳)  
 ・シュテヒリン城 ・ヴッツ修道院 ・「卵小屋」へ  
 ・ラインスベルク=ヴッツの選挙 ・イギリス派遣  
 ・婚約--シュテヒリンへのクリスマス旅行  
 ・婚礼 ・落日 ・とどまれ--死--埋葬--新しい日々  
 昭和 59(1984)年 7 月 10 日発行(白水社)
- 76) 「ドイツの運命」ドイツ・ナチズム文学集成 1  
 Texte deutscher nationalsozialistischer Literatur 編訳者解説(池田浩士)  
 ・ヨーゼフ・ゲッベルス「ミヒャエル--日記が語るあるドイツ的運命」  
 Joseph Goebbels: Michael. Ein deutsches Schicksal in Tagebuchblättern  
 ・ハンス・ハインツ・エーヴェルス「ホルスト・ヴェッセル--あるドイツ的運命」  
 Hans Heinz Ewers: Horst Wessel. Ein deutsches Schicksal  
 平成 13(2001)年 9 月 30 日第 1 刷発行(柏書房)
- 77) 「ファシズムと文学」ヒトラーを支えた作家たち 白水叢書 25(池田浩士著)  
 I 《内面の自由》の軌跡---ヘルマン・シュテール(Hermann Stehr)  
 II 『土地なき民』と民族主義---ハンス・グリム(Hans Grimm)  
 III 歴史小説の問題によせて---E・G・コルベンハイヤー(Erwin Guido Kolbenheyer)  
 IV 叛逆と転向と---アルノルト・ブロンネン(Arnolt Bronnen)  
 V ファシズムとつきあう方法---ハンス・ファラダ(Hans Fallada)  
 昭和 53(1978)年 4 月 10 日発行(白水社)
- 78) 「ドイツ名作集」  
 昭和 42(1967)年 5 月 10 日初版発行(中央公論社) 解説(川村二郎)  
 ・アトランティス物語(ノヴァーリス)  
 Novalis: Das Märchen von Atlantis(高橋英夫訳)  
 ・サント・ドミンゴ島の婚約(クライスト)  
 Heinrich von Kleist: Die Verlobung in St. Domingo(氷上英廣訳)  
 ・スキューデリー嬢(ホフマン)  
 Ernst Theodor Amadeus Hoffmann: Das Fräulein von Scuderi(西義之訳)  
 ・カスペルルとアンネルル(ブレンターノ)  
 Clemens Brentano: Geschichte vom braven Kasperl und dem schönen Annerl(山口四郎訳)  
 ・黒い蜘蛛(ゴットヘルフ) Jeremias Gotthelf: Die schwarze Spinne(田中泰三訳)  
 ・説教壇から撃つ(C・F・マイヤー)  
 Conrad Ferdinand Meyer: Der Schuß von der Kanzel(今井寛訳)  
 ・黒い船(ラーベ) Wilhelm Raabe: Die schwarze Galeere(斉藤栄治訳)  
 ・ブランツィルラ(ハインリヒ・マン) Heinrich Mann: Die Branzilla(渡辺健訳)  
 ・バソンピエール元帥の体験(ホフマンスタール)  
 Hugo von Hofmannstahl: Das Erlebnis des Marschalls von Bassonpiere(川村二郎訳)  
 ・クリスマスの夜(ツックマイヤー)  
 Carl Zuckmayer: Eine Weihnachtsgeschichte(藤本淳雄訳)  
 ・実験(ブレヒト) Bert Brecht: Das Experiment(岩淵達治訳)  
 ・岸辺で(ノサク) Hans Erich Nossack: Am Ufer(野村琢一訳)  
 ・罪なき罪(シャーパー) Edzard Schaper: Unschuld der Sünde(岩崎英二郎訳)
- 79) 「迷宮」(中村文則著)  
 ・迷宮「新潮」2012年1月号 平成 24(2012)年 6 月 30 日発行(新潮社)

80) 「土の中の子供」(中村文則著)

- ・ 土の中の子供「新潮」2005年4月号
- ・ 蜘蛛の声「新潮」2004年1月号 平成17(2005)年7月30日発行(新潮社)

81) 「現代ドイツ幻想小説」

昭和45(1970)年10月13日第一刷発行(白水社)解説(種村季弘)

- ・ タヴィストック・スクエアの犯罪(オスカル・パニッツァ)  
Oskar Panizza: Das Verbrechen in Tavistock-Square(種村季弘訳)
- ・ 億万長者ラコックス(パウル・シューアバルト)  
Paul Scheerbar: Rakkóx der Billionär(前川道介訳)
- ・ チンデレッラ博士の植物(グスタフ・マイリンク)  
Gustav Meyrink: Die Pflanzen des Dr. Cinderella(種村季弘訳)
- ・ 拍手喝采(ローベルト・ヴァルザー) Robert Walser: Oration(丸山匠訳)
- ・ 散歩(ローベルト・ヴァルザー) Robert Walser: Spaziergang(丸山匠訳)
- ・ ある流刑地の話(フランツ・カフカ) Franz Kafka: In der Strafkolonie(本野亨一訳)
- ・ 黒つぐみ(ローベルト・ムージル) Robert Musil: Die Amsel(川村二郎訳)
- ・ 海から来た少年(ハンス・エーリヒ・ノサク)  
Hans Erich Nossack: Der Jüngling aus dem Meer(丸山匠訳)
- ・ 巨人(クルト・クーゼンベルク) Kurt Kusenberg: Der Riese(前川道介訳)
- ・ 裸の男(クルト・クーゼンベルク) Kurt Kusenberg: Der nackte Mann(前川道介訳)
- ・ 休まない弾丸(クルト・クーゼンベルク)  
Kurt Kusenberg: Die ruhelose Kugel(前川道介訳)
- ・ 窓の前の原始時代(マヌエル・ヴァン・ログゲム)  
Manuel van Loggem: Die Urzeit vor dem Fenster(種村季弘訳)
- ・ 故障(フリードリヒ・デュレンマット) Friedrich Dürrenmatt: Die Panne(岩淵達治訳)
- ・ 怪談(マリー・ルイーゼ・カシュニッツ)  
Marie Luise Kaschnitz: Gespenster(前川道介訳)
- ・ 山中の対話(パウル・ツェラン) Paul Celan: Gespräch im Gebirg(飯吉光夫訳)
- ・ 鏡の迷路(ハインリヒ・シルムベック)  
Heinrich Schirmbeck: Das Spiegellabyrinth(前川道介訳)
- ・ わたしの緑色の驢馬(イルゼ・アイヒンガー)  
Ilse Aichinger: Mein grüner Esel(飯吉光夫訳)
- ・ ある地理を思いだそうとする試みの失敗(ハンス・カール・アルトマン)  
Hans Carl Artmann: Verfehltes unterfangen sich einer geographie zu erinnern(川村二郎訳)
- ・ 空想(ゲルハルト・フリッチェ) Gerhard Fritsch: Die Vorstellung(丸山匠訳)

82) 「スイス二十世紀短編集」

昭和52(1977)年11月20日初版発行(早稲田大学出版部)

解説 スイス文学の特質について トーマス・インモース(石井不二雄訳)

Thomas Immoos: Die Eigenart der Schweizer Literatur

- ・ 蛇の話(C・J・ブルクハルト)  
Carl Jacob Burckhardt: Schlangengeschichte(石井不二雄訳)
- ・ 雪崩(M・イングリーン) Meinrad Inglin: Die Lawine(中村浩三訳)
- ・ 散歩(R・ヴァルザー) Robert Walser: Der Spaziergang(渡辺勝訳)
- ・ 町(F・デュレンマット) Friedrich Dürrenmatt: Die Stadt(小島康男訳)
- ・ ナポリ人(A・ツォリンガー) Albin Zollinger: Der Napolitaner(小林貴美子訳)
- ・ ドイツ娘のスイス訪問(A・ムシュク)  
Adolf Muschg: Besuch in der Schweiz(宮下啓三訳)
- ・ ほんとうはブルーム夫人は牛乳屋さんを知り合いになりたいのだ(P・ビクセル)  
Peter Bichsel: Eigentlich möchte Frau Blum den Milchmann kennenlernen(牧幸一訳)
- ・ コーヒー六杯で(R・ブランバッハ)  
Rainer Brambach: Für sechs Tassen Kaffee(小林貴美子訳)

### 83) 「世界短編名作選・ドイツ編」

昭和 52(1977)年 8 月 30 日初版発行 (新日本出版社) 解説 (佐藤静夫)

- ・ノヴェレ (伝奇) (ゲーテ) Johann Wolfgang von Goethe: Novelle (道家忠道訳)
- ・汚名をきせられた末の犯罪人-ひとつの実話 (シラー)  
Friedrich Schiller: Der Verbrecher aus verlorener Ehre-Eine wahre Geschichte (川口浩訳)
- ・サント・ドミンゴ島での婚約 (H・クライスト)  
Heinrich von Kleist: Die Verlobung in St. Domingo (川口浩訳)
- ・ローランス嬢物語(フローレンス夜話より) (ハイネ)  
Heinrich Heine: Die Geschichte von Mademoiselle Lawrence  
(aus den Florentinischen Nächten) (井上正蔵訳)
- ・山番小屋の一夜 (ヘッベル) Friedrich Hebbel: Eine Nacht im Jägerhause (川口浩訳)
- ・幸運の鍛冶屋 (ケラー) Gottfried Keller: Der Schmied seines Glückes (中野和朗訳)
- ・マーリオと魔術師 (トーマス・マン)  
Thomas Mann: Mario und der Zauberer (佐藤静夫訳)
- ・黒いオーストラリア (キッシュ)  
Egon Erwin Kisch: Landung in Australien- Reportagebuch (北条元一訳)
- ・ジュール (ヴォルフ) Friedrich Wolf: Jule (北条元一訳)
- ・野獣 (ブレヒト) Bertold Brecht: Die Bestie (井上正蔵訳)
- ・マルガレーテ・ヴォルフの四十年 (ゼーガース)  
Anna Segers: Die vierzig Jahre von Margarethe Wolff (新村浩訳)
- ・ベルリンのアンティゴネー (ホーホフト)  
Rolf Hochhut: Die Berliner Antigone (小西悟訳)

### 84) 「ドイツ短編 24」 Moderne deutsche Erzählungen

昭和 46(1971)年 11 月 10 日発行(集英社) ドイツの短篇小説 (川村二郎)

- ・暦物語 (ヘーベル) Johann Peter Hebel: Kalendergeschichten (川村二郎訳)
- ・拾い子 (クライスト) Heinrich von Kleist: Der Findling (中田美喜訳)
- ・秋の惑わし--一つのメールヘン-- (アイヒェンドルフ)  
Joseph von Eichendorff: Die Zauberei im Herbst (高橋英夫訳)
- ・狂ってゆくレンツ (ビューヒナー) Georg Büchner: Lenz (手塚富雄訳)
- ・死人に口なし (シュニッツラー) Arthur Schnitzler: Die Toten schweigen (岩淵達治訳)
- ・バソムピエール元帥綺譚 (ホフマンスタール)  
Hugo von Hofmannstahl: Das Erlebnis des Marschalls von Bassompierre (福田宏年訳)
- ・ユリアン (カスナー) Rudolf Kassner: Julian (円子修平訳)
- ・ある愛の物語 (ハインリヒ・マン) Heinrich Mann: Eine Liebesgeschichte (佐藤晃一訳)
- ・駅長ファルメライアー (ロート) Joseph Roth: Stationschef Fallmerayer (渡辺健訳)
- ・誕生日 (ベン) Gottfried Benn: Der Geburtstag (飯吉光夫訳)
- ・狂人 (ハイム) Georg Heym: Der Irre (飯吉光夫訳)
- ・ホテルの階段 (ヴェルフエル) Franz Werfel: Die Hotelterre (小栗浩訳)
- ・トゥーンのクライスト (ヴァルザー) Robert Walser: Kleist in Thun (城山良彦訳)
- ・断食芸人 (カフカ) Franz Kafka: Ein Hungerkünstler (城山良彦訳)
- ・ポルトガルの女 (ムージル) Robert Musil: Die Portugiesin (福田宏年訳)
- ・ささやかな幻滅 (ヘルマン・ブロッホ)  
Hermann Broch: Eine leichte Enttäuschung (松本道介訳)
- ・マルス (ランゲッサー) Elisabeth Langgässer: Mars (渡辺健訳)
- ・北極星と牝虎 (ヤーン) Hans Henny Jahnn: Polarstern und Tigerin (種村季弘訳)
- ・カサンドラ (ノサック) Hans Erich Nossack: Cassandra (小栗浩訳)
- ・縛られた男 (アイヒンガー) Ilse Aichinger: Der Gefesselte (高本研一訳)
- ・ぼくの緑の芝生 (グラス) Günter Grass: Meine grüne Wiese (高本研一訳)
- ・郵便屋シュヴァルの大いなる夢 (ヴァイス)  
Peter Ulrich Weiss: Der große Traum des Briefträgers Cheval (種村季弘訳)
- ・薄暗がり愛する男 (アンデルシュ)  
Alfred Andersch: Ein Liebhaber des Halbschattens (高本研一訳)
- ・ベーレンドルフ (ボブロウスキ) Johannes Boprowski: Boehlendorff (藤川芳朗訳)

85) 「表現主義の小説 ドイツ表現主義 2」

昭和 46(1971)年 4 月 5 日初版発行 (河出書房新社) 編者責任 (前田敬作)

- ・若い作家たちに (クルト・ピントゥス)  
Kurt Pinthus: Rede an junge Dichter (幅健志訳)
- ・息子 (ハインリヒ・マン) Heinrich Mann: Der Sohn (小島衛訳)
- ・医師レンネ(脳髄) (ゴットフリート・ベン)  
Gottfried Benn: Doktor Rönne (Gehirne) (高安国世訳)
- ・モナ・リーザ泥棒 (ゲオルク・ハイム) Georg Heym: Der Dieb (本郷義武訳)
- ・たんぽぽ殺し (アルフレート・デープリーン)  
Alfred Döblin: Die Ermordung einer Butterblume (早崎守俊訳)
- ・ナポレオン (カール・シュテルンハイム) Carl Sternheim: Napoleon (大山定一訳)
- ・小市民の死 (フランツ・ヴェルフエル)  
Franz Werfel: Der Tod des Kleinbürgers (谷友幸訳)
- ・死の五月 (カージミル・エートシュミット)  
Kasimir Edschmid: Der tödliche Mai (小島衛訳)
- ・愛しき二人 (レーオンハルト・フランク) Leonhard Frank: Das Liebespaar (小岸昭訳)
- ・マンハッタン・ガール (ローベルト・ミュラー)  
Robert Müller: Manhattan Girl (岩橋保訳)
- ・トゥブツチュ (アルベルト・エーレンシュタイン)  
Albert Ehrenstein: Tubutsch (吉村博次訳)
- ・ベビュカン (カール・アインシュタイン)  
Carl Einstein: Bebuquin oder die Dilettanten des Wunders (土肥美夫訳)
- ・アテネの丘にたつ少女たち (ルネ・シッケレ)  
René Schickele: Die Mädchen über Athen (飛鷹節訳)
- ・あるアカデミーへの報告 (フランツ・カフカ)  
Franz Kafka: Ein Bericht für eine Akademie (前田敬作訳)
- ・蠅とり紙 (ローベルト・ムシル) Robert Musil: Das Fliegenpapier (西井武訳)
- ・変転 (リヒアルト・ヒュルゼンベック)  
Richard Hülsenbeck: Verwandlungen (田口義弘訳)
- ・黒・白・赤 (ミュノーナ) Mynona: Schwarz-Weiss-Rot (前川道介訳)

86) 「現代ドイツ短編集」 ドイツ民主共和国の作家たち Anthologie; Prosa der DDR

昭和 55(1980)年 8 月 20 日第一版発行 (三修社) 解説 (長橋芙美子)

- ・まえがき (ハンス--ユルゲン・ゲールツ) Hans Jürgen Geerts: Vorwort (林睦美訳)
- ・決闘 (アンナ・ゼーガース) Anna Seghers: Das Duell (道家忠道訳)
- ・岩石 (エルヴィーン・シュトリットマター) Erwin Strittmatter: Der Stein (八木浩訳)
- ・女司令官 (シュテファン・ヘルムリー)  
Stephan Hermlin: Die Kommandeuse (杉浦実訳)
- ・一枚の絵をまえに (ヨハネス・ブラウスキー)  
Johannes Bobrowski: Betrachtung eines Bildes (神崎巖訳)
- ・ぼくの最終飛行 (フランツ・フューマン)  
Franz Fühmann: Mein letzter FlugDer Irre (山下茂訳)
- ・どこからどこへ (ヘルマン・カント) Hermann Kant: Kommen und Gehen (辻善夫訳)
- ・大洪水 (ギュンター・クーネルト) Günter Kunert: Sintflut (古沢謙次訳)
- ・配達無料! (ギュンター・クーネルト) Günter Kunert: Lieferung frei Haus (古沢謙次訳)
- ・現代版・牡猫の見解 (クリスタ・ヴォルフ)  
Christa Wolf: Neue Lebensansichten eines Katers (神品友子訳)
- ・祖父物語 (ハイナー・ミュラー) Heiner Müller: Bericht vom Großvater (岸繁一訳)
- ・父 (ハイナー・ミュラー) Heiner Müller: Der Vater (岸繁一訳)
- ・私たちの生活の三日間 (エーリク・ノイチュ)  
Erik Neutsch: Drei Tage unseres Lebens (本多顕英訳)
- ・未完の物語 (フォルカー・ブラウン)  
Volker Braun: Unvollendete Geschichte (浅岡泰子訳)

87) 「エルベは流れる--東ドイツ短編集」 Erzählungen aus der DDR

平成4(1992)年4月20日初版発行 刊行委員会編(同学社) 解説(東憲二)

- ・恋物語・他(ハイナー・ミュラー) Heiner Müller: Liebesgeschichte u.a. (市川明訳)
- ・最後のひとりまで(カール・ムントシュトック)  
Karl Mundstock: Bis zum letzten Mann (東憲二訳)
- ・使命(ボード・ウーゼ) Bodo Uhse: Die Aufgabe (松下亮訳)
- ・ひと工夫あり(エーリク・ノイチュ) Erik Neutsch: Ein Ding gedreht (中村采女訳)
- ・失われた部族の帰還(アンナ・ゼーガース)  
Anna Seghers: Die Heimkehr des verlorenen Volkes 「宮崎ドイツ・フロインデ」のメンバー(レナーテ・ドート、太田守人、河野富士夫、河野正子、中村孔治、中村智子、藤山禎子、三輪佳見、山下尚美)の共同翻訳
- ・シュルツェンホーフのごたまぜカレンダー・他(エルヴィーン・シュトリットマター)  
Erwin Strittmatter: Aus; Schulzenhofer Kramkalender u. a. (山下しげる訳)
- ・六月の午後(クリスタ・ヴォルフ) Christa Wolf: Juninachmittag (神品友子訳)
- ・ぼくの友人たち(フリッツ・ルードルフ・フリース)  
Fritz Rudolf Fries: Beschreibung meiner Freunde (津村正樹訳)
- ・ベッティナーは野生の水仙を摘む(パウル・ヴィーンズ)  
Paul Wiens: Bettina pflückt wilde Narzissen (南守夫訳)
- ・鏡は語る(フランツ・フューマン) Franz Fühmann: Spiegelgeschichte (池田紘一訳)
- ・私は再婚した(クリスティアーネ・ヴォルター)  
Christine Wolter: Ich habe wieder geheiratet (勝又洋子訳)
- ・ボレロ(ヘルガ・ケーニヒスドルフ) Helga Königsdorf: Bolero (高木美枝子訳)
- ・山小屋(クリスタ・ミュラー) Christa Müller: Die Hütte (嘉野隆太訳)
- ・軟禁(ギュンター・デ・ブロイン) Günter de Bruyn: Freiheitsberaubung (川副富男訳)
- ・リストラタス(シュテファン・ハイム) Stefan Heym: Lysistratus (貫橋宣夫訳)
- ・花嫁の首飾り(ユリイ・ブリザン) Jurij Brezan: Der Brautschmuck (池田利紀訳)
- ・ベルリンの街のアルバムから(クリストフ・ハイン)  
Christoph Hein: Aus; Ein Album Berliner Stadtgeschichten (福元圭太訳)
- ・禁じられた部屋(ヘルガ・シューベルト)  
Helga Schubert: Das verbotene Zimmer (松本ヒロ子訳)
- ・ザルツブルクの殺人(シュテファン・ヘルムリー)  
Stephan Hermlin: Ein Mord in Salzburg (杉浦実訳)
- ・青銅の時代(ヘルマン・カント) Hermann Kant: Bronzezeit (酒井府訳)
- ・底なしの文(フォルカー・ブラウン) Volker Braun: Bodenloser Satz (森川信一郎訳)

88) 『やむを得なかった歴史』

狂信の時代・ドイツ作品群(1) 1933-1938 (M・ライヒ=ラニッキー編)

Notwendige Geschichten 1933-1945, Herausgegeben von Marcel Reich=Ranicki

- ・心臓縫合(エルンスト・ヴァイス) Ernst Weiss: Die Herznaht (内海晶訳)
- ・去りゆく雲(ヘルマン・ブロッホ)  
Hermann Broch: Vorüberziehende Wolke (土岐恒二訳)
- ・マレージ(A・レルネート=ホレーニア) Alexander Lernet-Holenia: Maresi (宮原朗訳)
- ・ネッカー河畔の薬屋(エルンスト・グレーザー)  
Ernst Glaeser: Die Apotheke am Neckar (好村富士彦訳)
- 1934・白いダリア(E・ラスカー=シューラー)  
Else Lasker-Schüler: Die weiße Georgine (川村二郎訳)
- ・リゼロッテの臨終(アグネス・ミーゲル)  
Agnes Miegel: Liselottes letzte Stunde (丸山匠訳)
- 1935・俳優(オスカー・イエリネック) Oskar Jelinek: Der Schauspieler (滝内楨雄訳)
- ・陶器でこしらえた女(ハイミート・ドーデラー)  
Heimito von Doderer: Eine Person von Porzellan (種村季弘訳)
- 1936・僧正の金羊皮(ヴィルヘルム・シェーファー)  
Wilhelm Schäfer: Das Goldene Vlies des Kirchenrates (滝内楨雄訳)

- ・似て似ぬ姉・妹 (シュテファン・ツヴァイク)  
Stefan Zweig: Die gleich-ungleichen Schwestern (鈴木武樹訳)
- ・工兵シャメス (アルノルト・ツヴァイク)  
Arnold Zweig: Schipper Schammes (好村富士彦訳)
- ・過去の迷路 (アルビン・ツォリンガー)  
Albin Zollinger: Labyrinth der Vergangenheit (中野孝次訳)
- ・エル・グレコ大審問官を描く (シュテファン・アンドレス)  
Stefan Andres: El Greco malt den Großinquisitor (好村富士彦訳)
- ・ある農婦の死 (アルブレヒト・ゲース)  
Albrecht Goes: Das Sterben der Bäuerin (内海晶訳)
- 1937 ・三つの靴をもった男 (F・ヘルツマノフスキー＝オルランド)  
Fritz von Herzmanovsky-Orland: Der Mann mit drei Schuhen (三城満禧訳)
- 1938 ・真珠 (R・G・ビンディング) Rudolf G. Binding: Die Perle (三光長治訳)
- ・犠牲の炎 (G・ル・フォール) Gertrud von le Fort: Die Opferflamme (横塚祥隆訳)
- ・愛ゆえに (フランツ・ヴェルフェル) Franz Werfel: Par l'amour (高本研一訳)
- あとがき (M・ライヒ＝ラニッキー) Marcel Reich=Ranicki: Nachwort (中野孝次訳)

## 89) 『おおわれた世代』

- 狂信の時代・ドイツ作品群(Ⅱ) 1938-1945 (M・ライヒ＝ラニッキー編)  
Notwendige Geschichten 1933-1945, Herausgegeben von Marcel Reich=Ranicki  
昭和44(1969)年10月1日第一刷(学芸書林)
- 1938 ・アルテミス伝説 (アンナ・ゼーガース)  
Anna Seghers: Sagen von Artemis (大久保健治訳)
- ・ネブラスカの雪 (ヨアヒム・マース)  
Joachim Maass: Der Schnee von Nebraska (丸山匠訳)
- 1939 ・バイエルンのいところ (ゲオルク・ブリッティング)  
Georg Britting: Die Base aus Bayern (三城満禧訳)
- ・詩人のあたま (ヴェルナー・ベルゲングリュン)  
Werner Bergengruen: Der Kopf (丸山匠訳)
- ・酔いどれ聖譚 (ヨーゼフ・ロート)  
Joseph Roth: Die Legende vom heiligen Trinker (内海晶訳)
- ・マルクウスの決意 (ローベルト・ノイマン) Robert Neumann: Marcus (高辻知義訳)
- ・手負いのソクラテス (ベルトルト・ブレヒト)  
Bertolt Brecht: Der Verwundene Sokrates (大久保健治訳)
- 1940 ・モンブール伍長 (エルンスト・ペンツォルト)  
Ernst Penzoldt: Korporal Mombour (宮原朗訳)
- ・調査 (クルト・クーゼンベルク) Kurt Kusenberg: Ordnung muß sein (内海晶訳)
- 1941 ・無用の飼育者 (ハンス・ヘニー＝ヤーン)  
Hans Henny Jahnn: Der fremde Züchter (種村季弘訳)
- 1942 ・雪の中の財布 (レギーナ・ウルマン)  
Regina Ullmann: Der ehrliche Dieb (大久保健治訳)
- ・コック大佐 (ヘルマン・ケステン) Hermann Kesten: Oberst Kock (鈴木武樹訳)
- 1943 ・外套 (アルフレート・ポルガー) Alfred Polgar: Der Mantel (飯吉光夫)
- ・フルゲル (マインラート・イングリエン) Meinrad Inglin: Die Furggel (三城満禧訳)
- ・バンツでの冒険 (オイゲン・ロート) Eugen Roth: Abenteuer in Banz (横塚祥隆訳)
- ・詩篇第九十四番 (フリードリヒ・トールベルク)  
Friedrich Torberg: Der 94. Psalm (宮原朗訳)
- 1944 ・刀の刃渡り (ハインツ・リッセ) Heinz Risse: Der schmale Grat (三島憲一訳)
- ・モスクワの丘陵に立って (ホルスト・ランゲ)  
Horst Lange: Auf den Hügeln vor Moskau (丸山匠訳)
- 1945 ・情事 (ヨーゼフ・ヴァインヘーバー)  
Josef Weinheber: Das Verhältnis (三城満禧訳)
- ・ドアからドアへ (フリード・ラムペ) Friedo Lampe: Von Tür zu Tür (高辻知義訳)



## 90) 『創られた真実』

- 狂信の時代・ドイツ作品群(Ⅲ) 1945-1957 (M・ライヒ＝ラニッキー編)  
Erfundene Wahrheit 1945-1957, Herausgegeben von Marcel Reich=Ranicki  
Erfundene Wahrheit-Deutsche Geschichten seit 1945  
昭和44(1969)年11月30日第一刷(学芸書林) 解説(中野孝次)
- 1945・ある愛の物語(ハインリヒ・マン)  
Heinrich Mann: Eine Liebesgeschichte(佐藤晃一訳)
- 1946・子供の目で(エルンスト・ペンツォルト)  
Ernst Penzoldt: Mit Kindesaugen(宮原朗訳)  
・パン(ヴォルフガング・ボルヒェルト) Wolfgang Borchert: Das Brot(高本研一訳)
- 1947・シーズンのはじまり(エリーザベト・ランゲッサー)  
Elisabeth Langgässer: Saisonbeginn(横塚祥隆訳)  
・アンドラのユダヤ人(マックス・フリッシュ)  
Max Frisch: Der andorranische Jude(中野孝次訳)  
・バンコックまで百時間(エルンスト・シュナーベル)  
Ernst Schnabel: Hundert Stunden vor Bangkok(三島憲一訳)
- 1948・青いスワン(ボード・ウーゼ)  
Bodo Uhse: Reise in einer blauen Schwan(大久保健治訳)  
・大風(クルト・クーゼンベルク) Kurt Kusenberg: Der große Wind(内海晶訳)
- 1949・衣装箆笥の中の友人(ハルマン・ケステン)  
Hermann Kesten: Der Freund im Schrank(鈴木武樹訳)  
・アルカディアの悲劇(シュテファン・ヘルムーリン)  
Stephan Hermlin: Arkadien(丸山匠訳)
- 1950・ラジオ(イナ・ザイデル)  
Ina Seidel: Jemand erwarb ein Empfangsgerät(高辻知義訳)  
・ラーヴェンスブリュックの兄妹(F・C・ヴァイスコプフ)  
Franz Carl Weiskopf: Die Geschwister von Ravensbrück(高辻知義訳)  
・旅人よもしスパ-----へくることあらば(ハインリヒ・ベル)  
Heinrich Böll: Wanderer, kommst du nach Spa.....(中野孝次訳)
- 1951・校正(ヨハンネス・R・ベッヒャー)  
Johannes Robert Becher: Die Korrektur(内海晶訳)  
・碑(ハンス・E・ノサク) Hans Erich Nossack: Das Mal(飯吉光夫訳)
- 1952・野猪狩り(エルンスト・ユンガー) Ernst Junger: Die Eberjagt(圓子修平訳)  
・クサンティッペの弁明(シュテファン・アンドレス)  
Stefan Andres: Die Verteidigung der Xanthippe(三城満禧訳)  
・ある世界の終末(ヴォルフガング・ヒルデスハイマー)  
Wolfgang Hildesheimer: Das Ende einer Welt(高辻知義訳)  
・トンネル(フリードリッヒ・デュレンマット)  
Fridrich Dürrenmatt: Der Tunnel(種村季弘訳)  
・鏡の話(イルゼ・アイヒンガー) Ilse Aichinger: Spiegelgeschichte(高本研一訳)
- 1953・アルゴ船(アンナ・ゼーガース)  
Anna Seghers: Das Argonautenschiff(大久保健治訳)
- 1954・私が斃した男(ゲルト・ガイザー)  
Gerd Gaiser: Der Mensch, den ich erlegt hatte(種村季弘訳)  
・風船を一度手放してみたかった男(ヘルベルト・アイゼンライヒ)  
Herbert Eisenreich: Luftballons, um sie losenlassen(好村富士彦訳)  
・わが方法に苦情は募る(マルチーン・ヴァルザー)  
Martin Walser: Die Klagen über meine Methoden häufen sich(鈴木武樹訳)
- 1955・無気味なもの(マックス・ブロート) Max Brot: Das Unheimliche(種村季弘訳)
- 1956・パン当番(ハンス・ベンダー) Hans Bender: Der Brotholer(滝内楨雄訳)  
・闇の中の声(ホルスト・ビーネク) Horst Bienek: Stimmen im Dunkel(鈴木武樹訳)
- 1957・ある事故(オットー・F・ヴァルター)  
Otto F. Walter: Ein Unglücksfall(丸山匠訳)  
あとがき(M・ライヒ＝ラニッキー) Marcel Reich=Ranicki:Nachwort(中野孝次訳)

91) 「ウィーン--聖なる春--ドイツの世紀末 第一巻」

昭和 61(1986)年 9月 22 日初版第一刷発行

昭和 62(1987)年 12月 20 日初版第二刷発行(国書刊行会) 編者 (池内紀)

- ・ ファニィ・エルスラーの足 (シュパイデル)  
Ludwig Speidel: Fanny Elblers Fuß (原研二訳)
- ・ 皇帝、ひそかに窓をあける (ロート)  
Joseph Roth: Aus "Radetzkymarsch". Der farbenvolle Untergang (中居実訳)
- ・ 1880 年前後、ウィーンの陽気な黙示録 (ブロッホ)  
Hermann Broch: Die fröhliche Apokalypse Wiens um 1880. (原研二訳)
- ・ リング通り (バール) Hermann Bahr: Die Ringstraße (須永恒雄訳)
- ・ ヨハン・シュトラウス (ハンスリック) Eduard Hanslick: Johann Strauß (須永恒雄訳)
- ・ 聖なる春 (ヘヴェジィ) Ludwig Hevesi: Ver Sacrum (中居実訳)
- ・ とりこわされた文学 (クラウス) Karl Kraus: Die demolierte Literatur (原研二訳)
- ・ エイジ・オヴ・イノセンス (ホフマンスタール)  
Hugo von Hoffmannsthal: Age of Innocence (檜山哲彦訳)
- ・ 認識の苑 (アンドリアン) Leopold Andrian: Der Garten der Erkenntnis (檜山哲彦訳)
- ・ 現実には何も (ベアー=ホフマン)  
Richard Beer-Hofmann: Nichts geschah wirklich (原研二訳)
- ・ この時代 (バール) Hermann Bahr: Die Moderne (須永恒雄訳)
  
- ・ クリムト展について (ヘヴェジィ) Ludwig Hevesi: Zur Klimt-Ausstellung (中居実訳)
- ・ ウィーン工房の作業プログラム (ヨーゼフ・ホフマン)  
Josef Hofmann: Das Arbeitsprogramm der Wiener Werkstätte (中居実訳)
- ・ オペラ座のジークフリート--グスタフ・マーラーについて (クラウス)  
Karl Kraus: Siegfried im Opernhaus (原研二訳)
- ・ ホフマンスタールへの手紙 (シュニッツラー)  
Arthur Schnitzler: Brief an Hugo von Hoffmannsthal (原研二訳)
- ・ あるユダヤ雑誌--ユダヤ人の週刊誌「世界」について (ヘルツル)  
Theodor Herzl: Ein Judenblatt (中居実訳)
- ・ ウィーンの反ユダヤ主義 (シュニッツラー)  
Arthur Schnitzler: Antisemitismus in Wien (原研二訳)
- ・ 十年 (バール) Hermann Bahr: Zehn Jahre (須永恒雄訳)
- ・ 夢の死 (ホフマンスタール) Hugo von Hoffmannsthal: Traumtod (檜山哲彦訳)
- ・ 痴人と死 (ホフマンスタール)  
Hugo von Hoffmannsthal: Der Tor und der Tod (檜山哲彦訳)
- ・ エロスと女について (クラウス) Karl Kraus: Weib, Eros (池内紀訳)
- ・ 現実と性 (ヴァイニンガー) Otto Weininger: Realität und Geschlecht (中居実訳)
- ・ デカダンス (バール) Hermann Bahr: Die Décadence (須永恒雄訳)
- ・ 意志を病んだ男の日記--アミエル「内面の日記抄」(ホフマンスタール)  
Hugo von Hoffmannsthal: Das Tagebuch eines Willenkranken (檜山哲彦訳)
- ・ 手紙 (ホフマンスタール) Hugo von Hoffmannsthal: Ein Brief (檜山哲彦訳)
  
- ・ 自己分析--ヴィルヘルム・フリース宛ての手紙 (フロイト)  
Sigmund Freud: Selbstanalyse (須永恒雄訳)
- ・ シュニッツラーへの手紙 (フロイト)  
Sigmund Freud: Brief an Arthur Schnitzler (須永恒雄訳)
- ・ ジョーゼフ・カインツ (ロタール) Rudolf Lothar: Josef Kainz (檜山哲彦訳)
- ・ エレオノーラ・ドゥーゼ--ウィーン、一週間の伝説 (ホフマンスタール)  
Hugo von Hoffmannsthal: Eleonora Duse (檜山哲彦訳)
- ・ グスタフ・マーラー (シェーンベルク)  
Arnold Schönberg: Rede auf Gustav Mahler (須永恒雄訳)
- ・ 進歩 (クラウス) Karl Kraus: Fortschritt (原研二訳)

- ・ベーゼンドルファー・ホールの伝説 (ブラウン・プラーガー)  
Käthe Braun-Prager: Die Legende von Bösendorfersaal (原研二訳)
- ・帰国者の手紙 (ホフマンスタール)  
Hugo von Hoffmannsthal: Die Briefe des Zurückgekehrten (檜山哲彦訳)
- ・支那の長城 (クラウス) Karl Kraus: Die Chinesische Mauer (原研二訳)
- ・世界観としての安逸 (シェーンベルク)  
Arnold Schönberg: Komfort als Weltanschauung (檜山哲彦訳)
- ・教師としてのシェーンベルク (ベルク)  
Alban Berg: Schönberg als Lehrer (須永恒雄訳)
- ・フーゴー・ヴォルフ (シャルク) Joseh Schalk: Hugo Wolf (須永恒雄訳)
- ・幻視の性質について (ココシュカ)  
Oskar Kokoschka: Von der Natur der Gesichte (中居実訳)
- ・エゴン・シーレ (ギュータースロー) Albert Paris Gühtersloh: Egon Schiele (池内紀訳)
- ・エンペドクレス--冒険家の第三の喩え話 (カスナー)  
Rudolf Kassner: Empedokles (須永恒雄訳)
- ・即死者収容所 (クービン) Alfred Kubin: Halle für plötzliche Verstorbene (檜山哲彦訳)
- ・夢の地の旅 (クービン) Alfred Kubin: Fahrt durch das Traumreich (檜山哲彦訳)
- ・ハイエナの歌--「人類最期の日々」より (クラウス)  
Karl Kraus: Aus "Die letzten Tage der Menschheit" (池内紀訳)
- ・カカーニエン (ムージル)  
Robert Musil: Kakanien, aus "Der Mann ohne Eigenschaften" (須永恒雄訳)
- ・ウィーン--「さまざまな場所」より (アメリー)  
Jean Améry: Wien, aus "Örtlichkeiten" (池内紀訳)

## 92) 「プラハ--ヤヌスの相貌--ドイツの世紀末 第二巻」

昭和 61 (1986) 年 12 月 15 日初版第一刷発行 (国書刊行会)  
編訳者 (平田達治・平野嘉彦)

- ・古きプラハのさまざまの秘密 (ハース)  
Willy Haas: Aus; Die Literarische Welt. Erinnerungen (平田達治訳)
- ・表現主義のプラハで (ウルチィディール)  
Johannes Urzidil: Im Prag des Expressionismus (平田達治訳)
- ・呼称--自伝より (ブロート)  
Max Brot: Aus; Streitbares Leben. Autobiographie 1884-1968 (平田達治訳)
- ・プラハの青春時代--思い出より (マウトナー)  
Fritz Mauthner: Prager Jugendjahre. Erinnerungen (平田達治訳)
- ・ゴーレム (マイリンク) Gustav Meyrink: Der Golem (平田達治訳)
- ・ゴーレムの神秘 (ウルチィディール) Johannes Urzidil: Golem-Mystik (平田達治訳)
- ・ゴーレムの再生 (キッシュ)  
Egon Erwin Kisch: Den Golem wiederzuerwecken (平田達治訳)
- ・ゴーレムの再来 (トールベルク) Friedrich Torberg: Golems Wiederkehr (平田達治訳)
- ・ボフシュ王 (リルケ) Rainer Maria Rilke: König Bohusch (平野嘉彦訳)
- ・あるたたかいの記 (カフカ) Franz Kafka: Beschreibung eines Kampfes (平野嘉彦訳)
- ・ゼーヴェリーエン幽冥行 (レッピン)  
Paul Leppin: Aus; Severins Gang in die Finsternis (平野嘉彦訳)
- ・モルダウ河畔の家 (ヴィーグラウ)  
Paul Wiegler: Aus; Das Haus an der Moldau (平野嘉彦訳)
- ・カフカとの対話 (ヤノーホ) Gustav Janouch: Gespräche mit Kafka (平野嘉彦訳)
- ・世界改革者ヴァイセンシュタイン (ヴェルフエル)  
Franz Werfel: Weißenstein, der Weltverbesserer (平田達治訳)

- ・都市のレリーフ--祭壇の舞台絵図 (ウルチィディール)  
Johannes Urzidil: Predella. Relief der Stadt (平田達治訳)
- ・リーリエンクローンとともに (ヴィーナー)  
Oskar Wiener: Mit Detlev von Liliencron durch Prag (平野嘉彦訳)
- ・ひそかに鼓動する街 (マイリンク)  
Gustav Meyrink: Die Stadt mit dem heimlichen Herzschlag (平野嘉彦訳)
- ・終焉 (ペルッツ) Leo Perutz: Nachts unter der steinernen Brücke (平野嘉彦訳)
- ・1900年のマリーエン小路 (スカルピ) N. O. Scarpì: Mariengasse 1900 (平野嘉彦訳)
- ・プラハの芸術家エーミール・オルリク (リルケ)  
Rainer Maria Rilke: Ein Prager Künstler (平野嘉彦訳)
- ・イディッシュ語について (カフカ)  
Franz Kafka: Rede über die jiddische Sprache (平野嘉彦訳)
- ・ヴェルフェルの最初の師匠 (ハース)  
Willy Haas: Werfels erster Lehrmeister (平野嘉彦訳)
- ・プラハでの最初の音楽 (ブロート) Max Brot: Erste Musik in Prag (平野嘉彦訳)
- ・マイリンクへの手紙 (シュタイナー=プラーク)  
Hugo Steiner-Prag: An Gustav Meyrink im September 1931  
aus Anlaß einer Neuauflage des >Golem< (平野嘉彦訳)
- ・プラハ幻想1--マイリンク「ゴーレム」によせる石版画25集より  
(シュタイナー=プラーク) Hugo Steiner-Prag (平野嘉彦訳)
- ・プラハ幻想2--ラーベ「ライラックの花」によせる石版画8集より  
(シュタイナー=プラーク) Hugo Steiner-Prag (平野嘉彦訳)

### 93) 「ミュンヘン--耀ける日々--ドイツの世紀末 第三巻」

昭和62(1987)年6月10日初版第一刷発行 (国書刊行会) 編者 (三光長治)

- ・神の剣 (トーマス・マン) Thomas Mann: Gladius Dei (高辻知義訳)
- ・来よ 死を告げられし苑に----- (ゲオルゲ)  
Stefan George: Komm in den totgesagten park und schau (生野幸吉訳)
- ・マクシミリアン (ゲオルゲ) Stefan George: Maximin (生野幸吉訳)
- ・早くも空間は誇りやかな影に満ち----- (ゲオルゲ)  
Stefan George: Schon war der raum gefüllt mit stolzen schatten (生野幸吉訳)
- ・ミュンヘン (ゲオルゲ) Stefan George: München (生野幸吉訳)
- ・シューラー、クラゲス、ゲオルゲ--世紀末シュワービングの思い出  
(ローデリヒ・フーフ) Roderich Huch: Alfred Schuler, Ludwig Klages  
und Stefan George (丸山匠訳)
- ・ダーメ氏の手記 (レヴェントロフ) Franziska Gräfin zu Reventlow: Herrn Dames  
Aufzeichnungen oder Begebenheiten aus einen merkwürdigen Stadtteil (内海晶訳)
- ・予言者の家で (トーマス・マン) Thomas Mann: Beim Propheten (高辻知義訳)
- ・ヴェルズングの血 (トーマス・マン) Thomas Mann: Wälsungenblut (高辻知義訳)
- ・わたしの目を消してください----- (リルケ)  
Rainer Maria Rilke: Lösch mir die Augen aus (生野幸吉訳)
- ・ひとつの世紀が過ぎようとする----- (リルケ)  
Rainer Maria Rilke: Ich leb grad, da das Jahrhundert geht (生野幸吉訳)
- ・カイト侯爵 (ヴェーデキント) Frank Wedekind: Der Marquis von Keith (吉田仙太郎訳)
- ・ヴェーデキントの一場面のこと (トーマス・マン)  
Thomas Mann: Über eine Szene von Wedekind (吉田仙太郎訳)
- ・ヴェーデキントの思い出 (ハインリヒ・マン)  
Heinrich Mann: Erinnerungen an Frank Wedekind (吉田仙太郎訳)
- ・聖地にて (ヴェーデキント) Frank Wedekind: Im Heiligen Land (吉田仙太郎訳)
- ・ジンプリチシムスの歌 (リンゲルナッツ)

- Joachim Ringelnatz: *Simplicissimus- Lied* (田辺秀樹訳)
- マリエッタ---シュワービングのラブ・ロマンス (クラブント)
- Klabund: *Marietta. Ein Liebesroman aus Schwabing* (田辺秀樹訳)
- 天国のミュンヘン子 (トーマ) Ludwig Thoma: *Der Münchner im Himmel* (谷川道子訳)
- 皇帝ヴィルヘルム二世の演説---われらの時代への寄稿 (トーマ)
- Ludwig Thoma: *Die Reden Kaiser Wilhelms 2.* (谷川道子訳)
- 「回想録」より (トーマ) Ludwig Thoma: *Erinnerungen* (谷川道子訳)
- 噴水のそばの対話 (ヴァレンティン)
- Karl Valentin: *Gespräch am Springbrunnen* (池内紀訳)
- 芝居見物 (ヴァレンティン) Karl Valentin: *Der Theaterbesuch* (池内紀訳)
- カラーボタンと時計の針 (ヴァレンティン)
- Karl Valentin: *Kragenknopf und Uhrenzeiger* (池内紀訳)
- 偉大な喜劇役者カール・ヴァレンティン (ハウゼンシュタイン)
- Wilhelm Hausenstein: *Karl Valentin, der große Komiker* (三光長治訳)
- ミュンヘン市について---ある他所者とある土地者との間の対話 (パニッツァ)
- Oskar Panizza: *Über die Stadt München* (種村季弘訳)
- わが父の思い出 (リヒャルト・シュトラウス)
- Richard Strauss: *Erinnerungen an meinen Vater* (三宅幸夫訳)
- わたしの少年時代と修業時代から (リヒャルト・シュトラウス)
- Richard Strauss: *Aus meinen Jugend- und Lehrjahren* (三宅幸夫訳)
- ドーラ・ヴィーハンへの手紙 (リヒャルト・シュトラウス)
- Richard Strauss: *Brief an die Dora Wihan* (三宅幸夫訳)
- 両親への手紙 (リヒャルト・シュトラウス)
- Richard Strauss: *Brief an die Eltern* (三宅幸夫訳)
- 父の手紙 (フランツ・シュトラウス) Franz Strauss: *Brief an den Sohn* (三宅幸夫訳)
- 1900年当時のミュンヘン---「自伝的インテルメッツォ」より (ブライ)
- Franz Blei: *München* (池内紀訳)
  
- 「回想」より (カンディンスキー) Wassily Kandinsky: *Rückblick* (三光長治訳)
- わが生涯より (クービン) Alfred Kubin: *Aus meinem Leben* (三光長治訳)
- 母への手紙 (クレー) Paul Klee: *Brief an die Mutter* (三光長治訳)
- シュトゥック追悼 (ハウゼンシュタイン)
- Wilhelm Hausenstein: *Nekrolog auf Stuck* (三光長治訳)
- 回想のシュワービング---パウル・ヴェストハイムへの手紙 (カンディンスキー)
- Wassily Kandinsky: *Brief an Paul Westheim* (三光長治訳)

94) 「ベルリン--世界都市への胎動--ドイツの世紀末 第四巻」

昭和 61(1986)年 10 月 30 日初版第一刷発行 (国書刊行会) 編者 (平井正)

- 「論説」ドイツにおける新しい抒情詩の発展 (ハルト)
- Julius Hart: *Entwicklung der neueren Lyrik in Deutschland* (平井正訳)
- 凱旋 (フォンターネ) Theodor Fontane: *Einzug* (横山滋訳)
- 軍楽隊がやって来る (リーリエンクローン)
- Detlev von Liliencron: *Die Musik kommt* (横山滋訳)
- 大都会で (リーリエンクローン)
- Detlev von Liliencron: *In einer großen Stadt* (横山滋訳)
- リックスドルフ今昔 (ヴァイゼ) Karl Weise: *Rixdorf einst und jetzt* (横山滋訳)
- ベルリンへの車中で (ハルト) Julius Hart: *Auf der Fahrt nach Berlin* (横山滋訳)
- ある駅で (リーリエンクローン) Detlev von Liliencron: *Auf einem Bahnhof* (横山滋訳)
- つまり俺はベルリン子なのさ! (リーリエンクローン)
- Detlev von Liliencron: *Ich stamme nämlich aus Berlin* (横山滋訳)
- 辻馬車の御者の歌 (ベンディクス) Otto Bendix: *Droschkenkutschlerlied* (横山滋訳)
- 労働者の歌 (ヘンケル) Karl Henckell: *Das Lied vom Arbeiter* (横山滋訳)
- 大都市の民衆への説教 (デーメル)

- Richard Dehmel: Predigt aus Großstadtvolk (横山滋訳)
- ・街頭で (ラハマン) Hedwig Lachmann: Unterwegs (横山滋訳)
- ・二人 (デーメル) Richard Dehmel: Zwei Menschen (横山滋訳)
- ・ベルリン (ハイム) Georg Heim: Berlin 1---3 (横山滋訳)
- ・「ファンタズス」より (ホルツ) Arno Holz: Aus "Phantasmus" (横山滋訳)
- ・抒情詩の革命 (ホルツ) Arno Holz: Revolution der Lyrik (横山滋訳)
  
- ・「論説」郷土芸術 二、三の注釈 (ヤコボースキー)
- Ludwig Jacobowski: Heimatkunst (平井正訳)
- ・最初の登校日 (ホルツ) Arno Holz: Der erste Schultag (藤川晴男訳)
- ・初体験 (エルンスト) Paul Ernst: Zum ersten Mal (藤川晴男訳)
- ・もてなしのよい牧師 (ハルトレーベン)
- Otto Erich Hartleben: Vom gastfreien Pastor (藤川晴男訳)
- ・皇帝との出逢い (ハインリヒ・マン)
- Heinrich Mann: Diedrich begegnet den Kaiser (藤川晴男訳)
  
- ・「論説」リアリズムと自然科学 (ベルシエ)
- Wilhelm Bölsche: Realismus und Naturwissenschaften (平井正訳)
- ・「論説」自然主義の克服 (バール)
- Hermann Bahr: Die Überwindung der Naturalismus (平井正訳)
- ・スティーネ (フォンターネ) Theodor Fontane: Stine (立川洋三訳)
- ・郭公王子---ダンス・マカーブル風のインテルメッツォ (ビーアバウム)
- Otto Julius Bierbaum: Prinz Kuckuck (平井正訳)
- ・ティンペ親方 (クレッツァー) Max Kretzer: Meister Timpe (立川洋三訳)
- ・フォーゲルザングの記録 (ラーベ)
- Wilhelm Raabe: Akten des Vogelsangs (小島康男訳)
  
- ・「論説」インティメートな演劇について (シュラーフ)
- Johannes Schlaf: Vom intimen Theater (平井正訳)
- ・ビーバーの毛皮---泥棒喜劇 (ハウプトマン)
- Gerhart Hauptmann: Biberpelz (小島康男訳)
- ・ねずみ---ベルリン悲喜劇 (ハウプトマン)
- Gerhart Hauptmann: Die Ratten (小島康男訳)
- ・社会貴族主義者たち (ホルツ) Arno Holz: Sozialaristokraten (小島康男訳)
  
- ・ベルリンとウィーン (バープ) Julius Bab: Berlin und Wien (平井正訳)
- ・ベルリン、あるいは中道主義 (シュテルンハイム)
- Carl Sternheim: Berlin oder Juste-milieu (小島康男訳)
- ・軍国主義の誇大妄想狂と教師根性 (ブライプトロイ)
- Karl Bleibtreu: Größenwahn des Militarismus und der Schulmeisterei (平井正訳)
- ・宮廷芸術と他の芸術 (アヴェナリウス)
- Ferdinand Avenarius: Hofkunst und andere Kunst (平井正訳)
- ・ベルリン風物詩 (トローヤン) Johannes Trojan: Das Lob Berlins (平井正訳)

#### 95) 「チューリヒ--予兆の十字路--ドイツの世紀末 第五巻」

昭和 62(1987)年 2月 15日初版第一刷発行 (国書刊行会) 編者 (土肥美夫)

- ・オリンピアの春---第一部第一歌 出エレボス記 (シュピッテラー)
- Carl Spitteler: Aus "Olympischer Frühling" 1900-06 (増田義男訳)
- ・グライフェン湖 (ヴァルザー) Robert Walser: Der Greifensee 1899 (田ノ岡弘子訳)
- ・アーノルト・ベックリン (キリコ)
- Giorgio de Chirico: Arnold Böcklin 1920 (水沢勉訳)
- ・アーノルト・ベックリンに捧ぐ (ケラー)
- Gottfried Keller: An Arnold Böcklin zum sechzigsten Geburtstage (水沢勉訳)

- ・「評論と書簡」より (セガンティニ)  
Giovanni Segantini: Was ist die Kunst 1898 und die Briefe (水沢勉訳)
- ・芸術について (ホードラー) Ferdinand Hodler: Über die Kunst 1897 (中谷伸生訳)
- ・ホードラー (ルートヴィヒ) Emil Ludwig: Hodler (中谷伸生訳)
- ・アスコーナ (ミューザーム) Erich Mühsam: Aus "Ascona" (小寺昭次郎訳)
- ・ドルナッハのアントロポゾフィーコロニーの建築的造形への諸視点 (シュタイナー)  
Rudolf Steiner: Gesichtspunkte zur baulichen Gestaltung der anthroposophischen Kolonie in Dornach 1914 (石川恒夫・上松佑二訳)
- ・スイス労働者への告別の手紙 (レーニン)  
Wladimir Iljitsch Lenin: Abschiedsbrief an die Schweizer Arbeiter 1917 (斧谷彌守一訳)
- ・ユリシーズ---第15挿話より (ジョイス)  
James Joyce: From "Ulysses" 1914-1921 (井上千津子訳)
- ・「一篇一ペニイの詩集」より (ジョイス)  
James Joyce: From "Poems Penyeach and Other Verses" 1927 (井上千津子訳)
- ・二種類の思考について---「リビドーの変容と象徴」より (ユング)  
C. G. Jung: Aus "Wandlungen und Symbole der Libido" (春山清純訳)
- ・精神病理学における無意識の意味について (ユング)  
C. G. Jung: Über die Bedeutung des Unbewußten in der Psychopathologie (春山清純訳)
- ・死者たちへの七つの教え (ユング)  
C. G. Jung: Septem Sermones ad Mortuos 1916 (春山清純訳)
- ・書簡より (ユング)  
C. G. Jung: Briefe 2(To Dr. Emanuel Maier), Briefe 3(an Hermann Hesse) (春山清純訳)
- ・デミアン (ヘッセ) Hermann Hesse: Aus "Demian" 1919 (小島衛訳)
- ・ヘルマン・ヘッセ---その生涯と作品 (バル)  
Hugo Ball: Hermann Hesse, sein Leben und Werk (春山清純訳)
- ・世の果て 他 (ヴァルザー)  
Robert Walser: Das Ende der Welt 1917 u. a. (田ノ岡弘子訳)
- ・チューリヒ美術館の現代連盟展評 (クレー)  
Paul Klee: Die Ausstellung des Modernen Bundes im Kunsthaus Zürich (土肥美夫訳)
- ・われらが日々の夢を (アルプ) Hans Arp: Aus "unseren täglichen Traum" (土肥美夫訳)
- ・「キャバレー・ヴォルテール」序文 (バル)  
Hugo Ball: Vorwort von <Cabaret Voltaire> (土肥美夫訳)
- ・ダダ第一宣言 (バル)  
Hugo Ball: Das erste dadaistische Manifest im Zunfthaus zur Waag (土肥美夫訳)
- ・ダダ宣言 1918年 (ツァラ)  
Tristan Tzara: Manifeste dada 1918 (小海永二・鈴木和成訳)
- ・キャバレー・ヴォルテール---「時代からの逃走」より (バル)  
Hugo Ball: Cabaret Voltaire und Galerie Dada. Aus "Die Flucht aus der Zeit" (土肥美夫訳)
- ・ギャラリー・ダダ---「時代からの逃走」より (バル)  
Hugo Ball: Cabaret Voltaire und Galerie Dada. Aus "Die Flucht aus der Zeit" (土肥美夫訳)
- ・チューリヒ年代記 1915年--1919年 (ツァラ)  
Tristan Tzara: Chronique zurichoise 1915-1919 (小海永二訳)
- ・死の舞踏 1916年 他 (バル)  
Hugo Ball: Aus "Gesammelte Gedichte" 1916 (稲田伊久穂訳)
- ・音声ならびに音響詩 (バル)  
Hugo Ball: Aus "Gesammelte Gedichte" 1916 (稲田伊久穂訳)
- ・薄明によせる歌 他 (ヘニングス)  
Emmy Ball-Hennings: Aus "113 dada Gedichte" (稲田伊久穂訳)
- ・「幻想的な祈り」より (ヒュルゼンベック)  
Richard Huelsenbeck: Phantastische Gebete 1916 (内藤道雄訳)
- ・二十五と一の詩 (ツァラ) Tristan Tzara: Ving-cinq-et un poèmes 1918 (鈴木和成訳)

- ・ 黒人詩篇 (ツァラ) Tristan Tzara: ??? (鈴木和成訳)
- ・ アンチピリン氏の最初の天上冒険 (ツァラ)  
Tristan Tzara: La premiere aventure céleste de. Mr. Antipyrine (小海永二訳)
- ・ 雲のポンプ 1920年 (アルプ) Hans Arp: Die Wolkenpumpe 1920 (内藤道雄訳)
- ・ 幻想家テンデレンダ---第一部 (バル)  
Hugo Ball: Aus "Tenderenda, der Phantast" (稲田伊久穂訳)
- ・ チューリヒへの愛 (ヒュルゼンベック)  
Richard Huelsenbeck: Liebe zu Zürich (土肥美夫訳)

96) 「ヘルダリン」病跡学的考察 ランゲ-アイヒバウム著

**Hölderlin: Eine Pathographie von Wilhelm Lange-Eichbaum** (西丸四方訳)

- 1 ヘルダリンの外面的な経歴 2 人柄 3 精神病が始まった
  - 4 精神病がはっきりした 5 ヘルダリンの精神病の原因と本体
  - 6 精神異常者の価値と作用 7 まとめ
- 平成1(1989)年12月8日発行(みすず書房)

97) 「われらいかに死すべきか」(松田道雄著)

- ・ 恋愛について ・ 夫婦について ・ 共ばたらきについて ・ 親子について
  - ・ 一夫一婦について ・ 育児について ・ 教育について ・ 道徳について
  - ・ 健康について ・ 晩年について ・ ひとりごとノート あとがきにかえて
- 昭和46(1971)年8月1日第2刷(暮しの手帖社)

98) 「親指Pの修業時代<上>」(松浦理英子著)

平成5(1993)年11月15日初版発行  
平成6(1994)年2月19日19版発行(河出書房新社)

99) 「親指Pの修業時代<下>」(松浦理英子著)

平成5(1993)年11月15日初版発行  
平成6(1994)年3月7日16版発行(河出書房新社)

100) 「奇貨」(松浦理英子著)

奇貨「新潮」2012年6月号  
変態月「すばる」1985年9月号 平成24(2012)年8月30日発行(新潮社)

101) 「ドイツ名詩選」(生野幸吉・檜山哲彦編) 岩波文庫 赤460-1

アイヒ(Günter Eich) アイヒェンドルフ(Joseph von Eichendorff)  
ヴェーデキント(Frank Wedekind) エンツェンスベルガー(Hans Magnus Enzensberger)  
カシュニッツ (Marie Luise Kaschnitz) クラウス(Karl Kraus) グラス(Günter Grass)  
クラブント (Klabund) クロプシュトック(Friedrich Gottlieb Klopstock)  
ゲーテ(Johann Wolfgang Goethe) ゲオルゲ(Stefan George) ケストナー(Erich Kästner)  
ザックス (Nelly Sachs) シラー(Friedrich von Schiller) ツェラン(Paul Celan)  
デーメル(Richard Dehmel) トラークル(Georg Trakl)  
ドロステ=ヒュルスホフ(Annette von Droste-Hülshoff) ニーチェ(Friedrich Nietzsche)  
ノヴァーリス (Novalis) ハイネ(Heinrich Heine) バッハマン(Ingeborg Bachmann)  
ブレヒト(Bertolt Brecht) ブレンターノ(Clemens Brentano) ヘッセ(Hermann Hesse)  
ヘッベル (Christian Friedrich Hebbel) ヘルダーリン(Friedrich Hölderlin)  
ベン(Gottfried Benn) ホフマンスタール(Hugo von Hofmannsthal)  
ボブロフスキー(Johannes Bobrowski) マイヤー(Conrad Ferdinand Meyer)  
メーリケ(Eduard Mörike) メッケル(Christoph Meckel)  
モルゲンシュテルン(Christian Morgenstern) ラスカ=シューラー(Else Lasker-Schüler)  
リルケ(Rainer Maria Rilke) リンゲルナッツ(Joachim Ringelnatz) レルケ(Oskar Loerke)  
平成5(1993)年3月16日第1刷発行  
平成21(2009)年11月16日第20刷発行(岩波書店)



- 102) 「帰らざる夏」(加賀乙彦著)  
 第1章 夏の朝 第2章 幼年生徒 第3章 稚児 第4章 劫火  
 第5章 午陽 第6章 玉音放送 第7章 非常呼集 第8章 義軍  
 昭和48(1973)年7月24日第1刷発行  
 昭和48(1973)年10月12日第5刷発行(講談社)
- 103) 「遙かなる旅へ」(長谷川修著) 新鋭書下ろし作品  
 昭和49(1974)年6月15日発行(新潮社)
- 104) 「舞踏会の手帳」(長谷川修著)  
 舞踏会の手帳「新潮」昭和49年3月号  
 宿恋「文芸首都」昭和37年11月号  
 和布刈神事「新潮」昭和48年新年号  
 黄金狂時代「新潮」昭和48年4月号  
 昭和50(1975)年10月15日発行(人文書院)
- 105) 「暦物語 ブレヒト」Kalendergeschichten von Bertolt Brecht(矢川澄子訳)  
 ・アウグスブルクの白墨の環 ・ユダヤ娘マリー-ザンデルスのバラード  
 ・二人の息子 ・みほとけの教えたまひし家宅の譬え ・実験 ・ウルム1592年  
 ・異端者の外套 ・子供の十字軍-1939年 ・ケーザルとその軍団兵  
 ・クヤン=ブラクの織工たちがレエニンを記念する ・ラ-シオタの兵士  
 ・読書好きな労働者の疑問・傷つけるソクラテス ・兄貴は飛行機乗りだった  
 ・礼儀知らずの老女 ・老子遁世の途上における「道德経」成立の由来  
 ・コイナー氏一言集 昭和51(1976)年12月20日新装第1刷発行(現代思潮社)
- 106) 「構想する精神」(高橋義孝著) 独逸文学論集  
 文学史の構造 ・神話について ・歴史小説論 ・文学に於ける風景の諸問題  
 ・鷗外の『渋江抽斎』について ・ソネットについて ・文学史  
 ナチス芸術の方向 ・出会と追憶のドイツ ・ドイツの文学倫理 ・構想する精神  
 ・シュテファン-ゲオルゲ ・ナチス芸術の方向 ・ナチスの演劇  
 ・1936年のあるドイツの論文 ・ナチス文学の新しさ  
 ハンス-カロッサ ・ハンス-カロッサ会見記 ・カロッサの詩風  
 昭和17(1942)年8月19日発行2000部(育英書院)
- 107) 「シングル・ライフ 女と男の解放学」(海老坂武著)  
 第1章 私のシングル・ライフ 第2章 現代のシングル状況  
 第3章 家庭を撃つ 第4章 恋愛と性 第5章 子供について  
 第6章 自己管理のライフ・スタイル 終章 解き放つ方へ  
 昭和61(1986)年5月25日初版発行  
 昭和62(1987)年3月15日12版発行(中央公論社)
- 108) 「新・シングルライフ」(海老坂武著) 集英社新書0032C  
 第1部 シングルライフの擁護 第2部 シングルライフの哲学  
 第3部 文明の流れの中で  
 平成12(2000)年5月22日第1刷発行  
 平成12(2000)年11月6日第3刷発行(集英社)
- 109) 「精神病学教室」(石上玄一郎著)  
 ・鯁裂「新潮」昭和16年5月号 ・潮騒「新潮」昭和18年2月号  
 ・精神病学教室「中央公論」昭和17年10月号  
 ・ミネルヴァの夜「文学季刊」昭和24年8月号  
 ・春の祭典「総合」昭和32年5月創刊号 ・蓮花照応「文学界」昭和31年1月号  
 昭和47(1972)年8月31日第1刷発行(冬樹社)

- 110) 「彷徨えるユダヤ人」(石上玄一郎著)  
 ・わが人生覚え書 ・上海のユダヤ人街 ・砂漠的風土 ・神々の変身  
 ・悪魔の変貌 ・ユダヤ教とキリスト教 ・聖安息日とユダヤの祭  
 ・ユダヤ民族の倫理 ・ユダヤ人の性風俗 ・イスラエルの預言者達 ・離散と迫害  
 昭和 49(1974)年 10 月 30 日初版発行  
 昭和 53(1978)年 3 月 1 日重版発行(人文書院)
- 111) 「大刀洗飛行場物語」(桑原達三郎著)  
 序 菊池武光、太刀を洗う  
 第 1 部 忘れ得ぬこと 第 2 部 物語風・大刀洗飛行場史  
 昭和 56(1981)年 8 月 15 日初版発行  
 昭和 56(1981)年 9 月 10 日 3 刷発行(葦書房)
- 112) 「あの猿を見よ--江戸佯狂伝--」(草森紳一著)  
 序章 太平の造り阿呆 第 1 章「聖徳太子」---我を見しらざるか  
 第 2 章 松平定政---すこぶる狂気に似たり  
 第 3 章 大石内蔵助---拙者、腰抜けニ罷り成り候  
 第 4 章 上島鬼貫---狂乱ノ御沙汰ニ落シ玉フ事勿レ  
 第 5 章 進藤小三郎---あの猿を見よ  
 第 6 章 山崎源五左衛門---乱心自殺、畢竟、病氣  
 第 7 章 小堀政方---さばさばと正気に帰る 第 8 章 中川四郎七---いやらしき病体なり  
 第 9 章 平野国臣---天朝のため劇を演ず 第 10 章 月性---狂心の意気  
 第 11 章 周布政之助---酔狂人は病氣隠居相い願ひ候 終章 佯狂への道  
 昭和 59(1984)年 11 月 5 日発行(新人物往来社)
- 113) 「透明な迷宮」(平野啓一郎著)  
 ・消えた蜜蜂 ・ハワイに捜しに来た男 ・透明な迷宮  
 ・family affair ・火色の琥珀 ・Re: 依田氏からの依頼  
 平成 26(2014)年 6 月 30 日発行(新潮社)
- 114) 「続 死ぬ瞬間 最期に人が求めるものは」  
 (Death: The Final Stage of Growth by Elisabeth Kübler-Ross)  
 E・キューブラー・ロス(川口正吉訳)  
 著者まえがき 死と成長のくにへ  
 I 人間はみんな同じだということ II なぜ死ぬことは難しいか?  
 III 他の窓から見た死 IV 死ぬことは易く、生きることは難い  
 V 死と成長、このおかしなパートナー  
 VI 成長の最終段階としての死 終章  
 昭和 52(1977)年 11 月 15 日第 1 刷  
 昭和 60(1985)年 4 月 30 日第 13 刷(読売新聞社)
- 115) 「新 死ぬ瞬間」(On Children and Death by Elisabeth Kübler-Ross)  
 E・キューブラー・ロス(秋山剛・早川東作訳)  
 序 私の感慨  
 第 1 章 近親を失った親たちへ 第 2 章 生のはじまり 第 3 章 突然の死  
 第 4 章 頭部外傷と昏睡 第 5 章 子供たちに生への準備をさせる自然な方法  
 第 6 章 失うこと、それは成長と理解を促す触媒である  
 第 7 章 子供たちの失踪・虐殺・自殺 第 8 章 補完的治療法---視覚イメージ法など  
 第 9 章 子供たちが感じる「死の予感」とそれを象徴することば  
 第 10 章 友達としてどう助けになれるか 第 11 章 行かせること  
 第 12 章 葬式 第 13 章 子供たちと死の霊的側面  
 第 14 章 人びとが力を得られるところ (社会資源)  
 ---いろいろなグループとサポート・システム (支持組織)  
 昭和 60(1985)年 5 月 15 日第 1 刷(読売新聞社)

- 116) 「死の位相学」(吉本隆明著) 聞き手・高橋康雄  
 ・触れられた死---序にかえて  
 ・『死』体験の意味 ・戦中派の生き方 ・東洋と西洋の生死観  
 ・『銀河鉄道の夜』にみる死後の世界  
 ・再生もしくは救済物語について---大江健三郎著『新しい人よ眼ざめよ』を読む  
 ・《死》が恐怖でなくなる時  
 ---『イワン・イリイチの死』と『マルテの手記』を読む  
 ・心霊現象とホログラフィ---『霊界日記』から『空像としての世界』まで  
 ・資料(1)『生きること』と『死ぬこと』---吉本隆明  
 ・資料(2)証言・私が見た死の瞬間 ・資料(3)参考文献  
 昭和 60(1985)年 6 月 10 日第 1 刷発行 (潮出版社)
- 117) 「臨死体験 上」(立花隆著)  
 第 1 章 臨死体験 第 2 章「至福」の光景 第 3 章 末期の音  
 第 4 章「快感」の構造 第 5 章 医師キルデの報告 第 6 章 記憶の深層  
 第 7 章「超能力」の虚実 第 8 章 トム・ソーヤーの変身  
 第 9 章 オメガ・プロジェクト 第 10 章 色を聴く 第 11 章 クンダリニー覚醒  
 第 12 章 時間なき世界 第 13 章 光の存在、光の世界 第 14 章 星への旅  
 平成 6(1994)年 9 月 20 日第 1 刷  
 平成 6(1994)年 10 月 20 日第 4 刷 (文藝春秋)
- 118) 「臨死体験 下」(立花隆著)  
 第 15 章 心理と論理の間 第 16 章 水晶玉物語 第 17 章 パウロの回心  
 第 18 章 ヤムラージの怒り 第 19 章 体外離脱とは何か 第 20 章「臨死」なき体験  
 第 21 章 W・ジェームズの法則 第 22 章 ある登山家の奇跡  
 第 23 章 感覚遮断の世界 第 24 章「脳」と「心」の関係 第 25 章 消える肉体  
 第 26 章 神の大きな手 第 27 章 シルヴィウス溝 第 28 章 視覚のメカニズム  
 第 29 章 死のリハーサル  
 平成 6(1994)年 9 月 20 日第 1 刷 (文藝春秋)
- 119) 「バナナと日本人」フィリピン農園と食卓のあいだ(鶴見良行著) 岩波新書 199  
 1 バナナはどこから?---知られざる日・米・比の構図  
 2 植民地ミンダナオで---土地を奪った者、奪われた者  
 3 ダバオ麻農園の姿---経営・労働・技術  
 4 バナナ農園の出発---多国籍企業進出の陰に  
 5 多国籍企業の戦略は?---フィリピン資本との結びつき方  
 6 契約農家の「見えざる鎖」---ふくらみ続ける借金  
 7 農園で働く人びと---フェンスの内側を見る  
 8 日本へ、そして食卓へ---流通ルートに何が起こったか  
 9 つくる人びとを思いながら---平等なつながりのために  
 昭和 57(1982)年 8 月 20 日第 1 刷発行  
 平成 19(2007)年 5 月 25 日第 50 刷発行(岩波書店)
- 120) 「東南アジアを知る」私の方法(鶴見良行著) 岩波新書 417  
 はじめに---ベトナム戦争から---  
 I フィリピンへ 1 バタアン・デー 2 保税加工区へ 3 フィリピンでの出会い  
 II マラッカ海峡にて 1 マラッカというところ 2 伝えること  
 III バナナとマングローブ 1 "アジア塾" 2 バナナの調査 3 マングローブ  
 IV モノから考える 1 エビ研究会 2 私の方法論上の問題  
 V 海の側から見る 1 ナマコ 2 漁師とタモと落ちた魚  
 VI アジアを歩く 1 エビを追って 2 マングローブ炭をたずねて 3 アジアの船を追って  
 平成 7(1995)年 11 月 20 日第 1 刷発行  
 平成 18(2006)年 4 月 14 日第 16 刷発行(岩波書店)

121) 「エビと日本人」(村井吉敬著) 岩波新書 20

プロローグ---なぜエビか?

- 1 エビを獲る人びと---トロール漁の現場
  - 2 エビという生き物---生態・種類・獲られ方
  - 3 エビを育てる人びと---養殖をインドネシア・台湾に見る
  - 4 エビを加工する人びと---調味料づくり・殻剥き・箱詰め
  - 5 エビを売る人、食べる人---おの四半世紀に何が起きたか?
- エピローグ

昭和 63(1988)年 4 月 20 日第 1 刷発行

122) 「エビと日本人Ⅱ」暮らしのなかのグローバル化(村井吉敬著) 岩波新書 1108

プロローグ

- 第 1 章 エビとマングローブの海辺---アチェの津波と東ジャワの熱泥
  - 第 2 章 変わるエビ養殖種---ブラックタイガーからバナメイへ
  - 第 3 章 養殖地を歩く---「海辺の廃墟」への旅
  - 第 4 章 グローバル・エビ食の時代---世界のエビ事情
  - 第 5 章 食のグローバル化とフェアトレード---飽食しつつ憂える時代に
- 平成 19(2007)年 12 月 20 日第 1 刷発行

123) 「『南進』の系譜」(矢野暢著) 中公新書 412

プロローグ

- I 南方関与のはじまり II 「南進論」の系譜 III 経済進出のパターン  
IV 在留邦人の生態 V 「大東亜共栄圏」の虚妄性 VI 戦後日本の東南アジア進出

昭和 50(1975)年 10 月 25 日初版

平成 9(1997)年 6 月 30 日 8 版(中央公論社)

124) 「暗黒のメルヘン」(澁澤龍彦編)

- ・龍潭譚(泉 鏡花) ・桜の森の満開の下(坂口安吾) ・山桜(石川 淳)
- ・押絵と旅する男(江戸川乱歩) ・瓶詰の地獄(夢野久作) ・白蟻(小栗虫太郎)
- ・零人(大坪砂男) ・猫の泉(日影丈吉) ・深淵(埴谷雄高) ・摩天楼(島尾敏雄)
- ・詩人の生涯(安部公房) ・仲間(三島由紀夫) ・人魚紀聞(椿 実)
- ・マドンナの真珠(澁澤龍彦) ・恋人同士(倉橋由美子) ・ウコンレオラ(山本修雄)

昭和 49(1974)年 3 月 1 日新装第 1 刷発行

昭和 52(1977)年 12 月 1 日新装第 4 刷発行(立風書房)

125) 「日独文化人物交流史」ドイツ語事始め(宮永孝著)

- 第 1 章 日独交渉の夜明---初期の来日ドイツ人
- 第 2 章 ドイツ語の伝来
- 第 3 章 日本におけるドイツ語学の沿革
- 第 4 章 ドイツを訪れた日本人
- 第 5 章 日本におけるドイツ語教育の沿革
- 第 6 章 日本におけるドイツ人
- 第 7 章 日本におけるドイツ語・ドイツ文化の摂取史

平成 5(1993)年 11 月 20 日第 1 刷発行(三修社)

126) 「ドイツ道具の旅」道具が語りかけるドイツ再発見の旅(佐貫亦男著)

- 第 1 章 ドイツ人の心
- 第 2 章 ライカはドイツだ
- 第 3 章 列車のインテリア
- 第 4 章 車と人間のインターフェース
- 第 5 章 早く住むために
- 第 6 章 ドイツのインテリア
- 第 7 章 食器と浴室
- 第 8 章 他民族とドイツ人の道具戦略比較

昭和 60(1985)年 4 月 17 日第 1 刷

昭和 60(1985)年 11 月 25 日第 5 刷(光人社)

127) Sebastian Fitzek: "Die Therapie" Psychothriller (Knaur Taschenbuch Verlag)  
Originalausgabe Juni 2006

- 128) 「妻と私」(江藤淳著)  
 初出「文藝春秋」平成 11 年 5 月号  
 平成 11(1999)年 7 月 7 日第 1 刷発行  
 平成 11(1999)年 8 月 25 日第 6 刷発行(文藝春秋)
- 129) 「ドイツ婦人の家庭学」(八木あき子著)  
 第 1 章 "住み心地良さ"について 第 2 章 倹約とその知恵  
 第 3 章 掃除・洗濯・衣類の手入れ 第 4 章 ドイツ式食卓マナーと台所の知恵  
 第 5 章 女が美しくなるために 第 6 章 赤ちゃんと子供たちのために  
 第 7 章 安全とホーム・ホスピタル 第 8 章 家庭内の動・植物  
 昭和 58(1983)年 4 月 10 日発行  
 昭和 59(1984)年 2 月 15 日 14 刷(新潮社)
- 130) 「世界の民話 ドイツ・スイス」(小沢俊夫編・訳)  
 Deutsche Volksmärchen, Deutsche Märchen aus dem Donauland,  
 Schweizer Volksmärchen, Rätoromanische Märchen  
 昭和 51(1976)年 11 月 1 日発行  
 昭和 52(1977)年 4 月 25 日第 4 刷(ぎょうせい)
- 131) 「ベルツ 花」エルウィン・フォン・ベルツ夫人の生涯(鹿島卯女著)  
 Hana Bälz, Das Leben der Frau des Japanarztes Prof. Dr. E. v. Bälz von Ume Kajima  
 第 1 章 エルウィン・フォン・ベルツ 第 2 章 ベルツ 花  
 第 3 章 ベルツの活躍 第 4 章 ベルツ夫妻 日本を去る  
 第 5 章 ドイツでのベルツ夫妻 第 6 章 欧州大戦当時のドイツ  
 第 7 章 祖国へ 第 8 章 ベルツ博士夫妻への回想  
 昭和 47(1972)年 6 月 10 日第 1 刷発行  
 昭和 47(1972)年 8 月 10 日第 2 刷発行(鹿島出版会)
- 132) 「ファニー・ヒル」J・クレランド著(吉田健一訳) 人間の文学 1  
 Memoirs of a Woman of Pleasure by John Cleland  
 昭和 41(1966)年 12 月 20 日改訂初版発行  
 昭和 42(1967)年 3 月 25 日改訂 6 版発行(河出書房新社)
- 133) 「シュニッツラー短編集」Arthur Schnitzler(藤本直秀訳)  
 ・花 ・ある別れ ・賢者の妻 ・栄光の日 ・死人に口なし  
 ・アンドレアス・ターマイヤーの遺書 ・盲目のジェロニモとその兄  
 ・ギリシャの踊り子(Blumen, Ein Abschied, Die Frau des Weisen, Der Ehrentag,  
 Die Toten schweigen, Andreas Thameyers letzter Brief, Der blinde Geronimo und  
 sein Bruder, Die griechische Tänzerin)  
 昭和 57(1982)年 10 月 5 日第 1 版発行(三修社)
- 134) 「昨日の世界 I」Stefan Zweig: Die Welt von Gestern, Erinnerungen eines Europäers  
 シュテファン・ツヴァイク著(原田義人訳) みすずライブラリー  
 ・安定の世界 ・前世紀の学校 ・春の目覚め ・生の万象  
 ・永遠の青春の都、パリ ・自己への途上の廻り道 ・ヨーロッパを越えて  
 ・ヨーロッパの輝きと影 ・1914 年、戦争の最初の頃  
 平成 11(1999)年 3 月 10 日発行(みすず書房)
- 135) 「昨日の世界 II」Stefan Zweig: Die Welt von Gestern, Erinnerungen eines Europäers  
 シュテファン・ツヴァイク著(原田義人訳) みすずライブラリー  
 ・精神的友愛のための闘い ・ヨーロッパの心臓において ・オーストリアへの帰還  
 ・ふたたび世界に ・日没 ・ヒットラー、ここに始まる ・平和の苦悶  
 ・遺書 ・ツヴァイク年譜 平成 11(1999)年 3 月 10 日発行(みすず書房)

136) 「マリー・アントワネットⅠ」ツヴァイク全集 13

Stefan Zweig: Marie Antoinette シュテファン・ツヴァイク著(藤本淳雄・森川俊夫共訳)

- ・序 ・おさな児の輿入れ ・寝所の秘密 ・ヴェルサイユでのデビュー
- ・ひとことをめぐる戦い ・パリ征服 ・国王崩御--国王万歳! ・国王夫婦の肖像
- ・ロココの王妃 ・トリアノン ・あたらしいお相手 ・兄が妹をおとずれる
- ・母となること ・王妃人望を失う ・ロココ劇場への落雷 ・首飾り事件
- ・訴訟と判決 ・民衆はめざめ、王妃はめざめる ・存亡決定の夏
- ・友人たちは逃げだす ・友人があらわれる

昭和 49(1974)年 2 月 12 日第 1 刷発行

昭和 59(1984)年 4 月 25 日第 8 刷発行(みすず書房)

137) 「マリー・アントワネットⅡ」ツヴァイク全集 14

Stefan Zweig: Marie Antoinette シュテファン・ツヴァイク著(藤本淳雄・森川俊夫共訳)

- ・かれはそうであったのか、そうではなかったのか?(幕間の疑問)
- ・ヴェルサイユでの最後の夜 ・君主制の霊柩車 ・自覚 ・ミラボー
- ・逃亡が準備される ・ヴァレンヌへの逃亡 ・ヴァレンヌの夜 ・帰り道
- ・だましあい ・友人がこれを最後に姿をあらわす ・戦争への逃避 ・最後の叫び
- ・八月十日 ・タンブル ・マリー・アントワネットただひとり ・最後の孤独
- ・コンシエルジュリ ・最後のころみ ・たいへんな汚名 ・訴訟がはじまる
- ・公判 ・最後の旅路 ・挽歌 ・年表 ・あとがき

昭和 49(1974)年 3 月 10 日第 1 刷発行

昭和 55(1980)年 12 月 5 日第 6 刷発行(みすず書房)

138) 「目に見えないコレクション」ツヴァイク全集 3

Stefan Zweig: Die Unsichtbare Sammlung(シュテファン・ツヴァイク著)

- ・感情の混乱(Verwirrung der Gefühle)(相馬久康訳)
- ・目に見えないコレクション(Die Unsichtbare Sammlung)(辻理訳)
- ・レマン湖畔の悲劇(Episode am Genfer See)(関楠生訳)
- ・レポレラ(Leporella)(吉田正己訳) ・書痴メンデル(Buchmendel)(関楠生訳)
- ・不安(Angst)(内垣啓一訳) ・チェスの話(Schachnovelle)(大久保和郎訳)

昭和 49(1974)年 1 月 15 日発行(みすず書房)

139) 「現代北欧文学 18 人集」(谷口幸男編)

《デンマーク》日曜日の庭での昼食(クラウス・リフビヤ)

あらしの夜(ヴィリアム・ハイネセン) 夫婦(ドリト・ヴィルムセン)

里子(ヴィリィ・セーアンセン)

《ノルウェー》漁師たち(ヨーハン・ボイエル)屈辱の干ぶどう(アグナール・ミュクレ)

草の中(アグナール・ミュクレ) 赤い反射(トルボルグ・ネドレオース)

《スウェーデン》子供を死なせる(スティーグ・ダーゲルマン)

ほら、例のあの奴さん(スティーグ・クラーソン)

地獄へ下るエレベーター(ペール・ラーゲルクヴィスト)

みことば(トルニィ・リンドグレン)

《アイスランド》選ばれた女(グウズベルグル・ベルグスソン)

子供のための話(スヴァヴァ・ヤコブスドッティル)魚釣り行(ハルドゥル・ラクスネス)

《フィンランド》あらし(ボ・カルペラン) 櫛(ヴェイヨ・メリ)

爺さんと少年(ハンヌ・サラマ) レポート(エーワ・キルピ)

昭和 62(1987)年 9 月 20 日発行(新潮社)

140) 「伝承の神話学」アイデンティティのトポロジー(廣川勝美編)

序章 テクストのパスpekティヴ I カミのトポロジー semi-llattice 1

II マレビトのトポロジー semi-llattice 2 III 遍歴のトポロジー semi-llattice 3

IV 遊行のトポロジー semi-llattice 4 V 神裔のトポロジー tree 1

VI 日嗣のトポロジー tree 2 VII 供犠のトポロジー tree 3

昭和 59(1984)年 10 月 31 日初版第 1 刷発行(人文書院)

141) 「自殺の研究」(A・アルヴァレス著)新潮選書

A. Alvarez: The Savage God, A Study of Suicide(早乙女忠訳)

《第一部》序章 女流詩人シルヴィア・プラーズの場合

《第二部》自殺の歴史的背景

《第三部》自殺--その閉ざされた世界 1 誤解 2 理論 3 感情

《第四部》自殺と文学 1 中世とダンテ 2 ジョン・ダンとルネッサンス

3 クーパー、チャタトン、および理性の時代 4 ロマン派の苦悶

5 明日の虚無--20世紀への推移 6 ダダ--芸術としての自殺 7 残酷な神

《第五部》エピローグ--自由への道

昭和49(1974)年5月30日2刷(新潮社)

142) 「ポアンカレ予想」

世紀の謎を掛けた数学者、解き明かした数学者(ジョージ・G・スピーロ著)

George G. Szpiro: Poincaré's Prize

The Hundred-Year Quest to Solve One of Math's Greatest Puzzles

(永瀬輝男、志摩亜希子監修/ 鍛原多恵子、坂井星之、塩原通緒、松井信彦訳)

1章 王にふさわしい偉業 2章 はえにわかってアリのわからないこと

3章 技師は真実を究明する 4章 ポアンカレへの褒賞

5章 ユークリッド抜き幾何学 6章 ハンブルクからコペンハーゲンへ、  
そしてノースカロライナ州ブラックマウンテンへ 7章 ある予想の意図

8章 袋小路と謎の病気 9章 高次元への旅 10章 ウェストコースト風の異端審問

11章 消える特異点、消えない特異点 12章 葉巻の手術

13章 四人組プラス2 14章 もうひとつの賞

平成19(2007)年12月25日発行(早川書房)

143) 「フェルマーの最終定理」

ピュタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで(サイモン・シン著)

Simon Singh: Fermat's Last Theorem

The Story of a riddle that confounded the world's greatest minds for 358 years(青木薫訳)

第I章 「ここで終わりにしたいと思います」 第II章 謎をかける人

第III章 数学の恥 第IV章 抽象のなかへ 第V章 背理法 第VI章 秘密の計算

第VII章 小さな問題点 第VIII章 数学の大統一 補遺

平成12(2000)年1月30日発行

平成13(2001)年9月20日第15刷(新潮社)

144) 「定本 伊藤静雄全集」全一卷(桑原武夫 小高根二郎 富士正晴編集)

詩集 わがひとに與ふる哀歌 詩集 夏花 詩集 春のいそぎ

詩集 反響 小さい手帖から わがひとに與ふる哀歌 わが家はいよいよ小さし

『反響』以後 拾遺詩篇 散文 日記 書簡

昭和46(1971)年11月25日初版発行

昭和51(1976)年3月31日重版発行(人文書院)

145) 「詩人、その生涯と運命」--書簡と作品から見た伊藤静雄(小高根二郎著)

『わがひとに與ふる哀歌』期 『夏花』期 『春のいそぎ』期 『反響』期

昭和51(1976)年1月15日初版発行(国文社)

146) 「詩人 伊藤静雄」(小高根二郎著)新潮選書

1 負いめある生立ち 2 予言としての悲劇 3 悲劇と空しい栄光

4 乞食というアダ名の教師 5 同人雑誌『呂』による出発 6 『コギト』の誘いと参加

7 処女詩集の反響と拒絶 8 転居と古典への回心 9 和漢朗詠集に学ぶ調和

10 職場に寄せるシンパシー 11 平明な主潮と太平洋戦争

12 カタストロフィー・罹災と敗戦 13 戦後から死まで

昭和46(1971)年5月25日発行(新潮社)

- 147) 「伊藤静雄論」(小川和佑著)  
 ・雲雀の記憶--プロローグ ・生活者の真実として ・わがひとに与ふる哀歌  
 ・曠野の唄 ・伊藤静雄と三島由紀夫--その邂逅と訣別  
 ・かの微笑のひとを呼ばむ--伊藤静雄伝 ・伊藤静雄論の形成  
 -伊藤静雄書誌 -伊藤静雄研究文献目録 -年表  
 昭和 48(1973)年 11 月 15 日初刷(五月書房)
- 148) 「伊藤静雄」(杉本秀太郎著) 近代日本詩人選 18  
 ・序 ・晴れた日に ・曠野の歌 ・私は強いられる-- ・氷れる谷間  
 ・新世界のキノコ ・田舎道にて ・真昼の休息 ・帰郷者 ・同反歌  
 ・冷めたい場所で ・海水浴 ・わがひとに与ふる哀歌 ・静かなクセニエ  
 ・詠唱 ・四月の風 ・即興 ・秧鶏<クイナ>は飛ばずに全路を歩いて来る  
 ・詠唱 ・有明海の思い出 ・(読人不知) ・かの微笑のひとを呼ばむ  
 ・病院の患者の歌 ・行って お前のその憂愁の深さのほどに ・河辺の歌  
 ・漂泊 ・寧ろ彼らが私のけふの日を歌ふ ・鶯<ウグイス> ・(読人不知)  
 -年譜 -テキスト及び参考文献  
 -詩集『わがひとに与ふる哀歌』各篇の想定擬作者および発表誌一覧  
 昭和 60(1985)年 7 月 5 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)
- 149) 「伊藤静雄詩集」(桑原武夫 富士正晴編) 新潮文庫  
 ・わがひとに與ふる哀歌 ・夏花 ・春のいそぎ ・反響 ・反響以後 ・拾遺  
 -註 -伊藤静雄年譜  
 昭和 32(1957)年 5 月 15 日発行  
 昭和 46(1971)年 3 月 10 日 13 刷(新潮社)
- 150) 「伊藤静雄」現代詩読本 10  
 昭和 54(1979)年 8 月 1 日発行(思潮社)
- 150-2) 「伊藤静雄」現代詩読本--新装版  
 昭和 58(1983)年 8 月 1 日発行(思潮社)
- 151) 「Scatologia スカトロロジヤ 糞尿譚」(山田稔著)  
 1 スカトロロジヤとはなにか 2 糞をしたって 3 スウィフト考 4 尻を拭く話  
 5 垂れながし 6 エセ食糞譚 7 便所にて 8 放屁論 9 陽気な破壊者たち  
 10 I 外科病院にて--痔よ、さようなら--  
 昭和 41(1966)年 4 月 30 日第 1 刷発行(未来社)
- 152) 「伊藤整」日本の文学 59  
 ・汜濫 ・生物祭 ・出家遁世の志 ・若い詩人の肖像 ・逃亡奴隷と仮面紳士  
 ・芸術は何のためにあるか ・芸術の形式と秩序 ・求道者と認識者  
 昭和 40(1965)年 9 月 5 日初版発行  
 昭和 42(1967)年 5 月 15 日 3 版発行(中央公論社)
- 153) 「暗号」原理とその世界(長田順行著)  
 I 暗号について II 知らないコトバを使用する方法  
 III 特殊な暗号(暗号らしくない暗号) IV 量的に見た文字言語の特徴  
 V 一般的な暗号(暗号らしい暗号) VI 乱数と暗号 VII 漢字と暗号  
 VIII 機会暗号 付録 ミッドウェー海戦と D 暗号の解読  
 昭和 46(1971)年 12 月 9 日初版発行(ダイヤモンド社)
- 154) 「燃え尽きた地図」(安部公房著)  
 昭和 42(1967)年 9 月 30 日発行  
 昭和 46(1971)年 6 月 10 日 16 刷(新潮社)



155) 「ザ・新聞」 「病める巨人」 のカルテを公開する 別冊宝島 72

第一部 アブナイ新聞？三紙の研究

第二部 地方紙をめぐる物語 第三部 新聞記者の現在

第四部 新聞は怖い！あるいは庶民にとって新聞とは何か？

昭和 63(1988)年 1 月 25 日発行(JICC<ジック>出版局)

156) 「シュタージ<旧東独秘密警察>の犯罪」 (桑原草子著)

第一章 前代未聞の歴史の実験

第二章 作家エーリヒ・レーストの怒りと驚き

第三章 ライナー・クンツェ『暗号名「抒情詩」』の衝撃

第四章 「統一ドイツ・シュタージ書類法」への道

第五章 「過去の罪」の克服は可能か

付録 エーリヒ・レースト「シュタージ個人情報書類」

平成 5(1993)年 8 月 20 日初版発行(中央公論社)

157) 「幻妖」 小説集--日本文学における美と情念の流れ(編・解説 澁澤龍彦)

・新浦島(幸田露伴)・天守物語(泉鏡花)・魔術師(谷崎潤一郎)

・件<くだん>(内田百閒)・神の嫁(折口信夫)

・Kの昇天--或はKの溺死(梶井基次郎)・一寸法師譚(柳田國男)

・のんしゃらん記録(佐藤春夫)・黄泉<よみ>から(久生十蘭)

・死児変相(神西清)・喜壽童女(石川淳)・虫めづる姫君(堤中納言物語)

・東の方へ行く者、蕪<かぶら>を娶<とつ>ぎて子を生みし語<はなし>(今昔物語)

・冷泉院の水の精、人の形と成りて捕はれし語(今昔物語)

・近江国安義<あき>の橋の鬼、人を噉<くら>ひし語(今昔物語)

・獵師<かりびと>の母、鬼となりて子を噉はむとせし語(今昔物語)

・高陽川<かやがは>の狐、女と変じて馬の尻に乗りし語(今昔物語)

・蛤<はまぐり>の草紙(御伽<おとぎ>草紙)・花月(謡曲)

・二人比丘尼<びくに>(鈴木正三<しょうさん>)・白峰(雨月物語)(上田秋成)

・霧島山幽郷真語(八田知紀)はしがき(平田篤胤)

昭和 47(1972)年 12 月 25 日第 1 刷発行

昭和 49(1974)年 11 月 30 日第 2 刷発行(現代思潮社)

158) 「一遍上人」 --旅の思索者(栗田勇著)

第 3 章 歩み去る人々の群れ 第 2 章 二河白道を行く

第 3 章 煩惱の雲あつくして 第 4 章 信、不信をえらばず

第 5 章 浄、不浄をきらわず 第 6 章 日本一の狂惑のものかな

第 7 章 はねばはねよ をどらばをどれ 第 8 章 こころのはてををしる人ぞなき

第 9 章 法師にすべて要なし 第 10 章 極楽へとくしてまゐるべし

第 11 章 ともすれば地獄のほのを 第 12 章 心を西土の教にかけざらむ

第 13 章 書写即ちこれ解脱の山 第 14 章 念は出離の障りなり

第 15 章 野にすててけだものにほどこすべし

昭和 52(1977)年 9 月 20 日発行

昭和 52(1977)年 10 月 20 日 2 刷(新潮社)

158) 「イアラ」 (楳図かずお著) 異色短編傑作選

<イアラ>第 1 章 さなめ 第 2 章 しるし 第 3 章 わび 第 4 章 かげろう

第 5 章 うつろい 第 6 章 望郷 第 7 章 終焉

<短編傑作集>・ねむり ・雪の夜の童話 ・指 ・ねじれた空間 ・Smile ・指輪

・ロウソク ・くさり ・きずな ・愛の奇蹟 ・ほくろ ・目 ・洞 ・いろ

・衣 夏の終わり ・耳 ・一つの石 ・こがらし ・傷 ・宿 ・雪の人

・南へ ・ドアのむこう ・蟲たちの家 ・内なる仮面 ・烈願鬼 ・森の唄

・砂 ・波打ち際の女 ・螺旋階段 ・闇のアルバム

昭和 59(1984)年 7 月 5 日初版第 1 刷発行(小学館)

159) 「碁図かずお大研究」別冊宝島 675 (Tribute to Kazuo Umezu)

・ Introduction

- 「碁図ワールドという豊饒な作品世界への入口たらんことを」(別冊宝島編集部)
- ・ 漫画界の"孤峰"にミステリー作家界きっての漫画ファンが切り込む  
「碁図かずおロングインタビュー」碁図かずお×二階堂黎人
  - ・ コラム「私は見た！碁図かずおとの遭遇」(望月索)
  - ・ 代表作を徹底的に読む①「子供、愛、美意識『漂流教室』」(大原まり子)
  - ・ 同上②「大人になれない子供たちの終末との戦い『14歳』」(ひかわ玲子)
  - ・ 同上③「キミは、ここまで来たんだね！」碁図かずお『洗礼』を読む(小谷真理)  
その他略
- 平成 14(2002)年 8 月 25 日発行(宝島社)

160) 「生哲学」(田中晃著)

序論 生哲学の課題

第 1 章 生の原始構造

第 1 節 認識 第 2 節 了解 第 3 節 行為 第 4 節 生産 第 5 節 観相

第 2 章 生の領域 第 1 節 歴史 第 2 節 国家

第 3 章 生の應現 第 1 節 文化の概念 第 2 節 宗教 第 3 節 道徳 第 4 節 芸術

結論 生と死

昭和 17(1942)年 6 月 20 日発行

昭和 19(1944)年 5 月 20 日 6 版発行(1000 部)(朝倉書店)

161) 「倫理学」(田中晃著)

第一編 世界観の学

第 1 章 世界観の学の意味

第 2 章 世界観の類型

第 1 節 ユダヤの世界観 1 ユダヤの歴史と宗教 2 ヘレニズム文化  
3 キリストの出現

第 2 節 インドの世界観 1 輪廻思想と厭世観 2 バラモンの説教 3 釈尊の出現

第 3 節 中国の世界観 1 天の概念 2 儒教 3 易の思惟方法 4 老子 5 宋学

第 4 節 ギリシャの世界観 1 ギリシャ的精神 2 ギリシャ哲学の展開--自然の秩序  
3 ギリシャ哲学の展開--国家の秩序

第 5 節 日本の世界観 1 「むすび」の観念 2 日本思想の展開

第 3 章 現代の世界観

第 1 節 西洋近代文化の特質 第 2 節 自然観の問題 第 3 節 人間性の問題

第 4 節 現代の世界観--有限性の自覚 第 5 節 世界史の成立と東西文化の総合

第二編 西洋近世哲学史

第 1 章 近世哲学の先駆者 第 1 節 ベーコン 第 2 節 ホッブス

第 2 章 合理論

第 1 節 デカルト ・ 方法 ・ 実体 ・ 二元論

第 2 節 スピノーザ ・ 実体(神即自然) ・ 並行論 ・ 問題点 ・ 幸福

第 3 節 ライプニッツ ・ 二種の真理 ・ 実体(单子) ・ 予定調和 ・ 倫理説

第 4 節 ヴォルフ ・ 要約

第 3 章 経験論

第 1 節 ロック ・ 認識の起源 ・ 審理の問題

第 2 節 バークリ ・ 存在即知覚 ・ 知覚の主体--我

第 3 節 ヒューム ・ 印象 ・ 我の否定

第 4 章 先験哲学

第 1 節 カント

A 純粹理性批判 先験的感性論 先験的分析論 範疇の演繹 先験的弁証論

B 実践理性批判 現象界と英知界 自由と道徳 道徳の普遍性  
義務と人格 実践理性の要請

C 判断力批判 美的合目的性--美 目的論的合目的性--有機体

第 5 章 カント直後の思想界

## 第6章 ドイツ観念論

第1節 フィヒテ ・根本的立場--事行 ・理論的立場

・実践的立場 ・晩年の思想 ・社会哲学

第2節 シェリング ・出発点--自然への関心 ・自然哲学

・先験的観念論と美の問題 ・同一哲学 ・汎神論より有神論へ ・積極哲学--啓示

第3節 ヘーゲル ・問題点--絶対者の見方

A 客観的精神 抽象法 道德 人倫<家 市民社会 国家> 歴史哲学

B 絶対的精神 芸術 宗教 哲学 C 論理--弁証法

## 第三編 倫理学の諸説

第1章 他律的倫理学説 第1節 権威説

第2章 自律的倫理学説 第1節 直覚説 第2節 推理説 第3節 克己説

第4節 快樂説 第5節 功利説 第6節 活動説

昭和39(1964)年6月20日発行(第一印刷社)

## 162) 「ミュンヘン物語」(小松伸六著)

1 なぜミュンヘンなのか 2 幕末のドイツ人たち 3 慶応二年のミュンヘン

4 明治六年のミュンヘン 5 『即興詩人』とミュンヘン 6 ビールの町

7 『うたかたの記』をめぐって 8 「黄禍論」など 9 若き芸術家たちの町

10 日曜日の美術館 11 亡命者の植民地 12 バイエルン革命 13 ヒトラー一揆

14 大正教養主義者の去来 15 「冬の時代」へ 16 第二次大戦、開戦前夜の町

17 崩壊と再建 18 美文の町 19 ミュンヘンは耀いている

昭和59(1984)年5月25日第1刷(文藝春秋)

## 163) 「死を前にした人間」(フィリップ・アリエス著)

Philippe Ariès: L'homme devant la mort(成瀬駒男訳)

第1巻 横臥像の時代

第1部 われらは皆死にゆく

第1章 飼いならされた死 第2章 聖人の近くに、教会の近くに

第2部 己の死 第3章 死期。一つの人生の追憶 第4章 来世のための保証

第5章 横臥後、跪拝像と靈魂像

第2巻 野生化した死

第3部 遠くて近い死 第6章 引き潮 第7章 どくろ絵

第8章 死体 第9章 生きている死者

第4部 汝の死 第10章 大往生の時代 第11章 墓地参詣

第5部 倒立した死 第12章 倒立した死

結論 4つの主題による5つの変奏

平成2(1990)年11月16日第1刷発行

平成11(1999)年12月10日第6刷発行(1000部)(みすず書房)

## 164) 「ドイツ人が日本人によく聞く100の質問」改訂版

(柴田昌治、出口真理子、若林ひとみ、小畠泰、Hans-Günther Krauth 著)

キミはドイツ語で日本について話せるか? Hundert Fragen über Japan

I 社会生活・家庭生活 II 食生活・住生活 III 日本の伝統と文化

IV 政治・経済・制度 V スポーツ・趣味・娯楽 VI 日本さまざま

平成7(1995)年11月25日第1版(三修社)

## 165) 「マゾッホとサド」(ジル・ドゥルーズ著) 晶文選書47

Gilles Deleuze: Présentation de Sacher-Masoch --Le froid et le cruel--(蓮實重彦訳)

・サド、マゾッホ、そして二人の言語 ・描写の役割

・サドとマゾッホの相互補足性の限界 ・マゾッホと三人の女性 ・父親と母親

・マゾッホの小説技法の要素 ・法、ユーモア、そしてイロニー ・契約から儀式へ

・精神分析学 ・死の本能とは何か? ・サディズムの超自我とマゾヒズムの自我

昭和48(1973)年7月20日初版

昭和52(1977)年12月10日4刷(晶文社)

- 166) 「偉大な小国 オランダ事情」(永田明子著)  
 ・市民の生活 ・自然への姿勢 ・オランダのことば ・対日感情 ・オランダ気質  
 ・思想の背景 ・隣国づきあいの中で ・社会とその矛盾  
 昭和 55(1980)年 5 月 20 日初版発行(鎌倉書房)
- 167) 「続 明暗」(水村美苗著) ちくま文庫  
 登場人物紹介 ・津田由雄・清子・吉川夫人・関 ・安永 ・貞子(ていこ) ・小林  
 ・お延(のぶ) ・お時 ・岡本 ・継(つぎ)子 ・三好 ・お秀 ・藤井  
 昭和 21(2009)年 6 月 10 日第 1 刷発行(筑摩書房)
- 168) 「世紀末ウィーン」--政治と文化--(カール・E・ショースキー著)  
 Carl E. Schorske: Fin-de-Siècle Vienna --Politics and Culture--(安井琢磨訳)  
 序論  
 I 政治と心情<プシュケ>--シュニッツラーとホーフマンスタール  
 II リングシュトラセ--その批判者と近代的都市計画の生誕  
 III 新調子の政治--オーストリアのトリオ  
 IV フロイトの『夢判断』における政治と父殺し  
 V グスタフ・クリムト--絵画と自由自我の危機  
 VI 庭園の変容 VII 庭園の爆発--ココシュカとシェーンベルク  
 昭和 58(1983)年 9 月 9 日第 1 刷発行  
 昭和 59(1984)年 2 月 25 日第 3 刷発行(岩波書店)
- 169) 「復活」(トルストイ著)  
 Лев Николаевич Толстой:  
 Воскресение(北御門二郎訳)  
 第一編 第二編 第三編 昭和 54(1979)年 12 月 15 日第 1 刷発行(東海大学出版会)
- 170) 「くもの糸」北御門二郎聞き書き(南里義則著)  
 忘れ得ぬ人(澤地久枝)  
 「イワンの村」への新たな道標として(伊勢戸明)  
 ・トルストイとの出会い ・ハルビンの日々 ・兵役拒否 ・戦争の傍観者  
 ・民主化の風 ・誤訳指摘 ・憲法九条をめぐって ・イワンの馬鹿  
 ・トルストイ三大長編の出版 ・翻訳論争 ・くもの糸に  
 平成 17(2005)年 8 月 10 日初版発行(不知火書房)
- 171) 「新独英比較文法」(三好助三郎著) 日本図書館協会選定図書  
 Neue deutsche Grammatik, verglichen mit der englischen  
 序説 ドイツ語と英語  
 ドイツ語の字母(アルファベット)  
 発音  
 第 1 章 動詞の現在人称変化 第 2 章 名詞の性と数 第 3 章 名詞の格と冠詞  
 第 4 章 名詞の変化(1) 第 5 章 名詞の変化(2) 第 6 章 名詞の変化(3)  
 第 7 章 前置詞 第 8 章 動詞の 3 基本形 第 9 章 動詞の現在と過去  
 第 10 章 人称代名詞と所有代名詞 第 11 章 形容詞 第 12 章 形容詞の比較  
 第 13 章 複合時称と配語法 第 14 章 複合動詞 第 15 章 疑問代名詞  
 第 16 章 関係代名詞 第 17 章 指示代名詞 第 18 章 話法の助動詞  
 第 19 章 受動態 第 20 章 再帰動詞 第 21 章 非人称動詞と es の用法  
 第 22 章 不定詞 第 23 章 分詞 第 24 章 命令法 第 25 章 接続法--間接話法  
 第 26 章 要求話法 第 27 章 非現実話法 第 28 章 副詞 第 29 章 接続詞  
 第 30 章 数詞 第 31 章 不定代名詞と不定数詞 第 32 章 動詞と形容詞の格支配  
 昭和 52(1977)年 7 月 1 日初版発行  
 平成 16(2004)年 7 月 1 日第 15 刷(郁文堂)

- 172) 「アウトサイダー」(C. ウイルソン著)  
 Colin Wilson: Outsider(福田恆存・中村保男訳)  
 第1章 盲人の國 第2章 無価値の世界 第3章 ロマン主義的アウトサイダー  
 第4章 制御への試み 第5章 苦痛の閾 第6章 自我の本體  
 第7章 大いなる綜合 第8章 幻を見るアウトサイダー 第9章 回路からの脱出  
 昭和32(1957)年4月15日第1刷発行  
 昭和45(1970)年11月14日第33刷発行(紀伊國屋書店)
- 173) 「暗黒のまつり」(C. ウイルソン著)  
 Colin Wilson: Ritual in the Dark(中村保男訳)  
 昭和35(1960)年11月30日発行  
 昭和50(1975)年12月10日8刷(新潮社)
- 174) 「三人の超能力者の話」(コリン・ウイルソン著)  
 Colin Wilson: Strange Powers(中村保男訳)  
 第1章 ロバート・レフトウィッチ  
 第2章 ユーニス・ビーティー夫人  
 第3章 アーサー・ギールドム博士  
 昭和50(1975)年5月20日発行(新潮社)
- 175) 「世界文学全集 21」20世紀の文学(川村二郎解説)  
 ・聖バルバラの漁民一揆(ゼーガース)  
 Anna Seghers: Aufstand der Fischer von St. Barbara.(道家忠道訳)  
 ・ザンジバル--もしくは最後の理由--(アンデルシュ)  
 Alfred Andersch: Sansibar oder der letzte Grund(生野幸吉訳)  
 ・弟(ノサクク) Hans Erich Nossack: Der jüngere Bruder(中野孝次訳)  
 昭和40(1965)年10月28日発行(集英社)
- 176) 「世界文学全集 7」20世紀の文学(中村真一郎解説)  
 ウェルギリウスの死(ヘルマン・ブロッホ)  
 Hermann Broch: Der Tod des Vergil(川村二郎訳)  
 第1部 水--到着 Wasser--Die Ankunft  
 第2部 火--下降 Feuer--Die Abstieg  
 第3部 地--期待 Erde--Die Erwartung  
 第4部 瀨気<こうき>--帰郷 Äther--Die Heimkehr  
 昭和41(1966)年5月28日発行(集英社)
- 177) 「ドイツ語のこころ」(小林高四郎著) 至誠堂新書 15  
 1 ドイツ語の特性 ・ことばは生きている ・生きていることばを学ぶために  
 ・辞書だけでは分からないことば  
 2 ドイツ人の生活と気質 ・ドイツの思い出 ・ドイツ人自身のみたドイツ人氣質  
 ・ドイツの民族性 ・ドイツの短所 ・生活とことば ・大学と学生生活  
 ・学生のことば ・  
 3 ドイツの民俗 ・民俗学とことばの習得 ・民俗とことば ・生と死 ・祭り  
 ・悪魔と魔女 ・迷信 ・夢 ・右と左 ・色彩 ・動物について ・謎  
 ・七という数  
 昭和40(1965)年8月30日第1刷発行  
 昭和46(1971)年3月15日第3刷発行(至誠堂)
- 178) 「外国語の学び方」(渡辺照宏著) 岩波新書 462  
 I 外国語について II 学び方 III 道具だて IV 聞き方  
 V 話し方 VI 読み方 VII 書き方 VIII 第二外国語  
 昭和37(1962)年10月6日第1刷発行  
 昭和37(1962)年11月20日第4刷発行(岩波書店)

179) 「羊の歌」 --わが回想-- (加藤周一著) 岩波新書 689

- ・祖父の家 ・土の香り ・渋谷金王町 ・病身 ・桜横町 ・優等生
- ・空白5年 ・美竹町の家 ・犯行の兆 ・2-26事件 ・駒場 ・戯画
- ・高原牧歌 ・縮図 ・古きよき日の思い出 ・ある晴れた日に ・仏文研究室
- ・青春 ・内科教室 ・八月十五日

昭和43(1968)年8月20日第1刷発行

昭和44(1969)年2月10日第5刷発行(岩波書店)

180) 「続 羊の歌」 --わが回想-- (加藤周一著) 岩波新書 690

- ・信条 ・広島 ・1946年 ・京都の庭 ・第2の出発 ・詩人の家 ・南仏
- ・中世 ・故国の便 ・二人の女 ・冬の旅 ・音楽 ・海峡の彼方 ・偽善
- ・別れ ・外からみた日本 ・格物致知 ・AA作家会議 ・死別 ・審議未了

昭和43(1968)年8月20日第1刷発行

昭和44(1969)年2月10日第4刷発行(岩波書店)

181) 「エリザベート」 ハプスブルク家最後の皇女 (塚本哲也著)

Elisabeth Marie Henriette Stephanie Gisela Habsburg-Lothringen

プロローグ

第一部 春愁 花ひらくウィーンの森

第1章 世紀末の皇太子心中事件 第2章 ドイツ民族主義との戦い

第3章 孤独な少女 第4章 皇帝の溺愛 第5章 祖母暗殺の悲報

第6章 母皇太子妃の再婚 第7章 一途な初恋 第8章 プラハの新婚生活

第9章 ウィーンの革命家たち 第10章 破綻した結婚 第11章 サライエヴォの暗殺

第二部 青夏 波しぶくアドリア海

第12章 海軍士官レルヒとの悲恋 第13章 皇帝死す

第14章 ハプスブルク家の崩壊 第15章 皇女の離婚裁判

第16章 ペツネックとの出会い 第17章 過去との訣別 第18章 赤い皇女

第19章 マサリックとカレルギー 第20章 ヒトラーへの不安

第21章 子供たちの離反 第22章 ヒトラー山荘の脅迫

第23章 手おくれの挙国一致

第三部 晩秋 激流のドナウ河

第24章 ドイツ軍ウィーン占領 第25章 喪服の抗議 第26章 フロイト亡命

第27章 チェコスロヴァキア崩壊 第28章 第二次大戦へ--子供の死

第29章 レジスタンス 第30章 チャーチルのドナウ連邦構想

第31章 ペツネック強制収容所へ 第32章 国立オペラ劇場爆撃

第33章 ソ連兵と対決 第34章 ペツネック帰還 第35章 スターリン東欧支配

第36章 鉄のカーテン演説 第37章 国家条約交渉スタート

第38章 チェコ共産クーデター

第四部 厳冬 木枯し吹くブタペスト

第39章 正式の結婚届 第40章 ドイツ分断 第41章 「第三の男」

第42章 オーストリア中立構想 第43章 国家条約合意

第44章 冷泉の中の奇跡--条約調印 第45章 なつかしのわが家へ

第46章 愛する夫の死 第47章 ハンガリー動乱勃発

第48章 ソ連軍ブダペスト弾圧 第49章 王朝への郷愁

第50章 愛犬に囲まれた最後

エピローグ 平成4(1992)年4月30日第1刷

平成5(1993)年6月5日第15刷(文藝春秋)

182) 「ウィーンの錠開け屋」 出会いの三十有余年(福田宏年著)

1 巻ずしと中国--忘れられぬ人たち 2 一銭洋食--思い出の味

3 ゲーテ嫌いの弁--文学の周辺で 4 ウィーンの錠開け屋--ウィーン便り

5 秋の嵐--人生のすき間 平成7(1995)年10月30日発行(沖積舎)

- 183) 「現代のドイツ」文化と伝統(大西健夫編)  
 I 文化と余暇、その社会的背景 II 現代社会における労働と余暇  
 III 地域社会における文化-余暇政策 IV 日常生活における文化と慣習  
 V 余暇とスポーツ VI 余暇と旅行 VII 生活に根づく音楽 VIII 映画界の新しい息吹  
 IX 演劇界における新しい実験 X 文化遺産と博物館 XI 建築文化財とその保護  
 XII 図書-出版-図書館 XIII マスメディア  
 昭和 57(1982)年 10 月 10 日第 1 版発行(三修社)
- 184) 「ドイツの文学 11」ペーター・ヴァイス(渡辺健解説)  
 Ausgewählte Deutsche Dichtung  
 ・御者のからだの影 Peter Weiss: Der Schatten des Körpers des Kutschers(渡辺健訳)  
 ・消点 Peter Weiss: Fluchtpunkt(藤本淳雄訳)  
 昭和 41(1966)年 7 月 15 日第 1 版発行(三修社)
- 185) 「ドイツの文学 2」ハイネ Ausgewählte Deutsche Dichtung  
 ・詩集 Heinrich Heine: Gedichte(高安国世訳)  
 ・バッヘラッハのユダヤ司教 Der Rabbi von Bacherach(山下肇訳)  
 ・ファウスト博士 Der Doktor Faust(内垣啓一訳)  
 ・精霊物語 Elementargeister(小沢俊夫訳)  
 ・ベルリンだより Briefe aus Berlin(藤本淳雄訳)  
 ・ドン・キホーテ論 Einleitung zum Don Quixote(山下肇訳)  
 昭和 41(1966)年 9 月 15 日第 1 版発行(三修社)
- 186) 「詰むや詰まざるや」将棋無双・将棋図巧(門脇芳雄解説) 東洋文庫 282  
 ・将棋無双--詰むや詰まざるや百番--(七世名人 三代-伊藤宗看)  
 ・将棋図巧(贈名人 伊藤看寿)  
 昭和 50(1975)年 12 月 19 日初版第 1 刷発行  
 昭和 51(1976)年 5 月 20 日初版第 3 刷発行(平凡社)
- 187) 「続 詰むや詰まざるや」古典詰将棋の系譜(門脇芳雄編) 東洋文庫 335  
 1 草創期の詰将棋 2 興隆期の詰将棋 3 詰将棋黄金時代の前夜  
 4 詰むや詰まざるや 5 詰将棋黄金時代の立役者 6 詰将棋黄金時代の終幕  
 7 衰退期の詰将棋 8 詰将棋の復活  
 昭和 53(1978)年 7 月 20 日初版第 1 刷発行(平凡社)
- 188) 「高木貞治」近代日本数学の父(高瀬正仁著) 岩波新書<新赤版>1285  
 序章 故郷を訪ねて 第 1 章 金栗初めて開く--岐阜から京都へ  
 第 2 章 二人の師--河合十太郎と藤澤利喜太郎  
 第 3 章 自由な読書にふける--数論の海へ  
 第 4 章 後るること正に五十年--類体論の建設  
 第 5 章 日本人の独創性--高木貞治の遺産 終章 高木貞治と岡潔  
 平成 22(2010)年 12 月 17 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 189) 「ウィーン愛憎」ヨーロッパ精神との格闘(中島義道著) 中公新書 956  
 1 黄昏のウィーン 2 日本人学校教師として 3 ウィーンの日本人社会  
 4 ウィーン人とは 5 永遠の学生 6 家主との闘い 7 ウィーンでの結婚  
 平成 2(1990)年 1 月 25 日発行(中央公論社)
- 190) 「にっぽん部落」(きだみのる著) 岩波新書 623  
 1 はじめに 2 奇妙な時限 3 部落の単体性<ユニテ> 4 一人で何人世話できるか  
 5 伝統或は集団反射 6 部落の日々 7 都会と部落 8 表現の詐術 9 おわりに  
 昭和 42(1967)年 2 月 20 日第 1 刷発行  
 昭和 43(1968)年 8 月 10 日第 4 刷発行(岩波書店)

191) 「快樂主義の哲学」現代人の生き甲斐を探求する(濫澤龍彦著) Kappa Books  
1 幸福より、快樂を 2 快樂を拒む、けちくさい思想 3 快樂主義とは、何か  
4 性的快樂の研究 5 快樂主義の巨人たち 6 あなたも、快樂主義者になれる  
昭和 40(1965)年 3 月 1 日初版発行  
昭和 40(1965)年 3 月 20 日 10 版発行(光文社)

192) 「仏像の見方・見分け方」正しい仏像鑑賞入門(河原由雄監修)  
・ 仏像の種類と特徴 《如来 菩薩 明王 天部 羅漢 祖師》  
・ 仏像の見方-見分け方 《仏像の見方のポイント ほとけの 32 相 4 種の仏像の構成  
頭部で知る 目-口で知る 手の形(印相)で知る 持っているもの(持物)で知る  
着衣で知る 足と座り方で知る 台座で知る 光背で知る》  
・ 仏像の素材と製作法 《金銅造 鉄造 塑造 乾漆造 木造 埴造(せんぞう)  
押出造り 石造》  
・ 仏像の様式美 《仏像が日本に来るまで 仏像の様式を見て時代を知る》  
・ 仏師たちの人と作品 《飛鳥時代の仏師 奈良時代の仏師 平安時代の仏師  
鎌倉時代の仏師》  
・ 生活の中で楽しむ仏像案内 《ほとけさまを描こう 観音像を彫ろう  
古都の仏像-花の寺 札所巡り 仏像を求める「ほとけ」の縁日とご利益》  
平成 14(2002)年発行《本書は 7 年 7 月に刊行された「仏像の見方・見分け方百科」  
に最新情報を加えた改訂版》(主婦と生活社)

193) 「仏像 心とかたち」(望月信成・佐和隆研・梅原猛著) NHK ブックス 20  
・ 仏像のこころ ・ 仏像の誕生--釈迦如来像 ・ 釈迦如来像に心を探る  
・ 現世利益の仏--薬師如来像 ・ 薬師如来像に心を探る  
・ 悲願への憧憬--阿弥陀如来像 ・ 阿弥陀如来像に心を探る  
・ 絶対の探求--大日如来像 ・ 大日如来像に心を探る  
・ 変化の仏--観音菩薩像 ・ 観音菩薩像に心を探る  
・ 路傍の仏--地藏菩薩像 ・ 地藏菩薩像に心を探る  
昭和 40(1965)年 4 月 20 日第 1 刷発行  
昭和 46(1971)年 12 月 10 日第 39 刷発行(日本放送出版協会)

194) 「仏像 心とかたち」(望月信成・佐和隆研・梅原猛著) NHK ブックス 30  
・ 未来の仏--弥勒菩薩像 ・ 弥勒菩薩像に心を探る  
・ さまざま菩薩--普賢、文殊、虚空蔵菩薩像 ・ 普賢、文殊像に心を探る  
・ 忿怒のほとけ--不動明王像 ・ 不動明王像に心を探る  
・ 武神と福神--諸天像 ・ 諸天像に心を探る  
・ 地獄/極楽--地獄/極楽図 ・ 地獄/極楽図に心を探る  
・ 禅の世界--達磨像 ・ 達磨像に心を探る ・ 曼荼羅で見る日本精神史  
昭和 40(1965)年 4 月 20 日第 1 刷発行  
昭和 46(1971)年 8 月 25 日第 24 刷発行(日本放送出版協会)

195) 「石川淳選集 第 1 巻」小説一(石川淳著)  
・ 葦手 ・ 山櫻 ・ 普賢 ・ マルスの歌 ・ 曾呂利咄 ・ 張柏端  
・ 鐵拐 ・ 雪のはた ・ 黄金傳説 ・ 無盡燈 ・ 燒跡のイエス  
昭和 54(1979)年 11 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)

196) 「石川淳選集 第 2 巻」小説二(石川淳著)  
・ 白描 ・ かよひ小町 ・ 處女懐胎  
昭和 54(1979)年 12 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)

197) 「石川淳選集 第 3 巻」小説三(石川淳著)  
・ 雪のイヴ ・ 飛梅 ・ 變化雜載 ・ 野ざらし ・ 最後の晚餐 ・ 善財  
・ 片しぐれ ・ 野守鏡 ・ 影ふたつ ・ 夜は夜もすがら  
昭和 55(1980)年 1 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)



198) 「石川淳選集 第4巻」小説四(石川淳著)

- ・おとしばなし堯舜 ・おとしばなし李白 ・おとしばなし和唐内
  - ・おとしばなし列子 ・おとしばなし管仲 ・おとしばなし清盛
  - ・ファルス ・夢の殺人 ・鷹虹 ・小公子 ・乞食王子 ・家なき子
- 昭和 55(1980)年 2月 7日 第1刷発行(岩波書店)

199) 「石川淳選集 第5巻」小説五(石川淳著)

- ・前身 ・狼 ・灰色のマント ・紫苑物語 ・まぼろし車
  - ・八幡縁起 ・今はむかし ・修羅 ・靈藥十二神丹
- 昭和 55(1980)年 3月 7日 第1刷発行(岩波書店)

200) 「石川淳選集 第6巻」小説六(石川淳著)

- ・白頭吟 昭和 55(1980)年 4月 7日 第1刷発行(岩波書店)

201) 「石川淳選集 第7巻」小説七(石川淳著)

- ・荒魂 昭和 55(1980)年 5月 7日 第1刷発行(岩波書店)

202) 「石川淳選集 第8巻」小説八(石川淳著)

- ・至福千年 昭和 55(1980)年 6月 6日 第1刷発行(岩波書店)

203) 「石川淳選集 第9巻」小説九(石川淳著)

- ・かくしごと ・怪異石佛供養 ・狐の生肝 ・獅子のファルス ・裸女變相
  - ・大徳寺 ・喜壽童女 ・死後の花嫁 ・ばけの皮 ・越天樂 ・二人權兵衛
  - ・金鶏 ・ゆう女始末 ・靴みがきの一日 ・鸚鵡石 ・無明 ・鏡の中
  - ・一露 ・若菜 ・虎の國
- 昭和 55(1980)年 7月 7日 第1刷発行(岩波書店)

204) 「石川淳選集 第10巻」小説+戯曲(石川淳著)

- ・天馬賦 ・武運 ・おまへの敵はおまへだ ・人目見て憎め
- 昭和 55(1980)年 8月 7日 第1刷発行(岩波書店)

205) 「古事記物語」(福永武彦作) 岩波少年文庫 2063

- 1 天の国と地の底の国
- 2 天<あめ>の岩屋
- 3 八<や>またの大蛇<おろち>
- 4 オオクニヌシノ神の冒険
- 5 海から来た小人<こびと>
- 6 高天原<たかまのはら>のお使いたち
- 7 朝日のさす国
- 8 海幸<うみさち>と山幸<やまさち>
- 9 東への道
- 10 七人の少女
- 11 四道<しどう>将軍
- 12 口をきかない御子<みこ>
- 13 ヤマトタケルノ命<みこと>の冒険
- 14 オキナガタラシ姫
- 15 カニの歌 劍<つるぎ>の歌 酒の歌
- 16 宇治の渡し守
- 17 赤い玉
- 18 春の神と秋の神
- 19 仁徳<にんとく>天皇とそのお后<きさき>たち
- 20 道をおしえる少女
- 21 かなしい兄妹
- 22 おさない王子の復讐
- 23 おばあさんの歌 トンボの歌 イノシシの歌
- 24 舞をまうふたりの少年

昭和 32(1957)年 12月 10日 第1刷発行

昭和 54(1979)年 12月 10日 第24刷発行(岩波書店)

206) 「夢野久作全集 第1巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・あやかしの鼓 ・夫人探索 ・いなか、の、じけん ・人の顔 ・死後の恋
- ・瓶詰の地獄 ・涙のアリバイ ・押絵の奇蹟 ・微笑 ・支那米の袋 ・鉄鎚
- ・空を飛ぶパラソル ・復讐 ・卵 ・童貞 ・一足お先に ・冗談に殺す ・靈感

解題(中島河太郎)

解説対談(尾崎秀樹--谷川健一)

昭和 44(1969)年 6月 30日 第1版発行(三一書房)

207) 「夢野久作全集 第2巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・ココナットの味 ・斜坑 ・怪夢 ・焦点を合わせる ・狂人は笑う
  - ・幽霊と推進機 ビルジング ・キチガイ地獄 ・老巡査
  - ・けむりを吐かぬ煙突 ・縊死体 ・暗黒公使
- 解題(中島河太郎) 解説対談(渡辺啓助--谷川健一)  
昭和44(1969)年7月31日第1版第1刷発行(三一書房)

208) 「夢野久作全集 第3巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・氷の涯 ・爆弾太平記 ・白菊 斬られたさに ・山羊鬚編集長 ・難船小僧
  - ・衝突心理 ・木魂 ・近眼芸妓と迷宮事件 ・白くれない ・骸骨の黒穂
  - ・笑う啞女 ・黒白ストーリー
- 解題(中島河太郎) 解説対談(鶴見俊輔--谷川健一)  
昭和44(1969)年8月31日第1版第1刷発行(三一書房)

209) 「夢野久作全集 第4巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・ドグラ-マグラ
- 解題(中島河太郎) 解説対談(なだいなだ--谷川健一)  
昭和44(1969)年9月30日第1版第1刷発行(三一書房)

210) 「夢野久作全集 第5巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・S 岬西洋婦人絞殺事件 ・超人鬚野博士 ・二重心臓 ・眼を開く ・犬神博士
- 解題(中島河太郎) 解説対談(森秀人--谷川健一)  
昭和44(1969)年11月15日第1版第1刷発行(三一書房)

211) 「夢野久作全集 第6巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・巡査辞職 ・無系統虎列刺 ・人間レコード ・髪切虫 ・継子 ・人間腸詰
  - ・悪魔祈禱書 ・少女地獄 ・名娼満月 ・女抗主 ・戦場 ・冥土行進曲
  - ・芝居狂冒険 ・オンチ ・名君忠之 ・赤猪口兵衛
- 解題(中島河太郎) 解説対談(埴谷雄高--谷川健一)  
昭和44(1969)年12月31日第1版第1刷発行(三一書房)

212) 「夢野久作全集 第7巻」(中島河太郎・谷川健一編集)

- ・近世快人伝 ・父杉山茂丸を語る ・白髪小僧(童話) ・鼻の表現 ・呑仙士
  - ・ビール会社征伐 ・月蝕 ・童話 ・探偵小説の正体 ・探偵小説の真使命
  - ・甲賀三郎氏に答う ・探偵小説漫想 ・線路 ・ざんげの塔 ・怪青年モセイ
  - ・塵 ・路傍の木乃伊 ・スランプ ・お茶の湯満腹談 ・私の好きな読みもの
  - ・創作人物の名前について ・恐ろしい東京 ・「生活」+「戦争」+「競技」÷0=能
  - ・能とは何か ・実さんの精神分析 ・道成寺不見記 ・猟奇歌 ・良心 ・第一義
- 解題(中島河太郎) 解説対談(杉山クラ・龍丸--谷川健一)  
昭和45(1970)年1月31日第1版第1刷発行(三一書房)

213) 「九州文學散歩」(野田宇太郎著)

- ・有田 ・伊萬里 ・平戸 ・佐世保 ・長崎 ・雲仙 ・島原 ・天草 ・熊本
  - ・鹿児島 ・日向路 ・佐伯 ・別府 ・中津 ・耶馬溪 ・小倉 ・若松
  - ・松浦湯 ・佐賀 ・柳河 ・久留米 ・朝倉 ・福岡
- 昭和28(1953)年8月10日初版  
昭和28(1953)年9月30日再版(創元社)

214) 「續九州文學散歩」(野田宇太郎著)

- ・筑紫よく見む ・小倉の鷗外 ・豊津 ・白秋のふるさと ・漱石の足跡
  - ・蘆花と熊本 ・人吉にて ・五木の谷のうた ・青島の回想 ・新しき村
  - ・椎葉の相聞 ・牧水の郷 ・佐伯の獨歩 ・肥前の蒲原有明
- 昭和29(1954)年5月31日初版発行(創元社)

215) 「ジャパンアズナンバーワン」 アメリカへの教訓(エズラ・F・ヴォーゲル著)  
Ezra F. Vogel: Japan as No. 1 Lessons for America(広中和歌子・木本彰子訳)

第一部 日本の挑戦

第1章 アメリカの「鏡」 第2章 日本の奇跡

第二部 日本の成功

第3章 知識--集団としての知識追求

第4章 政府--実力に基づく指導と民間の自主性

第5章 政治--総合利益と公正な分配 第6章 大企業--社員の一体感と業績

第7章 教育--質の高さと機会均等

第8章 福祉--すべての人の権利としての生活保障

第9章 防犯--取り締まりと市民の協力

第三部 アメリカの対応

第10章 教訓--西洋は東洋から何を学ぶべきか

昭和54(1979)年6月1日初版

昭和59(1984)年3月1日初版40刷(TBSブリタニカ)

216) 「中世への旅 騎士と城」(ハインリヒ・プレティヒャ著)

Heinrich Pleticha: Ritter, Burgen und Turniere(平尾浩三訳)

- ・歴史を恐れるな ・騎馬兵、騎士、盗賊--騎士道と騎士
- ・一万の城砦--城とその構造 ・快適なのは夏だけ--住居と設備
- ・ぶどう酒にも胡椒を入れて--食物と飲物 ・地獄窓と嘴靴--中世のファッション狂い
- ・時計の針に追いたてられることもなく--労働と娯楽
- ・厳格な作法教師--遊びと教育 ・勇士とミンネ--騎士文学について
- ・50キロ近くも引きずって--装備と武器 ・危険な娯楽--トゥルネイと決闘
- ・「雄羊」と「猫」--攻城戦 ・牛に引かせた旗車--戦争の有様
- ・おいなる目的のために--十字軍遠征 ・騎士にして修道士--三大騎士団について

昭和57(1982)年5月20日第1刷発行

昭和57(1982)年6月25日第2刷発行(白水社)

217) 「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

Ein kurzweilig lesen von Dyl Ulenspiegel(藤代幸一訳)

前口上

第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 第6話 第7話 第8話 第9話 第10話～  
～第91話 第92話 第93話 第94話 第95話 第96話

昭和54(1979)年12月14日初版第1刷(法政大学出版局)

218) 「放浪の女ペてん師クラージェ」(グリンメルスハウゼン) 古典文庫15

Grimmelshausen: Die Landstörtzerin Courasche(中田美喜訳)

第1章 第2章 ～第10章～第20章～第25章 第26章 第27章 第28章

昭和42(1967)年11月30日第1刷発行(現代思潮社)

219) 「雪の中の三人男」(エーリヒ・ケストナー)

「ガス屋クニッテル」(ハインリヒ・シュペール) 世界ユーモア文庫06

Erich Kästner: Drei Männer im Schnee

Heinrich Spoerl: Der Gasmann(小松太郎訳)

昭和53(1978)年1月20日新装版第1刷発行(筑摩書房)

220) 「十三の無気味な物語」(ハンス・ヘニー・ヤーン) 新しい世界の短編3

Hans Henny Jahnn: 13 nicht geheure Geschichten(種村季弘訳)

- ・ラグナとニルス ・奴隷の物語 ・時計職人 ・ササン王朝の王者 ・庭男
- ・ふたご物語 ・少年が泣く ・ケバット-ケニヤ ・マーマレードを食べる人たち
- ・モーフ ・家令を選ぶとき ・水中芸人 ・盗まれた馬

昭和42(1967)年12月20日第1刷発行

昭和47(1972)年1月20日第6刷発行(白水社)

221) 「ハムレット あるいは ながき夜は終りて 上」(アルフレート・デーブリン)  
Alfred Döblin: Hamlet oder die lange Nacht nimmt ein Ende(早崎守俊訳)

- 第一巻 ・帰還 ・病院にて ・アリソン家にて ・ロード・クレンショウの冒険  
・トゥリポリの王女 ・ロード・クレンショウ本題にはいる  
・ジョーフィがプーチト・レイを連れてトゥリポリにわたる  
・ジョーフィが父と再会する ・にせのジョーフィが王女からのがれるさま
- 第二巻 ・モンマントルの母 ・空想礼賛 ・指輪をなくした小姓の話  
・たとい人間がいるとしても ・ジェームズ-マッケンジイ  
・ゴードンが援助者を見つける ・ぼくは誠実さをもとめるから  
・ナウムブルクのドームにて ・天上にて 天使長ミカエル  
・マッケンジイ教授の真実 ・マッケンジイ教授が物語を語り始める  
・リア王の物語
- 昭和 45(1970)年 2 月 24 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

222) 「ハムレット あるいは ながき夜は終りて 下」(アルフレート・デーブリン)  
Alfred Döblin: Hamlet oder die lange Nacht nimmt ein Ende(早崎守俊訳)

- 第三巻 ・いのししは馴らすことができるか ・マッケンジイのソフトな治療法  
・アリスのブルーのサマー-ドレス ・冥界のシーン ・プルートとプロセルピナ  
・エドワードひとり ・あらわなあらそい ・ミケランジェロと愛  
・屋根裏部屋での発見 ・テオドーラ
- 第四巻 ・ある芝居 ・露見 ・欺瞞のながき夜は去る  
・ゴードン-アリソンの真実の物語 ・アリスとフランク-グレンとの愛  
・アリスの旅立ち ・ゴードンの懺悔 ・戦争はとっくに終わった  
・ドクター-キングの後悔
- 第五巻 ・乙女ペルセフォネイア ・現代の魔女の厨 ・スザンヌとアリス  
・絵 ・海べにて ・破滅者狩り ・ある試み ・調教 ・愛は永遠 ・ある訪問  
・混乱せる行進 ・マッケンジイ家の娘アリスがすわっていた ・透視術  
・再会 ・むかしむかしフランスにひとりの歌手がおりました  
・海峡を越えてのわかれ ・ながき夜の終り
- 昭和 45(1970)年 2 月 24 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

223) 「息吹き」(ハインリヒ・マン)

Heinrich Mann: Der Atem(片岡啓治訳)

- 1 路と目当て ・当てのない道 ・幕間劇 ・妄想のような作り話のヨウナ  
・アラン-メッサジェ、律儀な男 ・ぶしつけな見知らぬ男  
・バヴァーヌが鳴り、ある者が不安をもつ ・おまえの良き瞬間、エステル  
・生の背後をみる目
- 2 時 ・レオン-ジャム、たくましい男 ・毒ヲ盛ル ・ピジョン登場 ・彼女自身  
・幸福そのもの ・「伯爵夫人が死にます」 ・時の終わり
- 3 パン屋とホテル ・その声 ・心 ・デル-グリロ侯爵 ・三時のモノローグ  
・何てやさしく、善良な ・純粹な心
- 4 カシノ ・帰還の旅 ・ガストン氏 ・幸運は、何かのように--- ・良き間合い  
・孤独なドライブ ・同伴者
- 5 夜の酒場<バー> ・なぜ? ・奇妙な了解 ・パヴァーヌ ・床の対話  
・「あなたは誰?そこにいるあんたは」 ・その女は事情に通じているらしい  
・この日は長かった ・闘いの場
- 6 死の床 ・高貴な姿の出現 ・後生 ・贈物のすべて ・別れ ・その後、街道  
・その後、ホテル-ド-ニース
- 昭和 47(1972)年 4 月 10 日第 1 版第 1 刷発行  
昭和 53(1978)年 11 月 10 日第 2 版第 1 刷発行(恒文社)

224) 「若き W のあらたな悩み」(ウルリヒ・プレントドルフ) 新しい世界の文学  
Ulrich Plenzdorf: Die neuen Leiden des jungen W(早崎守俊訳)  
昭和 51(1976)年 7 月 10 日発行(白水社)

- 225) 「曙光くしょこう」(フリードリヒ・ニーチェ) ニーチェ全集 V  
 Friedrich Nietzsche: Morgenröthe.  
 Gedanken über die moralischen Vorurtheile(氷上英廣訳)  
 序文  
 第1章(Erstes Buch)1~96 第2章(Zweites Buch)97~148  
 第3章(Drittes Buch)149~207 第4章(Viertes Buch)208~422  
 第5章(Fünftes Buch)423~575 昭和26(1951)年1月25日発行(新潮社)
- 226) 「河の風景に立つ女たち」(ハインリヒ・ベル)  
 Heinrich Böll: Frauen vor Flußlandschaft(越智和弘訳)  
 第1章 第2章 第3章 第4章 第5章 第6章 第7章 第8章  
 第9章 第10章 第11章 第12章  
 平成2(1990)年3月12日初版発行(同学社)
- 227) 「廃墟文学の承認」(ハインリヒ・ベル)  
 Heinrich Böll: Bekenntnis zur Trümmerliteratur(加藤泰義訳)  
 ・私自身のこと ・この国では ・若きカトリック教徒への手紙 ・芸術と宗教  
 ・監獄と美術館の間 ・現代人と現実 ・ドイツ人のきざな気どり屋について  
 ・カクテルパーティー ・古いさまざまな顔のある町 ・ライン川 ・何がケルン風か  
 ・新聞売り ・求む、祖父母 ・言葉---自由の砦 ・子羊と狼 ・長編小説について  
 ・洗濯場の擁護 ・廃墟文学の承認 ・ヴォルフガング-ボルヒェルトの声  
 ・トマス-ウルフ---そして人生の苦い秘密 ・ヨーゼフ-ロートの記念碑  
 ・書くことの冒険 昭和50(1975)年12月10日初版発行(芸立出版)
- 228) 「カタリーナの失われた名誉」(ハインリヒ・ベル)  
 Heinrich Böll: Die verlorene Ehre der Katharina Blum  
 oder Wie Gewalt entstehen und wohin sie führen kann(藤本淳雄訳)  
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10~50 51 51 53 54 55 56 57 58  
 昭和50(1975)年 Printed in Japan(サイマル出版会)  
 発行日は<売り上げカード>に記載
- 229) 「ものの聲ひとの聲」(水上勉著)  
 ・こころ根のふるさと ・へっこ餅と菩提寺 ・父母を抱き直す日々  
 ・山門を出づる日まで ・庫裡<くり>王国の「掟」に耐えて  
 ・青葉山分教場の庭 ・知恵おくれについて ・虫の唄という勿れ  
 ・四枚のぞうきん ・足もとに提灯を  
 昭和55(1980)年11月10日初版発行(小学館)
- 230) 「苦役列車」(西村賢太著)  
 ・苦役列車「新潮」2010年12月号  
 ・落ちぶれて袖に涙のふりかかる「新潮」2010年11月号  
 平成23(2011)年1月25日発行  
 平成23(2011)年2月5日2刷(新潮社)
- 231) 「山川方夫珠玉選集 上」《煙突》  
 ・煙突 ・猫の死と ・遠い青空 ・その一年 ・演技の果て ・愛のごとく  
 昭和47(1972)年5月15日第1刷発行(冬樹社)
- 232) 「山川方夫珠玉選集 下」《最初の秋》  
 ・昼の花火 ・お守り ・夏の葬列 ・十三年 ・赤い手帖 ・待っている女  
 ・春の驟雨 ・街のなかの二人 ・海岸公園 ・最初の秋  
 昭和47(1972)年5月30日第1刷発行(冬樹社)

233) 「火宅の人」(檀一雄著)

- ・微笑 ・ 惑いの部屋 ・ 霧の裂け目 ・ 風の奈落 ・ 野鴨 ・ 火宅 ・ 我が枕
  - ・ 灼かれる人 ・ 吹雪の地図 ・ 蠟涙 ・ 寂光 ・ 白夜 ・ 帰巢者 ・ 数え歌 ・ 楚歌
  - ・ 雲に鳥 ・ 有頂天 ・ 黄なる涙 ・ わが祭り ・ きぬぎぬ ・ 骨 ・ キリギリス
- 昭和 50(1975)年 11 月 15 日発行  
昭和 51(1976)年 7 月 5 日 24 刷(新潮社)

234) 「黒い雨」(井伏鱒二著)

- 昭和 41(1966)年 10 月 25 日発行  
昭和 41(1976)年 11 月 5 日 2 刷(新潮社)

235) 「女たちのジハード」(篠田節子著)

- ・ ナイーヴ ・ アダムの背中 1 ・ シャトレヌ<城主> ・ アダムの背中 2
  - ・ コースアウト ・ 扉を開けて ・ ファーストクラスの客 ・ 上昇気流
  - ・ それぞれの春 ・ 250 個のトマトの夜 ・ 離陸 ・ タッチ アンド ゴー
  - ・ 34 歳のせみしぐれ
- 平成 9(1997)年 1 月 30 日第 1 刷発行  
平成 9(1997)年 11 月 22 日第 10 刷発行(集英社)

236) 「岸辺のない海」(金井美恵子著)

- 昭和 49(1974)年 3 月 30 日初版発行  
昭和 49(1974)年 5 月 30 日再版発行(中央公論社)

237) 「愛の生活」(金井美恵子著)

- ・ 愛の生活「展望」1967 年 8 月号
  - ・ エオンタ「展望」1968 年 7 月号
  - ・ 自然の子供「新潮」1968 年 8 月号(「海の果実」改題)
- 昭和 43(1968)年 8 月 20 日初版第 1 刷発行  
昭和 46(1971)年 6 月 30 日初版第 6 刷発行(筑摩書房)

238) 「喪失」(福田章二著)

- ・ 蝶をちぎった男の話 ・ 喪失 ・ 封印は花やかに
- 昭和 45(1970)年 5 月 30 日初版  
昭和 48(1973)年 8 月 20 日 20 版(中央公論社)

239) 「久坂葉子作品集 女」(久坂葉子著)

- ・ 久坂葉子の誕生と死亡 ・ 入梅 ・ 落ちてゆく世界 ・ 灰色の記憶
  - ・ 華々しき瞬間 ・ 幾度目かの最期 ・ あとがき(富士正晴)
- 昭和 53(1978)年 12 月 31 日初版発行  
昭和 55(1980)年 1 月 10 日 3 刷発行(六興出版)

240) 「迷路の旅人」(倉橋由美子著)

I 反小説論

II ・ 雲の塔 ・ 神と人間と家畜 ・ 子どもと大浴場へ ・ 玉突き台の上の文学

- ・ 神々の深謀遠慮 ・ 親友 ・ Mathematics is a language ・ あまりにホットドッグ的な
- ・ 正義派 ・ やさしさについて ・ 自然食の反自然 ・ 美少年と珊瑚 ・ アイオワの四季
- ・ 評伝的解説--島尾敏雄 ・ 英雄の死 ・ 女の味覚 ・ 私の小説と京都
- ・ 東京の本物の町 ・ 育児日記 ・ 素人の立場 ・ 書と文章
- ・ 「兄弟は他人の始まり」について ・ 文明の垢 ・ 花鳥風月 ・ 己を知ること
- ・ 新しさとは何か ・ 歌は優雅の花 ・ わが敬愛する文章 ・ 風信 ・ 幼稚化の傾向
- ・ 子は親のものか ・ 「反埴谷雄高」論 ・ 自己を知る ・ 心に残る言葉
- ・ 沖縄に行った話

III 遊びと文学

昭和 47(1972)年 5 月 28 日第 1 刷発行(講談社)

241) 「女ぎらい」 ニッポンのミソジニー(上野千鶴子著)

- 1 「女好きの男」のミソジニー 2 ホモソーシャル-ホモフォビア-ミソジニー
- 3 性の二重基準と女の分断支配 4 「非モテ」のミソジニー
- 5 児童性虐待者のミソジニー 6 皇室のミソジニー 7 春画のミソジニー
- 8 近代のミソジニー 9 母と娘のミソジニー 10 「父の娘」のミソジニー
- 11 女子高文化とミソジニー 12 東電OLのミソジニー(1)
- 13 東電OLのミソジニー(2) 14 女のミソジニー/ミソジニーの女
- 15 権力のエロス化 16 ミソジニーは超えられるか

昭和 22(2010)年 10 月 16 日第 1 刷発行

昭和 23(2011)年 2 月 4 日第 7 刷発行(紀伊國屋書店)

242) 「大人のための残酷童話」(倉橋由美子著)

- ・人魚の涙 ・一寸法師の恋 ・白雪姫 ・世界の果ての泉 ・血で染めたドレス
- ・鏡を見た王女 ・子供たちが豚殺しを真似した話 ・虫になったザムザの話
- ・名人伝補遺 ・盧生の夢 ・養老の滝 ・新浦島 ・猿蟹戦争 ・かぐや姫
- ・三つの指輪 ・ゴルゴーン的首 ・故郷 ・アンドローラーの壺 ・ある恋の物語
- ・鬼女の島 ・天国へ行った男の子 ・安達ヶ原の鬼 ・異説かちかち山
- ・飯食はぬ女異聞 ・魔法の豆の木 ・人は何によって生きるのか

昭和 59(1984)年 4 月 20 日発行

昭和 59(1984)年 9 月 25 日 10 刷(新潮社)

243) 「わたしのなかのかれへ」全エッセイ集(倉橋由美子著)

- 1960 年 ・受賞のことば ・私が受験した頃 ・学生よ、驕るなかれ  
・政治の中の死 ・ころぶ話 ・わたしの「第三の性」 ・袋に封入された青春  
・奇妙な観念 ・虚構の英雄-市川雷蔵
- 1961 年 ・わたしの文学と政治 ・繭のなかの生活 ・防衛大の若き獅子たち  
・風景のない旅
- 1962 年 ・女性講座 ・私の初恋 ・ロマンは可能か ・田舎暮し  
・愛と結婚に関する六つの手紙 ・石の饗宴-四国の龍河洞
- 1963 年 ・ある破壊的な夢想 ・京都からの手紙 ・平泉で感じる「永遠」と「廃墟」  
・スクリーンのまえのひとりの女性 ・わたしの痴漢論 ・H 国訪問記  
・カルデラの暗鬱な獣たち ・わたしの無責任老人論
- 1964 年 ・横波三里 ・ビュートルと新しい小説 ・日本映画のなかの日本人  
・性と文学 ・性は悪への鍵 ・サムシング-エルス ・T 国訪問記  
・ある独身者のパーティ ・死後の世界 ・作家の秘密 ・ロレンス-ダルとわたし  
・誰でもいい結婚したいとき ・言葉のつくり出す現実
- 1965 年 ・巫女とヒーロー ・土佐のことば ・妖女であること ・記憶喪失  
・わたしの小説作法 ・表現の自由の意味 ・お遍路さん ・女の「歓び」と「カボチャ」  
・『倦怠』について ・「綱渡り」と仮面について ・稿料の経済学  
・層雲峡から阿寒への道 ・雄大で堂々たる通俗映画の傑作  
・かっこうの鳴くおもちゃの町 ・純小説と通俗小説 ・妄想のおとし穴  
・夫との共同生活 ・日録 ・いやな先生 ・「もの」神経症および存在論的映画
- 1966 年 衰弱した性のシンボル ・インセストについて  
・「言葉のない世界」へおりていく ・青春の始まりと終り ・My Life in Books  
・愛と結婚の雑学的研究 ・映画対文学、市民対庶民 ・小説の迷路と否定性  
・細胞的人間の恐怖 ・毒薬としての文学
- 1968 年 ・テキサス州ダラス ・坂口安吾論 ・異邦人の読んだ『異邦人』  
・ヴァージニア ・ホメーロス<イーリアス> ・アメリカの大学  
・アイオワの冬 ・JOB としての小説書き ・わたしの字引き ・街頭詩人  
・テレビ このごろ ・ギリシャ悲劇とパゾリーニの「アポロンの地獄」  
・カミュの『異邦人』やカフカの作品
- 1969 年 ・安保時代の青春 ・職業としての文学 ・本と友だち  
・なぜ書くかということ ・ポオの短編小説 ・巨大な毒虫のいる生活  
・「寺子屋」英語のことなど ・わたしの読書散歩 ・主婦の仕事

- ・わたしの育児法 ・秩序の感覚 ・新しい文学のために ・修身の町 ・一緒不住
  - ・おしゃべりについてのおしゃべり ・ベビー-シッター ・わが愛する歌
  - ・人間の狂気の世界 ・母親は女神である ・漫画読みの感想 ・非政治的な立場
  - ・作家にとって現代とは何か ・「千一夜」の壺を求めて ・本との出会い
  - ・小説は現代芸術たりうるか ・青春について ・主婦の驕り
  - ・精神の健康を保つ法 ・文学的人間を排す
- 昭和 45(1970)年 3 月 12 日第 1 刷発行  
昭和 46(1971)年 3 月 8 日第 9 刷発行(講談社)

244) 「鷗外選集 第 1 巻」小説一(森林太郎著)

- ・舞姫 ・うたかたの記 ・文づかひ ・そめちがへ ・半日 ・懇親会
  - ・追儼<ついな> ・魔睡 ・大発見 ・キタ-セクスアリス ・鶏 ・金貨 ・金比羅
- 昭和 53(1978)年 11 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

245) 「鷗外選集 第 2 巻」小説二(森林太郎著)

- ・独身 ・杯 ・牛鍋 ・電車の窓 ・木精 ・里芋の芽と不動の目 ・青年
  - ・栈橋 ・普請中 ・ル-パルナス-アンビュラン ・花子 ・あそび ・沈黙の塔
- 昭和 53(1978)年 12 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

246) 「鷗外選集 第 3 巻」小説三(森林太郎著)

- ・藤鞆絵<ふじともえ> ・蛇 ・心中 ・鼠坂 ・羽鳥千尋 ・百物語 ・ながし
  - ・妄想 ・カズイスチカ ・流行 ・不思議な鏡 ・食堂 ・田楽豆腐 ・雁
- 昭和 54(1979)年 1 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

247) 「鷗外選集 第 4 巻」小説四(森林太郎著)

- ・灰燼 ・かのやうに ・吃逆 ・藤棚 ・鎚一下 ・興津弥五右衛門の遺書
  - ・阿部一族 ・佐橋甚五郎 ・護持院原の敵討 ・大塩平八郎
- 昭和 54(1979)年 2 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

248) 「鷗外選集 第 5 巻」小説五(森林太郎著)

- ・堺事件 ・安井夫人 ・山椒大夫 ・天寵 ・二人の友 ・魚玄機 ・余興
  - ・じいさんばあさん ・最後の一句 ・高瀬舟 ・寒山拾得 ・栗山大膳 ・梶原品
  - ・都甲太兵衛 ・津下四郎左衛門 ・本家分家
- 昭和 54(1979)年 3 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

249) 「鷗外選集 第 6 巻」小説六(森林太郎著)

- ・澀江抽斎 ・寿阿弥の手紙 ・細木香以 ・小嶋宝素
- 昭和 54(1979)年 4 月 23 日第 1 刷発行(岩波書店)

250) 「鷗外選集 第 7 巻」小説七(森林太郎著)

- ・伊沢蘭軒 上
- 昭和 54(1979)年 5 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

251) 「鷗外選集 第 8 巻」小説八(森林太郎著)

- ・伊沢蘭軒 下
- 昭和 54(1979)年 6 月 22 日第 1 刷発行(岩波書店)

252) 「漂流怪人・きだみのる」(嵐山光三郎著)

- 1 一枚の写真
  - 2 豚アバラ肉の宴会
  - 3 天より降りたった料理人
  - 4 きだドンはアナキストか
  - 5 どっちが親だかわからない
  - 6 人間は最悪の猛獣である
  - 7 七十七歳のきだドン、大船渡へ
  - 8 ミミくんの入学
  - 9 『子育てごっこ』とその後
- 平成 28(2016)年 2 月 21 日初版第 1 刷発行(小学館)



- 253) 「ウィーンの辻音楽師」 他一篇(グリルパルツァー著) 岩波文庫 32-423-2  
 ・ウィーンの辻音楽師 ・ゼンドミールの修道院--ある伝承実話にもとづく--  
 Franz Grillparzer: Der arme Spielmann Das Kloster bei Sendomir(福田宏年訳)  
 昭和 54(1979)年 7月 16日 第1刷発行(岩波書店)
- 254) 「にんげん蚤の市」(高峰秀子著)  
 ・ホノルルの静かでない生活・のっぺらぼう・デコちゃんレター・眉間の縦じわ  
 ・小さな棘・人間鑑定図・年金花火・ホノルル便り・勲章の重さ・菜の花  
 平成 9(1997)年 1月 15日 第1刷(文藝春秋)
- 255) 「幼年」(高橋幸雄著)  
 幼年 ・幼年 ・虹と私  
 蒼ざめた領域 ・銅貨と田螺 ・氷菓 ・芽について ・松葉杖について  
 釣り石を負えるが如し ・釣り石を負えるが如し ・燕の京  
 昭和 53(1978)年 3月 18日 発行(皆美社)
- 256) 「退屈しのぎ」(高橋三千綱著)  
 ・退屈しのぎ「群像」1974年 6月号 ・三人暮し「群像」1974年 11月号  
 ・おれたち「群像」1975年 5月号  
 昭和 50(1975)年 7月 24日 第1刷発行  
 昭和 52(1977)年 3月 10日 第2刷発行(講談社)
- 257) 「男」(柳美里著)  
 ・目 ・耳 ・爪 ・尻 ・唇 ・肩 ・腕 ・指 ・髪 ・頬 ・歯  
 ・ペニス ・乳首 ・髭 ・脚 ・手 ・声 背中  
 平成 12(2000)年 2月 18日 初版第1刷発行  
 平成 12(2000)年 6月 20日 第6刷発行 20版(メディアファクトリー)
- 258) 「炎情」 熟年離婚と性(工藤美代子著)  
 ・女が悔いのない人生を求めるとき ・韓国の名医に聞いた「性器整形」の真実  
 ・女としての時間を燃焼させたい ・妻が浮気現場に踏み込むとき  
 ・夫の死を願うのにはワケがある ・南洋の島でのアバンチュール  
 ・女性専門せっくすかうんせりんぐの現場 ・夫のメールを覗き見たことがありますか  
 ・誰にも相談できない、セックスの不一致 ・"円満離婚"と思いこんでいる夫の能天気  
 ・セックスの道具が有効だったり、仇となったり  
 ・普通の母親が陥ったギャンブル依存症  
 ・別れは、自覚症状がないまま忍び寄ってくる  
 ・弁護士からの書類にあった「夫婦の濡れ場」  
 ・「最後に勝った」と笑う妻の執念 ・「普通の朝食」に憧れ、すべてを失った男  
 ・子連れ再婚夫とのセックスに心も冷めて  
 ・なぜ暴力男との結婚は繰り返されるのか  
 ・"熟女好き"の20代男性とのセックスで潤う  
 ・悪妻から逃げるには「蒸発」するしかなかったあの頃  
 ・まさか30年連れ添った夫がホモセクシャルだったとは  
 ・どんな夫婦にも必ずブラックボックスがある  
 ・女装癖の夫と別れたことは正しかったのか  
 ・異常なセックスしか知らなかった21年の悔恨  
 ・女性に人気のアダルトグッズ事情に迫る  
 ・携帯に写された若い女の痴態に涙が溢れて  
 ・誰かに甘えて現実逃避するのは、男のほう  
 ・心の整理はつかないけれど、人生をあきらめない  
 平成 21(2009)年 6月 10日 初版発行(中央公論新社)

259) 「一億人のアウトサイダー」新しい挑戦者日本(ハンス・W・ヴァーレフェルト)  
Hans Wilhelm Vahlefeld: 100 Millionen Außenseiter  
Die neue Weltmacht Japan(出水宏一訳)

序 日本との出会い

第一部 ・太平洋戦争 ・裕仁天皇 ・戦争裁判と公職追放 ・東京オリンピック  
・創価学会 ・組織された右翼 ・東京-ワシントン

第二部 ・文法なき社会 1 軍隊 2 産業の分裂症 3 父と子

・国家権力の迷路 ・親分-子分 ・無言の文化 ・東京と北京の間

昭和 44(1969)年 12 月 15 日第 1 刷発行

昭和 45(1970)年 8 月 15 日第 8 刷発行(東洋経済新報社)

260) 「新西洋事情」(深田祐介著)

・東の秘書と西の秘書と ・間接統治<インダイレクト-ルール>に栄光あれ

・舶来女房、愛すべし ・泣いてパリに馬謬<ばしょく>を斬る

・フランス式「蛙思考」のふしぎ ・日本「業者思想」欧州に死す

・植民都市歓迎の背景 ・「民主主義」夫人、南アにゆく

・家族連れ「地中海の旅」波高し ・アテンド悲歌 ・鎮魂-モスクワ郊外 60 キロ

昭和 50(1975)年 12 月 15 日第 1 刷発行

昭和 45(1977)年 2 月 10 日第 32 刷発行(北洋社)

261) 「西洋交際始末」(深田祐介著)

・「よだれ」の洗礼 ・西洋版「紀の国」へ ・入れ歯を洗う人々 ・さかさで参ろう

・にっぽん変心族 ・カプリへのながい旅路 ・さらば、愛<いと>しのジョニイ

・病児は水風呂に浸けよ ・車をめぐる冒険的生活 ・異人が妖怪になるとき

・マークス-アンド-スペンサー ・舞踏へ誘うもの ・西洋接吻作法

・永遠なる衆道<ソドム>の王国 ・われ、いずれにありや

・スチュワーデス看護婦説 ・空の民なら女なら ・隣家の女房

・犬嫌いは洋行すべからず ・アメリカ厨案内

・花ひらく泥棒術 ・西洋交際、恐るべし

昭和 51(1976)年 11 月 20 日第 1 刷

昭和 51(1976)年 12 月 30 日第 5 刷(文藝春秋)

262) 「最新東洋事情」(深田祐介著)1995 年版

・巨大国家-中国の暴走 ・大連への進出企業再び ・幻想の国ヴェトナムは、いま

・規制大国シンガポールの幸福 ・フィリピンは「高齢化社会」の救世主か

・赤貧国家インドの将来 ・インド-ハイテク産業の未来を担う

・奇病健在、アジアの恐怖 ・日本人より日本を愛する国、ミャンマー

・「日韓新時代」の幕開け

平成 7(1995)年 5 月 15 日第 1 刷(文藝春秋)

263) 「獨逸語學講話」(関口存男著)

Vorlesungen über die Deutsche Sprache

1) Denn と weil との区別に関する考察 2) 搬動詞 Lativum 3) 扮役的直説法

4) 術語の es 5) Es ist, das ist などと関係代名詞との関係 6) 四格主語と四格術語

7) 填詞としての四格 es を伴ふ熟語 8) Es の省略に就て 9) 事実を指す Wenn

10) Wie denn überhaupt 11) 間投的的反語に就て 12) Doch とは何ぞや?

13) Noch の用法 14) 再帰的表現と Existenz の解釈 15) Das liebe Geld

16) Daß es nur so eine Art hatte 17) Dahin と ins 18) 言語に於ける『可能性の濫用』

19) 部分的処理完成の an 20) Unter- と über-

21) Nomen actionis<動作名詞>に関する考察

昭和 14(1939)年 6 月 7 日発行

昭和 15(1940)年 11 月 25 日再版

昭和 17(1940)年 2 月 12 日三版(日光書院)

- 264) 「獨作文教程」(関口存男著)  
 Technik der Übersetzung aus dem Japanischen ins Deutsche  
 第1篇 語順の要点 第2篇 冠詞用法の要点 第3篇 AはBなり  
 第4篇 否定の諸形態 第5篇 相反的と認容的 第6篇 仮定と結論  
 第7篇 因由と結果 第8篇 目的と手段  
 昭和14(1939)年6月5日発行  
 昭和15(1940)年4月20日再版発行  
 昭和16(1940)年3月15日三版発行(日光書院)
- 265) 「間くあい>の山殺し」全戯曲集(富岡多恵子著)  
 ・間の山殺し ・子供の仕事 ・人形姉妹 ・結婚記念日  
 昭和56(1981)年2月30日第1刷発行(作品社)
- 266) 「仏陀」その生涯と思想(増谷文雄著)角川選書18  
 第1章 この人を見よ 第2章 比類くたぐい>なき人うまる--降誕  
 第3章 大いなる放棄--出家 第4章 大いなる道生ず--成道  
 第5章 汝らも見よ--正法 第6章 心理の王国なる--伝道の決意  
 第7章 鹿のすむ園にて--最初の説法 第8章 世の幸福のために--伝道の宣言  
 第9章 すべては燃ゆる--山上の説法 第10章 祇園精舎  
 第11章 人は何を願うべきか--涅槃寂靜 第12章 常恒くつね>なるもの無し--諸行無常  
 第13章 自己について--諸法無我 第14章 わが衷くうち>なる悪しきもの--悪魔物語  
 第15章 聖職者のまえに立ちて--対機説法(1) 第16章 庶民とともに--対機説法(2)  
 第17章 譬喩くたとえ>をもって 第18章 善き友とともに--僧伽の精神  
 第19章 雑話すべからず--教誡説法 第20章 貴賤と吉凶  
 第21章 法を見るものはわれを見る 第22章 自燈明、法燈明--最後の説法  
 昭和44(1969)年4月30日初版発行  
 昭和55(1980)年5月10日15版発行(角川書店)
- 267) 「日本売春史」遊行女婦からソープランドまで(小谷野敦著)新潮選書  
 第1章 売春に起源はあるのか 第2章 古代の遊女は巫女が起源か  
 第3章 遊女論争--網野善彦による「密輸入」 第4章 「聖なる性」論の起源  
 第5章 中世の遊女と網野史学 第6章 近世の遊女史  
 第7章 岡場所、地方遊郭、飯盛女 第8章 日本近代の売春--廃娼運動と自由恋愛  
 第9章 現代日本にも存在する売春--カフェ、赤線、ソープランド  
 平成19(2007)年9月20日発行(新潮社)
- 268) 「サイゴンから来た妻と娘」(近藤紘一著)  
 ・サイゴンからの子連れ妻 ・ベトナム式子育て法 ・わが家の性教育  
 ・妻は食いしん坊 ・夫婦そろって動物好き ・いくらしたかね?  
 ・ミーユンの思春期 ・ベトナム難民の涙 ・ベトナムからの手紙  
 昭和53(1978)年5月20日第1刷  
 昭和54(1979)年10月5日第10刷(文藝春秋)
- 269) 「彼の立場」(福沢英敏著)  
 ・新ヨブ記 ・死のほitori ・彼の立場 ・ある遠近法 ・哀しい男  
 昭和53(1978)年12月12日発行(審美社)
- 270) 「アイの問題」男と妻の4つの短篇小説(福沢英敏著)  
 ・アイの問題 ・家路 ・不の思想 ・病巢  
 昭和54(1979)年10月12日第1刷(冬樹社)
- 271) 「廻廊にて」(辻邦生著)  
 昭和38(1963)年7月15日発行  
 昭和48(1973)年6月20日第9刷(新潮社)

272) 「辻邦生集」(辻邦生著)新鋭作家叢書

・夏の砦 ・城

昭和 46(1971)年 11 月 30 日初版発行

昭和 46(1971)年 12 月 25 日再版発行(河出書房新社)

273) 「されどわれらが日々----」(柴田翔著)

・ロクタル管の話 ・されどわれらが日々----

昭和 39(1964)年 8 月 10 日第 1 刷

昭和 47(1972)年 10 月 25 日第 84 刷(文藝春秋)

274) 「立ち盡す明日」(柴田翔著)

・序章 ・第一章 ・第二章 ・第三章 ・第四章

昭和 46(1971)年 4 月 15 日発行

昭和 46(1971)年 8 月 10 日 7 刷(新潮社)

275) 「鳥の影」(柴田翔著)

・鳥の影 ・彼方の声 ・食堂の話 ・鏡の中

昭和 46(1971)年 11 月 25 日初版第 1 刷発行

昭和 49(1974)年 11 月 15 日初版第 10 刷発行(筑摩書房)

276) 「われら戦友たち」(柴田翔著)

・序章 待機する人々 ・第 1 章 舞台裏のパーティ ・第 2 章 間奏曲

・第 3 章 襲撃 ・第 4 章 金の行方 ・第 5 章 対決 ・終章 未完の大団円

昭和 48(1973)年 11 月 25 日第 1 刷(文藝春秋)

277) 「物くさ太郎の空想力」(多田道太郎著)

I ・手紙文 ・誤植 ・お待たせしました ・ばんざい ・あーしんど

・けんかの社会学 ・愚問愚答 ・下手な英語 ・語學趣味 ・外人ずれ

・世代 ・一蓮托生 ・老の坂 ・正月雑感 ・内なる自然 ・櫻花

・はげます会 ・長居 ・家を作る ・玄関 ・イメージの魔力 ・はじめて

・情にからむ ・団地では ・地方色 ・地下の歴史 ・パリの水 ・昼飯

・待て ・ほぼ同じ ・早起きは ・居眠り

II ・物くさ太郎の空想力 ・遊びふうの議論 ・情報量と体臭量 ・超短距離

・ノスタルジア考 ・歯のある咄 ・風呂敷 ・情報型少年 ・富岡多恵子の部屋

・近親相姦 ・うしろ姿 ・三下奴 ・ことば-亡命-羞恥 ・入浴の比較文化

III ・怠惰の思想

昭和 53(1978)年 5 月 8 日初版第 1 刷発行(冬樹社)

278) 「本棚の風景」(多田道太郎著)

わたしの書齋論

本の背後 ・「まえがき」と「あとがき」の読みかた

・ベストセラーの考察 ・題のつけかた

作家の背後 ・松本清張--はげしく情念を燃した人 ・野間宏--全体小説の方法

・宇野浩二--将来見直すべき作家

作品の背後 ・歳月--司馬遼太郎 ・樅の木は残った--山本周五郎

・風流使者--五味康祐 ・京の川--水上勉 ・大菩薩峠--中里介山

・黒い雨--井伏鱒二 ・丘に向かって人は並ぶ--富岡多恵子

・檸檬--梶井基次郎 ・絵本--田宮虎彦

昭和 56(1981)年 10 月 10 日第 1 刷(潮出版社)

279) 「球形時間」(多和田葉子著)

平成 14(2002)年 6 月 25 日発行

平成 15(2003)年 3 月 5 日 3 刷(新潮社)

- 280) 「犬婿入り」(多和田葉子著)  
 ・ペルソナ「群像」1992年6月号 ・犬婿入り「群像」1992年12月号  
 平成5(1993)年2月5日第1刷発行  
 平成5(1993)年2月10日第2刷発行(講談社)
- 281) 「福翁自伝」(福沢諭吉著)新かな・当用漢字注解つき(富田正文)  
 ・幼少の時 ・長崎遊学 ・大阪修業 ・緒方の塾風 ・大阪を去って江戸に行く  
 ・はじめてアメリカに渡る ・ヨーロッパ各国に行く ・攘夷論 ・再度米国行  
 ・王政維新 ・暗殺の心配 ・雑記 ・一身一家経済の由来 ・品行家風  
 ・老余の半生  
 昭和32(1957)年11月15日初版  
 平成5(1993)年5月15日18版(慶應通信)
- 282) 「笹まくら」(丸谷才一著) 講談社文庫  
 昭和48(1973)年6月15日第1刷発行(講談社)
- 283) 「裏声で歌へ君が代」(丸谷才一著) 純文学書下ろし特別作品  
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
 昭和57(1982)年8月25日発行  
 昭和57(1982)年9月30日4刷(新潮社)
- 284) 「丸谷才一集」(丸谷才一著) 新鋭作家叢書  
 ・笹まくら ・贈り物  
 昭和47(1972)年4月28日初版発行(河出書房新社)
- 285) 「日本語のために」(丸谷才一著)  
 I 国語教科書批判  
 1 子供に詩を作らせるな 2 よい詩を読ませよう 3 中学生に恋愛詩を  
 4 文体を大事にしよう 5 子供の文章はのせるな 6 小学生にも文語文を  
 7 中学で漢文の初歩を 8 敬語は普遍的なもの 9 文学づくのはよさう  
 10 文部省にへつらふな  
 II 未来の日本語のために 現在の日本語のために  
 III 当節言葉づかひ  
 1 総理大臣の散文 2 娘たち 3 片仮名とローマ字で 4 江戸明渡し  
 5 敬語はむづかしい 6 電話の日本語 7 泣虫新聞 8 テレビとラジオ  
 9 最初の文体 10 タブーと言霊 11 字体の問題 12 日本語への関心  
 昭和49(1974)年8月30日発行  
 昭和49(1974)年11月5日4刷(新潮社)
- 286) 「低空飛行」(丸谷才一著)  
 I 低空飛行 ・勅語づくし ・酒の肴 ・兵隊の位 ・街と料理屋 ・終り方が大切  
 ・野坂昭如は確信犯なりや ・小佐野さんのムームー ・金の怨み ・新聞の値段  
 ・最上のもの ・ゴキブリの言葉 ・男の運勢  
 II 自伝の材料 ・丸やぎ左衛門のこと ・子供ごころ ・あの年の夏 ・夢判断  
 ・先生であること1 ・先生であること2 ・天井が落ちた話 ・その夜のこと  
 ・前頭五枚目 ・忘れられない味  
 III 肖像画集 ・画家としての福永武彦 ・委細面談 ・大野さんのこと ・宗匠  
 ・菊池武一 ・郷愁 ・100メートル11秒の花嫁 ・友よ熱き頬よせよ 変形譚  
 ・相撲評論家としての吉田秀和 ・中野桃園町 ・彼の釣魚大全 ・友達の本  
 ・山本森康 ・田辺さんの戦争体験 ・武士の勇気 ・先輩 ・ドナルド・キーン  
 ・独断的平野謙論  
 IV ちょっと文学的 ・ゴシップに強くなる法 ・薬の名前 ・一冊の本 ・一戒  
 ・二次的文学 ・七月七日のこと ・雪の空

- V 田村隆一との付合 ・最初の東京 ・最初の京都 ・散歩 ・走る ・曳く-押す  
 ・「人間」 ・小堀さんから聞いた話 ・居酒屋 ・詩話 ・白昼夢 ・学長の夢  
 ・寝室 ・ユトリロのダブリン ・カンパチ ・微笑 ・おまつり ・空豆  
 ・ドナリー ・書評者としての文学者 ・イミテーション ・和田誠 ・珍竹林  
 ・あじさゝめ ・つゆのあとさき
- VI おしまひのページで ・さよならは日本語 ・遊べや ・十貫坂にて ・先生の前  
 ・旅の心得 ・アメリカのウォッカ ・神様になる ・賭け ・挨拶の句  
 ・出世魚考 ・博物誌 ・難問  
 昭和 52(1977)年 5 月 15 日発行  
 昭和 52(1977)年 6 月 5 日 2 刷(新潮社)

287) 「文章読本」(丸谷才一著)

- 第 1 章 小説家と日本語 第 2 章 名文を読め 第 3 章 ちよつと気取つて書け  
 第 4 章 達意といふこと 第 5 章 新しい和漢混淆文 第 6 章 言葉の綾  
 第 7 章 言葉のゆかり 第 8 章 イメージと論理 第 9 章 文体とレトリック  
 第 10 章 結構と脈絡 第 11 章 目と耳と頭に訴へえる 第 12 章 現代文学の条件  
 主要引用文献一覧  
 わたしの表記法について  
 昭和 52(1977)年 9 月 20 日初版発行  
 昭和 53(1978)年 1 月 10 日 8 版発行(中央公論社)

288) 「桜もさよならも日本語」(丸谷才一著)

- I 国語教科書を読む  
 1 分ち書きはやめよう 2 漢字配当表は廃止しよう  
 3 完全な 50 音図を教えよう 4 読書感想文は書かせるな  
 5 ローマ字よりも漢字を 6 漢語は使ひ過ぎないように  
 7 名文を読ませよう 8 子供に詩を作らせるな 9 古典を読ませよう  
 10 話し上手、聞き上手を育てよう 11 正しい語感を育てよう
- II 言葉と文字と精神と
- III 日本語へらず口  
 ・させていただく ・字音語考 ・郵便語と鉄道語 ・巨人の腹
- IV 大学入試問題を批判する  
 ・慶応大学法学部は試験をやり直せ ・小林秀雄の文章は出題するな  
 付録1 歴史的仮名づかひの手引き  
 付録2 和語と字音語の見分け方  
 わたしの表記法について  
 昭和 61(1986)年 1 月 25 日発行(新潮社)

289) 「私家版 日本語文法」(井上ひさし著)

- ・枕ことば ・擬声語 ・格助詞「が」の出世 ・ガとハの戦い ・時制と体制  
 ・受身上手はいつからなのか ・形容詞の味 ・自分定めと縄張りづくり  
 ・ナカマとヨソモノ ・論より情け ・尻尾のはなし ・漢字のなくなる日  
 ・漢字は疲れているか ・漢字とローマ字  
 ・振仮名損得勘定<ルビはそんなとくかをかかんがえる> ・句点<マル>と読点<テン>  
 ・句読点なんか知らないよ ・区切り符号への不義理 ・-----台の考察  
 ・晴れたりくもったり所により雨 ・一筆啓上、敬語はまだまだ元気でござる  
 ・恩の売り買い ・敬語量一定の法則 ・n 音の問題  
 ・素人の 古典まなびの 七五調 ・ $2n + 1$  ・ふたつの仮名づかい(ひ)  
 ・正書法序論 ・日本語は七通りの虹の色 ・ウソについての長いまえがき  
 ・話半分、嘘半分 ・外来語について ・「のだ文」なのだ  
 ・コンピュータがねをあげた  
 昭和 56(1981)年 3 月 25 日発行  
 昭和 56(1986)年 4 月 25 日 4 刷(新潮社)

290) 「セラピスト」 Silence in Psychotherapy(最相葉月著)  
遂語録(上) 第1章 少年と箱庭 第2章 カウンセラーをつくる  
第3章 日本人をカウンセリングせよ 第4章 「私」の箱庭  
第5章 ボーン・セラピスト

遂語録(中) 第6章 砂と画用紙 第7章 黒船の到来  
遂語録(下) 第8章 悩めない病 第9章 回復のかなしみ  
平成 26(2014)年 1月 30日 発行  
平成 26(2014)年 3月 15日 5刷(新潮社)

291) 「青いバラ」 Blue Rose(最相葉月著)  
[ロザ・ダマスセナ]ミスター・ローズとの対話 1  
第一章 イメージの系譜 「不可能」の花  
[アルバ]ミスター・ローズとの対話 2  
第二章 バイオ革命 青の野望 ブルー・ジーン  
[モッコウバラ]ミスター・ローズとの対話 3  
第三章 文明開「花」 美しい花がある  
[芳純]ミスター・ローズとの対話 4  
第四章 ブレイブ・ニュー・ローズ  
[かがやき]ミスター・ローズとの最後の対話  
平成 13(2001)年 5月 20日 初版第 1刷 発行(小学館)

292) 「人間的異常の考察」(宮本忠雄著)  
I ・現代人の文化的状況 ・単独者の世界 ・人間的現象としての性  
II ・フランツ・カフカ  
・ムンクの『叫び』をめぐって--幻覚的意識と創造--  
・モーリス・ユトリヨを観る  
・光太郎-智恵子--エピソードグラフィアのこころみ--  
III ・医学的人間学のために ・身体性の現象学 ・現代精神医学の思想  
IV ・創造の病理学--パトグラフィアとは何か--  
昭和 45(1970)年 8月 25日 初版第 1刷 発行(筑摩書房)

293) 「言語と妄想」 危機意識の病理(宮本忠雄著)  
I 時代精神の病理 ・現代文化の精神病理 ・怪異体験の構造  
・日本語と言語危機 ・危機としての神経症 ・人間の死と解体  
II 創造者の病理 ・カフカと妄想 ・アリス-キャロルドジソン ・上田秋成  
・ポーの宇宙 ・ダリ--そのマニエールとマニエリスム ・症例ゴヤ  
・分裂病と創造性  
III 空間-言語-妄想 ・空間と空間的思考 ・言語危機の病理  
・言語と妄想--精神分裂病の言語論的理解 1  
・妄想と言語--精神分裂病の言語論的理解 2  
昭和 49(1974)年 5月 2日 初版第 1刷 発行(平凡社)

294) 「迷宮としての人間」(中野美代子著)  
序 澁澤龍彦  
I ・迷宮としての人間 革命-悪-エロス  
・カニバリズム(人肉嗜食)論 その文学的系譜  
・中国人における血の観念  
II ・魔術における中国 仏陀とユートピア  
・中国残酷物語 マゾヒズムの文化史  
・虚構と遊戯 中国人の性格について  
III ・王国維とその死について 一つの三島由紀夫論のために  
・恐怖の本質 アンドレーエフ『血笑記』と魯迅『狂人日記』  
・創作 樹人煉獄 民国六年魯迅の手記  
昭和 47(1972)年 10月 25日 初版(潮出版社)

295) 「悪魔のいない文学」中国の小説と絵画(中野美代子著) 朝日選書 82

- ・悪魔のいない文学--中国近代リアリズム批判
  - ・衣裳としての思想-- 中国人における肉体不在
  - ・地平線の論理--中国人と風景および風景画
  - ・老舎--"幽默<ユーモア>から正経<まじめ>へ"の道
  - ・風刺からユーモアまで--中国人の場合
  - ・中国近代読者論--その成立-変遷-崩壊
- 昭和 52(1977)年 3月 20日 1刷発行(朝日新聞社)

296) 「最初の衝撃」全集・現代文学の発見・第1巻

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・奴隷根性論 日本脱出記(大杉榮) ・坑夫(宮嶋資夫) ・ですべら(辻潤)
  - ・性慾の觸手(竹林無想庵) ・アラベスク 力闘 私の未来主義と実行(平戸廉吉)
  - ・ダダイスト新吉の詩(高橋新吉) ・死刑宣告(萩原恭次郎)
  - ・頭の中の兵士 勲章 崖を登る(坪井繁治) ・夜から朝へ(岡本潤)
  - ・第四階級の文学 高村光太郎論(中野秀人) ・兵士について 何が道德か(村山知義)
  - ・唯物史観と文学 第四階級の文学(平林初之輔) ・三等船客(前田河廣一郎)
  - ・淫賣婦 セメント樽の中の手紙(葉山嘉樹) ・ガトフ・フセダグア(岩藤雪夫)
  - ・施療室にて 殴る(平林たい子) ・君は信ずるか(小川未明)
  - ・職工と微笑(松永延造) ・文芸批評といふもの 芥川龍之介と志賀直哉(井上良雄)
- 解説(秋山清) 昭和 43(1968)年 9月 10日 第1刷発行(學藝書林)

297) 「方法の実験」全集・現代文学の発見・第2巻

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・冥途 旅順入城式(内田百閒) ・F-O-U(佐藤春夫) ・蠅 静かなる羅列(横光利一)
  - ・水晶幻想(川端康成) ・猫町(萩原朔太郎) ・ゼーロン(牧野信一)
  - ・ルウヴェンスの偽画(堀辰雄) ・空想家とシナリオ(中野重治) ・幽鬼の街(伊藤整)
  - ・鷹(石川淳) ・虚空(埴谷雄高) ・月見座頭(神西清) ・赤い繭(安部公房)
  - ・飛ぶ男(福永武彦) ・地の群れ(井上光晴) ・「大秘事」--「小説平家」より(花田清輝)
- 解説(佐々木基一) 昭和 43(1968)年 5月 10日 第1刷発行(學藝書林)

298) 「革命と転向」全集・現代文学の発見・第3巻

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・春さきの風(中野重治) ・キャラメル工場から(佐多稲子)
  - ・渦巻ける鳥の群(黒島傳治) ・1928年3月15日(小林多喜二) ・暴力(武田麟太郎)
  - ・嵐に抗して(木村良夫) ・過程(生江健治) ・党生活者(小林多喜二)
  - ・牡丹のある家(佐多稲子) ・村の家(中野重治) ・団体(本庄陸男)
  - ・櫻の芽立(橋本英吉) ・日本プロレタリア文学運動の再認識(池田寿夫)
- 解説(平野謙) 昭和 43(1968)年 10月 10日 第1刷発行(學藝書林)

299) 「政治と文学」全集・現代文学の発見・第4巻

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・五勺の酒(中野重治) ・審判(武田泰淳) ・顔の中の赤い月(野間宏)
  - ・深尾正治の手記(椎名麟三) ・地下室から(田中英光) ・書かれざる一章(井上光晴)
  - ・夜の記憶(佐多稲子) ・パルタイ(倉橋由美子) ・石こそ語れ(真継伸彦)
  - ・芸術-歴史-人間(本多秋五) ・原子核エネルギー(火)(荒正人) ・反語的精神(林達夫)
  - ・政治と文学 「政治の優位性」とはなにか(平野謙) ・1匹と99匹と(福田恆存)
  - ・批評の人間性(中野重治) ・日本共産党批判(竹内好) ・政治と文学(小林秀雄)
  - ・組織と人間(伊藤整) ・政治のなかの死(埴谷雄高)
  - ・「政治と文学」理論の破産(奥野健男)
  - ・「革命運動の革命的批判」の問題点(針生一郎)
  - ・松川無罪確定の後(佐多稲子) ・政治と文学(高橋和巳)
- 解説(亀井秀雄) 昭和 43(1968)年 11月 10日 第1刷発行(學藝書林)



- 300) 「日常のなかの危機」全集・現代文学の発見・第5巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・崖の下(嘉村磯多) ・かきつばた(井伏鱒二) ・桜桃(太宰治)  
 ・インテリゲンチァ(高見順) ・愛のかたち(武田泰淳) ・野狐(田中英光)  
 ・落穂ひろい(小山清) ・神の道化師(椎名麟三) ・死の棘(島尾敏雄)  
 ・海辺の光景(安岡章太郎) ・プールサイド小景(庄野潤三) ・返照(小島信夫)  
 ・青梅雨(永井龍男) ・幻化(梅崎春生)  
 解説(松原新一) 昭和43(1968)年4月10日第1刷発行(學藝書林)
- 301) 「黒いユーモア」全集・現代文学の発見・第6巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・朝の雨(内田百閒) ・曾呂利咄(石川淳) ・白毛(井伏鱒二)  
 ・座頭H 崑崙山の人々(飯沢匡) ・檜山節考(深沢七郎) ・第一のボタン(武田泰淳)  
 ・雑談屋(富士正晴) ・世相(織田作之助) ・棒(安部公房)  
 ・鵜飼ひのコムニスト(平林彪吾) ・第七官界彷徨(尾崎翠)  
 ・ジャンケンポン協定(佐木隆三) ・アクチュアルな女(泉大八) ・あゝ無情(坂口安吾)  
 ・マッチ売りの少女(野坂昭如) ・鳥獣戯話(花田清輝)  
 ・果てしなき欲望(今村昌平・山内久)  
 解説(花田清輝) 昭和44(1969)年1月10日第1刷発行(學藝書林)
- 302) 「存在の探求(上)」全集・現代文学の発見・第7巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・櫻の木の下には 闇の繪卷(梶井基次郎) ・いのちの初夜(北條民雄)  
 ・悟浄出世 悟浄歎異(中島敦) ・彌勒(稻垣足穂) ・深夜の酒宴(椎名麟三)  
 ・死霊(埴谷雄高) ・ひかりごけ(武田泰淳) ・スタヴローギンの現代性(椎名麟三)  
 ・存在と非在とのっぺらぼう 夢について 可能性の作家 不可能性の作家(埴谷雄高)  
 ・滅亡について(武田泰淳)  
 解説(高良留美子) 昭和42(1967)年11月15日第1刷発行(學藝書林)
- 303) 「存在の探求(下)」全集・現代文学の発見・第8巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・自殺案内者(石上玄一郎) ・暗い絵(野間宏) ・摩天楼 夢の中での日常(島尾敏雄)  
 ・白痴 墮落論(坂口安吾) ・野火(大岡昇平) ・S・カルマ氏の犯罪--壁--(安部公房)  
 ・無盡燈(石川淳) ・胎内(三好十郎)  
 ・極の誘い 穀物と葡萄の祝祭 野生の幻影(吉田一穂)  
 ・砂漠について 檜岡幻想(花田清輝)  
 解説(埴谷雄高) 昭和42(1967)年1月10日第1刷発行(學藝書林)
- 304) 「性の追求」全集・現代文学の発見・第9巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・卍(まんじ)(谷崎潤一郎) ・私は海を抱きしめていたい(坂口安吾)  
 ・遠めがねの春(室生犀星) ・鳩(大江健三郎) ・砂の上の植物群(吉行淳之介)  
 ・エロ事師たち(野坂昭如) ・僧侶 抄(吉岡実) ・未成年 抄(春日井建)  
 ・A 感覚とV 感覚(稻垣足穂)  
 解説(澁澤龍彦) 昭和43(1968)年2月10日第1刷発行(學藝書林)
- 305) 「証言としての文学」全集・現代文学の発見・第10巻  
 (責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)  
 ・俘虜記(大岡昇平) ・夏の花(原民喜) ・戦艦大和の最期(吉田満)  
 ・シベリヤ物語(長谷川四郎) ・イペリット眼(藤枝静男) ・童貞(富士正晴)  
 ・曇り日(堀田善衛) ・発作(石上玄一郎) ・C町でのノート(西野辰吉)  
 ・暗い火花(木下順二) ・裁きは終りぬ(開高健) ・私はみた(梅崎春生)  
 ・松川裁判について(広津和郎) ・想像する自由(秋山駿) ・手紙(李珍宇)

解説(竹内泰宏)

昭和 43(1968)年 6 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

306) 「日本的なるものをめぐって」全集・現代文学の発見・第 11 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・吉野葛(谷崎潤一郎) ・かげろふの日記遺文(室生犀星) ・おはん(宇野千代)
- ・吹越の城(井伏鱒二) ・北斎(滝口修造) ・箒くははき>(飯澤匡)
- ・月の道化(花田清輝) ・常陸坊海尊(秋本松代) ・日本の橋(保田與重郎)
- ・無常といふ事(小林秀雄) ・日本文化私観(坂口安吾) ・島田幸村論(中野秀人)
- ・秋成私論(石川淳) ・和泉式部論 『和泉式部日記』序(寺田透)
- ・戦乱時代の回想録(杉浦明平) ・盲目の景清(廣末保)

解説・そのさまざまな試みについて(廣末保)

昭和 43(1968)年 12 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

307) 「歴史への視点」全集・現代文学の発見・第 12 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・山の民=蜂起(江馬修) ・さざなみ軍記(井伏鱒二) ・土佐兵の勇敢な話(中山義秀)
- ・李陵(中島敦) ・二流の人(坂口安吾) ・落城(田宮虎彦) ・樓蘭(井上靖)
- ・秘事法門(杉浦明平) ・婉という女(大原富枝)

解説(大岡昇平)

昭和 43(1968)年 8 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

308) 「言語空間の探求」全集・現代文学の発見・第 13 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・軍艦茉莉(安西冬衛) ・戦争(北川冬彦) ・象牙海岸(竹中郁)
- ・Ambarvalia(西脇順三郎) ・黒い火(北園克衛)
- ・瀧口修造の詩的実験 1927~1937(瀧口修造) ・測量船(三好達治) ・十年(丸山薫)
- ・春と修羅(第一集)(宮澤賢治) ・定本蛙(草野心平) ・逸見猶吉詩集(逸見猶吉)
- ・海の聖母+故園の書+稗子伝+未来者(吉田一穂)
- ・山羊の歌+在りし日の歌(中原中也) ・富永太郎詩集(第一集)(富永太郎)
- ・鮫+女たちへのエレジー(金子光晴) ・山之口獏詩集(山之口獏)
- ・小熊秀雄詩集(小熊秀雄) ・大阪(小野十三郎) ・実在の岸边+抽象の城(村野四郎)
- ・鮎川信夫詩集(鮎川信夫) ・囚人+他(三好豊一郎) ・四千の日と夜(田村隆一)
- ・蘭(全)+他(安藤次男) ・無言歌(中村稔) ・かるちえ-じやぼね(山本太郎)
- ・絵の宿題(關根弘) ・パウロウの鶴(長谷川龍生) ・不安と遊撃(黒田喜夫)
- ・谷川雁詩集(谷川雁) ・花の店+美男(安西均) ・鹹湖+他(會田綱雄)
- ・サンチョパンサの帰郷(石原吉郎) ・音楽(那珂太郎) ・消息+幻-方法(吉野弘)
- ・川崎洋詩集(川崎洋) ・21(谷川俊太郎) ・氷った焰(清岡卓行) ・静物(吉岡實)
- ・他人の空(飯島耕一) ・記憶と現在(大岡信) ・ショパン(全)(岩田宏)
- ・太平洋(堀川正美) ・鳥(安永稔和) ・正確な曖昧(藤富保男)
- ・倖せ それとも不倖せ(入澤康夫) ・時間錯誤(天澤退二郎) ・裝飾楽句(塚本邦雄)
- ・土地よ痛みを負え(岡井隆) ・少年+半島(金子兜太) ・罪囚植民地(高柳重信)
- ・球体感覚(加藤郁乎)

解説(大岡信)

昭和 44(1969)年 2 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

309) 「青春の屈折(上)」全集・現代文学の発見・第 14 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・冬の蠅(梶井基次郎) ・めかれおん日記(中島敦) ・恢復期(堀辰雄)
- ・若い詩人の肖像(伊藤整) ・歌のわかれ(中野重治) ・故旧忘れ得べき(高見順)
- ・古都 真珠(坂口安吾) ・ダス-ゲマイネ(太宰治) ・花筐(檀一雄)
- ・萱草に寄す(立原道造) ・編隊飛行(井上立士) ・琵琶湖疎水(田宮虎彦)
- ・焦土(西原啓) ・きけわだつみの声

解説(長田弘)

昭和 43(1968)年 7 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

310) 「青春の屈折(下)」全集・現代文学の発見・第 15 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・崩解感覚(野間宏) ・異形の者(武田泰淳) ・ガダルカナル戦詩集(井上光晴)
  - ・ドミノのお告げ(久坂葉子) ・ガラスの靴(安岡章太郎) ・天使の生活(中村真一郎)
  - ・驟雨(吉行淳之介) ・処刑の部屋(石原慎太郎) ・東京のプリンスたち(深沢七郎)
  - ・叫び声(大江健三郎) ・愛のごとく(山川方夫) ・ひとりの女に(黒田三郎)
  - ・意志表示(岸上大作) ・田園に死す(寺山修司) ・青春残酷物語(大島渚)
- 解説(磯田光一) 昭和 43(1968)年 3 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

311) 「物語の饗宴」全集・現代文学の発見・第 16 卷

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

- ・蘆荊(谷崎潤一郎) ・第二の巖窟(白井喬二) ・屋根裏の散歩者(江戸川乱歩)
  - ・あやかしの鼓(夢野久作) ・完全犯罪(小栗虫太郎) ・舞踏会事件(貴司山治)
  - ・鍵屋の辻(直木三十五) ・明月記(子母沢寛) ・喪神(五味康祐)
  - ・おお、大砲(司馬遼太郎) ・母子像(久生十蘭) ・鍵(星新一)
  - ・御先祖様万歳(小松左京) ・幻の女(五木寛之) ・浣腸とマリア(野坂昭如)
  - ・越後つついし親不知(水上勉) ・姨捨(井上靖) ・女の中の悪魔(由起しげ子)
- 解説・「物語の女」があらわれるとき(いいだ・もも)  
昭和 44(1969)年 3 月 10 日第 1 刷発行(學藝書林)

312) 「孤独のたたかい」全集・現代文学の発見・別巻

(責任編集：大岡昇平・平野謙・佐々木基一・埴谷雄高・花田清輝)

小説

- ・曠野の記録(堺誠一郎) ・ロッドム号の船長(竹之内静雄) ・はりつけ(白井健三郎)
- ・競輪必勝法(能島廉) ・機械と太鼓--プロ・パチンカアの独白(北田玲一郎)
- ・阿修羅王(浅井美英子) ・先導獣の話(古井由吉) ・可愛い娘(帯正子)公募作品より
- ・明るい人(犬養健)長編小説

詩・評論

- ・詩-詩論(竹内勝太郎) ・松ヶ鼻渡しを渡る(田木繁) ・白い花(秋山清)
  - ・中野鈴子詩集(中野鈴子) ・荒津寛子遺稿集(荒津寛子)
- 解説・原点からの跳躍(八木岡英治)

昭和 44(1969)年 4 月 10 日第 1 刷発行

昭和 44(1969)年 4 月 15 日第 2 刷発行(學藝書林)

313) 「畏怖する人間」(柄谷行人著) 新装版

- I ・意識と自然--漱石詩論(1) ・内側から見た生--漱石詩論(2)
- ・心理を超えたものの影--小林秀雄と吉本隆明
  - ・発語と沈黙--吉本隆明における言語 ・閉ざされたる熱狂--古井由吉論
  - ・江藤淳論--超越性への感覚 ・夢の呪縛--埴谷雄高について
  - ・高橋和巳の文体 ・芥川における死のイメージ
- II ・文学の素心を求めて ・マルコ伝について ・「実践」とはなにか
- ・地図は燃えつきたか--大江、安部にみる想像力と関係意識
  - ・二人の先行者--江藤・大江論争について ・内面への道と外界への道
  - ・自然的なあまりに自然的な--精神の地下室の消滅 ・批評家の「存在」
  - ・二冊の本--『歴史と文学』と『復興期の精神』 ・吉本隆明『情況』
  - ・W・H・オーデン『第二の世界』 ・古井由吉『男たちの円居』
  - ・鮎川信夫『歴史におけるイロニー』 あとがき
- 昭和 54(1979)年 4 月 25 日初版第 1 刷発行(冬樹社)

314) 「ダイアログ」柄谷行人対談集

- ・文学・言語・制度(蓮實重彦) ・文学の現在を問う(中上健次)
- ・アメリカについて(安岡章太郎) ・フェティシズムについて(岸田秀)
- ・共同主観性をめぐって(廣松渉) ・現代日本の思想(樺山紘一 長尾龍一)
- ・マルクスと漱石(蓮實重彦)

あとがき

昭和 54(1979)年 6 月 22 日初版第 1 刷発行(冬樹社)

315) 「意味という病」(柄谷行人著)

- I ・マクベス論--意味に憑かれた人間 ・夢の世界--島尾敏雄と庄野潤三  
・私小説の両義性--志賀直哉と嘉村磯多 ・歴史と自然--鷗外の歴史小説
- II ・寒山拾得考 ・藪の中 ・小説の方法的懐疑 ・人間的なもの  
・平常名場所での文学 ・場所と経験 ・生きた時間の回復 ・時代との結びつき  
・淋しい「昭和の精神」 ・ものと観念 ・掘立小屋での思考  
・自作の変更について  
・あとがき ・第二版へのあとがき  
昭和 54(1979)年 10月 1日初版発行  
昭和 58(1983)年 1月 29日 4版発行(河出書房新社)

316) 「倫理 21」(柄谷行人著)

はじめに

- 第 1 章 親の責任を問う日本の特殊性  
第 2 章 人間の攻撃性を認識すること  
第 3 章 自由はけっして「自然」からは出てこない  
第 4 章 自然的・社会的因果性を括弧に入れる  
第 5 章 世界市民的に考えることこそが「パブリック」である  
第 6 章 宗教は倫理的である限りにおいて肯定される  
第 7 章 幸福主義(功利主義)には「自由」がない  
第 8 章 責任の四つの区別と根本的形而上性  
第 9 章 戦争における天皇の刑事的責任  
第 10 章 非転向共産党員の「政治的責任」  
第 11 章 死せる他者とわれわれの関係  
第 12 章 生れざる他者への倫理的義務  
付論 『トランスクリティーク』第一部

あとがき

平成 12(2000)年 2月 23日初版第 1刷(平凡社)

317) 「神聖喜劇」(大西巨人著) 第 1 卷

- 第一部 絶海の章 ・序曲 到着 ・第一 大前田文七 ・第二 風 ・第三 夜  
第二部 混沌の章 ・第一 冬 ・第二 責任阻却の論理 ・第三 現身の虐殺者  
・第四「隼人の名に負ふ夜声」

昭和 53(1978)年 7月 5日初版第 1刷発行

昭和 55(1980)年 9月 1日第 6刷発行(光文社)

318) 「神聖喜劇」(大西巨人著) 第 2 卷

- 第三部 運命の章 ・第一 神神の毘 ・第二 十一月の夜の媾曳<あいびき>  
・第三「匹夫<ヒツプ>モ志ヲ奪フ可<べ>カラズ」  
第四部 伝承の章 ・第一 暗影 ・第二 道 ・第三 縮図  
・第四 対馬風流滑稽譚

昭和 53(1978)年 7月 5日初版第 1刷発行

昭和 55(1980)年 9月 1日第 6刷発行(光文社)

319) 「神聖喜劇」(大西巨人著) 第 3 卷

- 第五部 雑草の章 ・第一 大船越往反<おうへん> ・第二 寒夜狂詩曲  
・第三 暗影(続) ・第四 階級-階層-序列の座標  
第六部 迷宮の章 ・第一 法 ・第二 奇妙な間<あい>の狂言 ・第三 事の輪郭  
・第四 嫌疑の構図 ・第五 偏見の遠近法  
・第六 朝の来訪者

昭和 53(1978)年 8月 15日初版第 1刷発行

昭和 55(1980)年 9月 1日第 6刷発行(光文社)

- 320) 「神聖喜劇」(大西巨人著) 第4巻  
 第七部 連環の章 ・第一 喚問 ・第二 歴世 ・第三 喚問(続)  
 ・第四 ある觀念連合 ・第五 冬木照美の前身  
 ・第六 脈絡 ・第七 早春  
 昭和 55(1980)年 4月 25日 初版第1刷発行  
 昭和 55(1980)年 5月 5日 第2刷発行(光文社)
- 321) 「神聖喜劇」(大西巨人著) 第5巻  
 第八部 永劫の章 ・第一 模擬死刑の午後 ・第二 模擬死刑の午後(続)  
 ・第三 面天奈くめんてんな>狂想曲 終曲 出発  
 昭和 55(1980)年 4月 25日 初版第1刷発行  
 昭和 55(1980)年 11月 1日 第6刷発行(光文社)
- 322) 「降水確率」(増田みず子著)  
 ・降水確率「海燕」昭和 62年 1月  
 ・ぐる「海」昭和 59年 3月  
 ・水の中の似顔絵「文学界」昭和 59年 5月  
 ・生まれた場所「海燕」昭和 60年 5月  
 ・コーンフィールドの雉「海」昭和 58年 1月  
 昭和 62(1987)年 3月 16日 第1刷発行(福武書店)
- 323) 「シングル・セル」(増田みず子著)  
 ・シングル・セル「海燕」昭和 61年 6月号  
 昭和 62(1987)年 7月 15日 第1刷発行(福武書店)
- 324) 「一人家族」(増田みず子著)  
 ・未婚の継母『別冊婦人公論』昭和 57(1982)年 秋号  
 ・一人家族『別冊婦人公論』昭和 58(1983)年 夏号  
 ・手紙『別冊婦人公論』昭和 59(1984)年 春号  
 ・白雪姫と小人たち『別冊婦人公論』昭和 59(1984)年 夏号  
 ・逆光『別冊婦人公論』昭和 60(1985)年 夏号  
 ・幸福人形『別冊婦人公論』昭和 61(1986)年 冬号  
 ・闇の炎『婦人公論臨時増刊』昭和 61(1986)年 8月  
 昭和 62(1987)年 6月 7日 発行(中央公論社)
- 325) 「麦笛」(増田みず子著)  
 昭和 56(1981)年 10月 25日 第1刷発行  
 昭和 56(1981)年 11月 25日 第2刷発行(福武書店)
- 326) 「自殺志願」(増田みず子著)  
 ・自殺志願「作品」昭和 56(1981)年 2月号  
 ・他人の体「海燕」昭和 57(1982)年 2月号  
 ・一人暮し「海燕」昭和 57(1982)年 11月号  
 ・あなたへ「早稲田文学」昭和 56(1981)年 2月号  
 ・旅の理由「現代文学」昭和 52(1977)年 8月号  
 昭和 57(1982)年 12月 15日 第1刷発行(福武書店)
- 327) 「禁止空間」(増田みず子著) 河出書き下ろし長篇小説叢書  
 ・間 ・空 ・止 ・禁  
 昭和 63(1988)年 10月 25日 初版発行(河出書房新社)
- 328) 「林芙美子集」日本文学全集 48  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 ・放浪記 ・風琴と魚の町 ・牡蠣 ・晩菊 ・浮雲

作家と作品(和田芳恵)

昭和47(1972)年4月8日初版

昭和49(1974)年8月20日3版(集英社)

329) 「きだみのる・深沢七郎集」新日本文学全集12

きだ・みのる集 ・南氷洋 ・気違い部落周遊紀行 解説(荒正人)

深沢七郎集 ・東京のプリンスたち ・笛吹川 ・檜山節考 ・三つのエチュード

・自伝とところどころ 解説(荒正人)

昭和38(1963)年8月27日発行(集英社)

330) 「有島武郎集」現代文学大系22

・或る女 ・An Incident ・カインの末裔 ・小さき者へ ・生れ出づる悩み

・ロダン先生の事 ・惜みなく愛は奪ふ ・武者小路兄へ ・宣言一つ

・革命心理の前に横たはる二岐路 ・農場解放顛末

人と文学(本多秋五)

昭和39(1964)年11月25日発行(筑摩書房)

331) 「小林秀雄集」現代文学大系12

・ランボオI II III ・モオツァルト ・セザンヌ ・フロオベルの『ボヴァリイ夫人』

・「罪と罰」について ・「白痴」について ・「未成年」の独創性に就いて

・『地下室の手記』と『永遠の良人』 ・ドストエフスキーの時代感覚 ・一つの脳髓

・おふえりや遺文 ・Xへの手紙 ・様々なる意匠 ・文学は絵空ごとか

・批評家失格 ・故郷を失った文学 ・私小説論 ・私小説について ・作家の顔

・思想と実生活 ・佐藤春夫論 ・佐藤春夫のヂレンマ ・志賀直哉 ・谷崎潤一郎

・正宗白鳥 ・『仮想人物』について ・当麻 ・無常といふ事 ・平家物語

・徒然草 ・西行 ・実朝 ・疑惑 ・真贋 ・感想 ・言葉 ・杭州

・杭州より南京 ・蘇州 ・慶州 ・満洲の印象

人と文学(中村光夫)

昭和40(1965)年5月25日発行(筑摩書房)

332) 「純文学論争以後」(平野謙著)

I ・昭和十年前後の文藝思潮 ・転向と文学 ・現代小説の問題点

・志賀直哉と伊藤整 ・日本自然主義文学の位置づけ ・政治小説覚え書

・日本文学報国会の成立

II ・文藝雑誌の役割 ・《群像》15年の足跡 ・現代文学史の主軸

・新しい純文学概念の回復 ・再説-純文学変質 ・純文学更生のために

・アクセントの打ちかた ・わがアクチュアリティ説 ・認識者の文学

・小説の社会性 ・文藝時評というもの ・文学者の声価

・小説への不信をめぐって ・政治と文学の関係 ・ふたつの潮流

・自我絶対化の問題 ・プライベート判断に思う ・昭和文学のこと

・わが戦後史 ・衰えた文学運動 ・もうひとつの三派鼎立 ・『汚れた手』雑感

・『蒼ざめた馬』の自然描写 ・戦時下の雑誌のこと ・純文学論争以後

・中條百合子の作品 ・『詩人』『地霊』解説

・門田実著『松川裁判の思い出』解説

・純文学論争の意味

III ・アンチ「破滅型」ということ ・「破滅型」からの発展 ・破滅せぬ作家のタイプ

・潤一郎と秋江 ・正宗白鳥の意味するもの ・私小説 ・批評の陥穽

・年譜のおもしろさ ・啄木の詩 ・断念と未練の相克 ・ふたつの日本的悟達の道

・川端康成の受賞 ・作品と作者の実生活 ・私小説の主人公と作者

・必要な予備知識 ・机龍之介の魅力 ・戦後の私小説 ・『暗夜行路』後篇の逸文

・机上の空論 ・宮原昭夫の芥川賞受賞作は果して借物小説か

・題材と作品との関係

昭和47(1972)年12月20日第1刷発行(筑摩書房)

- 333) 「石川啄木」日本の詩歌 5  
 ・一握の砂 ・悲しき玩具 ・短歌拾遺 ・あこがれ ・黄草集 ・ハコダテの秋  
 ・泣くよりも ・流木 ・今聞ゆ ・心の姿の研究 ・詩六章 ・呼子と口笛  
 ・はてしなき議論の後  
 詩人の肖像(伊藤整) 鑑賞(山本健吉)  
 昭和 42(1967)年 10 月 16 日初版発行(中央公論社)
- 334) 「永井荷風集」日本文学全集 20  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 ・腕くらべ ・雨瀟瀟 ・つゆのあとさき ・墨東綺譚 ・問わずがたり ・日和下駄  
 作家と作品(佐伯彰一)  
 昭和 42(1967)年 4 月 7 日初版  
 昭和 46(1971)年 6 月 20 日 8 版(集英社)
- 335) 「中村真一郎・福永武彦集」日本文学全集 81  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 中村真一郎集 ・熱愛者 ・感情旅行 ・生き残った恐怖 ・水の女王  
 福永武彦集 ・告別 ・塔 ・死神の馭者 ・鬼 ・死後 ・世界の終り ・廃市  
 作家と作品(佐々木基一)  
 昭和 43(1968)年 7 月 12 日初版  
 昭和 45(1970)年 8 月 25 日 2 版(集英社)
- 336) 「四季」(中村真一郎著)  
 第 1 章 夢の発端 第 2 章 夜思想 第 3 章 過去への出発 第 4 章 夢の開幕  
 第 5 章 青年たちの家 第 6 章 午後の徜徉<しょうよう> 第 7 章 夢の暈<かさ>  
 第 8 章 快樂の館 第 9 章 崖の上の眺め 第 10 章 夢の完結  
 昭和 50(1975)年 2 月 25 日発行  
 昭和 53(1978)年 7 月 30 日 6 刷(新潮社)
- 337) 「夏」(中村真一郎著)  
 第 1 章 羽田にて 第 2 章 長い散歩 第 3 章 黒い部屋 第 4 章 誘惑  
 第 5 章 肉の森 第 6 章 京の宿 第 7 章 にいまくら 第 8 章 二つの時間  
 第 9 章 形而上的独語 第 10 章 閉幕  
 昭和 53(1978)年 4 月 20 日発行  
 昭和 53(1978)年 5 月 15 日 2 刷(新潮社)
- 338) 「秋」(中村真一郎著)  
 第 1 章 転生の夢 第 2 章 母たち 第 3 章 女との出会い 第 4 章 水の女王  
 第 5 章 生活の幻影 第 6 章 魔的なるもの 第 7 章 戦後の混乱  
 第 8 章 幻影、その後 第 9 章 女たち 第 10 章 死の季節  
 昭和 56(1981)年 1 月 5 日発行(新潮社)
- 339) 「冬」(中村真一郎著)  
 第 1 章 ロンドン到着 第 2 章 秋野氏の遺稿 第 3 章 幼時の追想  
 第 4 章 江戸への回帰 第 5 章 ふたつの人文主義 第 6 章 父の小説  
 第 7 章 パリにての感想 第 8 章 ロリータもどき 第 9 章 政治と宗教  
 第 10 章 京の雪 昭和 59(1984)年 12 月 5 日発行(新潮社)
- 340) 「恍惚」(中村真一郎著)  
 ・出会い ・タレント-クラブ ・本当の生活 ・二度目の出会い ・会社と家庭  
 ・愛の疑惑 ・秘密 ・第二の秘密 ・ある人 ・対決 ・二度目の対決 ・行動へ  
 ・試練の日々 ・欲情 ・欲情の向こう側 ・遠足 ・遠足のあと ・失踪  
 ・事件の余波 ・手紙 ・奔走 ・終局  
 昭和 40(1965)年 7 月 30 日発行(新潮社)

341) 「恋の泉」(中村眞一郎著)  
昭和 37(1962)年 3 月 25 日発行  
昭和 54(1979)年 3 月 15 日 17 刷(新潮社)

342) 「手塚富雄著作集 第 1 巻」ヘルダーリン 上  
第 1 章 出生と少年時代 第 2 章 シュティフト学生として  
第 3 章 ワルターズハウゼンとイエーナ 第 4 章 ニュルティンゲンとフランクフルト  
第 5 章 ホンブルクにて  
昭和 55(1980)年 11 月 25 日発行(中央公論社)

343) 「手塚富雄著作集 第 2 巻」ヘルダーリン 下  
第 6 章 ハウプトヴィル行きの前夜 第 7 章 ボルドー行きとその結果  
第 8 章 再度のホンブルク滞留 第 9 章 テュービンゲンにて  
昭和 56(1981)年 1 月 20 日発行(中央公論社)

344) 「はてしない物語」(ミヒャエル・エンデ作)  
Michael Ende: Die Unendliche Geschichte(上田真而子 佐藤真理子訳)  
1 ファンタジーエン国の危機 2 アトレーユの使命 3 太古の媼<おうな>モーラ  
4 群衆者イグラムール 5 夫婦隠者 6 三つの神秘の門 7 静寂の声 8 妖怪の国で  
9 化け物の町 10 エルフェンバイン塔へ 11 女王幼ごころの君  
12 さすらいの山の古老 13 夜の森ベレリン 14 色の砂漠ゴアブ  
15 色のある死グラオーグラマーン 16 銀の都アマルガント 17 勇士ヒンレックの竜  
18 アッハライ 19 旅の一行 20 目のある手 21 星僧院  
22 エルフェンバイン塔の戦い 23 元帝王たちの都 24 アイウオーラおばさま  
25 絵の採掘坑 26 生命<いのち>の水  
昭和 57(1982)年 6 月 7 日第 1 刷発行  
昭和 57(1982)年 7 月 10 日第 3 刷発行(岩波書店)

345) 「鏡のなかの鏡--迷宮--」(ミヒャエル・エンデ著)  
Michael Ende: Der Spiegel im Spiegel Ein Labyrinth(丘沢静也訳)  
1 許して、ぼくはこれより大きな声ではしゃべれない。  
2 息子は父親でもある師匠<マイスター>のすぐれた指導のもとで----  
3 屋根裏部屋は空色だ。 4 駅カテドラルは、灰青色の岩石からなる----  
5 ずっしりした黒布が、垂直のひだをつけて----  
6 貴婦人は馬車の窓の黒いカーテンをひいて、たずねた。  
7 証人が報告している。----夜の墓地に---- 8 大理石のように蒼ざめた天使が  
9 湿地のように暗いのは母の顔だ。 10 惑星の回転のようにゆっくりと  
11 眼をとじる。顔の内部。ほかには---- 12 すでに何世紀も何世紀も以前より----  
13 ここは部屋である、と同時に---- 14 婚礼の客は踊る炎でした。  
15 灰色にひろがる空の平面上を---- 16 この紳士は文字だけからできている。  
17 そもそもは羊が問題でした。だが---- 18 夫と妻が展覧会にでかけようと思う。  
19 青年医師は、治療室のすみに陣どって---- 20 事務所がひけて、魚の眼をした男は----  
21 山のうへの売春宮殿は、今夜---- 22 世界旅行者は、この港都市<まち>の----  
23 この日の夕暮れ、老船乗りは吹きやまぬ風に----  
24 黒い空のした、ひとの住めない国が---- 25 手に手をとって、ふたりが道を----  
26 教室では雨がたえまなく降っていた。 27 俳優たちの廊下で私たちは----  
28 あらためて火ぶたが切られた。 29 サーカスが燃えている。  
30 冬の夕暮れ、雪におおわれた境界ない----  
昭和 60(1985)年 4 月 30 日第 1 刷発行(岩波書店)

346) 「魔法のカクテル」(ミヒャエル・エンデ著) エンデ全集 12  
Michael Ende: Der Wunschpunsch(川西英沙訳)  
平成 9(1997)年 10 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)



347) 「モモ」時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた  
女の子のふしぎな物語(ミヒヤエル・エンデ作)

Michael Ende: MOMO(大島かおり訳)

第一部 モモとその友だち 第二部 灰色の男たち 第三部 <時間の花>

昭和 51(1976)年 9 月 24 日第 1 刷発行

昭和 54(1979)年 7 月 10 日第 7 刷発行(岩波書店)

348) 「幻想飛行記」(埴谷雄高監修) イメージの文学誌

I 風船乗りの夢 ・ 夢飛行(小泉八雲) ・ 春の鳥(国木田独歩) ・ 亀 笛 蝶を夢む  
風船乗りの夢 天界旅行への幻想と錯覚 自分の映像を見て(萩原朔太郎)

・ おほぞらの こころ しずかな画家 彫られた空 おほぞらの水 空が凝視している  
皎皎とのぼってゆきたい(八木重吉) ・ 蝶物語(丸山薫) ・ 煙突奇談(地味井平造)

・ ジャマイカ氏の実験(城昌幸)

II 眩しい虚空 ・ 驚 驚 雲雀を揚げる夕 海鳥 白鳥(吉田一穂)

・ 落下傘 シャボン玉の唄(金子光晴) ・ 河辺の歌 燕 砂の花 水中花 自然に、充  
分自然に(伊藤静雄) ・ かるやかな翼ある風の歌(抄)(立原道造)

・ 蒼穹 Kの昇天(梶井基次郎) ・ 東京日記(その三)(内田百閒) ・ 空中(夢野久作)

・ 吊籠に夢む(稲垣足穂) ・ 鱗雲(牧野信一) ・ ふるさとに寄する讃歌(坂口安吾)

・ 空襲の美観(江戸川乱歩)

III 飛ぶ男 ・ 夢と人生(原民喜) ・ 張柏端(石川淳) ・ 摩天楼(島尾敏雄)

・ 闇のなかの黒い馬 はじめの頃の島尾敏雄(埴谷雄高) ・ 飛ぶ男(真鍋呉夫)

・ 透明な凝視 幻視的空間(高橋英夫)

昭和 54(1979)年 9 月 1 日発行(北宋社)

349) 「水木しげる幻獣事典」

第 1 章 日本の幻獣 第 2 章 東洋の幻獣 第 3 章 西洋の幻獣

昭和 60(1985)年 3 月 5 日初版発行(朝日ソノラマ)

350) 「水木しげる妖怪画集」

・ 山 ・ 里 ・ 家 ・ 水 ・ 神

昭和 60(1985)年 3 月 5 日改訂初版発行(朝日ソノラマ)

351) 「水木しげるのあの世の事典」

昭和 58(1983)年 6 月 30 日初版発行(東京堂出版)

352) 「幸福になるメキシコ」

水木しげるの大冒険(絵--水木しげる)(文--大泉実成)

平成 11(1999)年 6 月 15 日初版第 1 刷発行(祥伝社)

353) 「水木しげるの世界妖怪事典」

昭和 60(1985)年 7 月 25 日初版発行(東京堂出版)

354) 「水木しげるの続妖怪事典」

昭和 59(1984)年 7 月 15 日初版発行(東京堂出版)

355) 「夏目漱石論」(蓮實重彦著)

序章 読むことと不意撃ち

第 1 章 横たわる漱石 第 2 章 鏡と反復 第 3 章 報告者漱石 第 4 章 近さの誘惑

第 5 章 劈痕と遠さ 第 6 章 明暗の翳り 第 7 章 雨と遭遇の予兆

第 8 章 濡れた風景 第 9 章 縦の構図 第 10 章 『三四郎』を読む

終章 漱石的「作品」

昭和 53(1978)年 10 月 5 日初版発行

昭和 53(1978)年 12 月 5 日 2 版発行(青土社)

356) 「反＝日本語論」(蓮實重彦著)

序章 パスカルにさからって

- I ・滑稽さの彼岸に ・歓待の掟 ・人の名前について ・海と国境 ・声と墓標の群れ
- II ・「あなた」を読む ・S/Zの悲劇 ・シルバーシートの青い鳥 ・倫敦塔訪問  
・明晰性の神話
- III ・文字と革命 ・萌野と空蟬 ・海王星の不条理 ・皇太后の擧丸  
・仕掛けのない手品

終章 わが生涯の輝ける日

昭和 52(1977)年 5月 20日 初版第 1刷発行

昭和 53(1978)年 2月 15日 初版第 2刷発行(筑摩書房)

357) 「『私小説』を読む」(蓮實重彦著) 中公叢書

はじめに 読むことに向けて

廃棄される偶数 志賀直哉『暗夜行路』を読む

I 構造＝主題＝系列 II 偶数性の圏域 III 双極的世界と反復

藤枝静男論 分岐と方向

I 大地隆起、そして陥没 II 恥辱と嫌悪、そしてその平坦な舞台装置  
III 家系、妻、そして芸術 IV 分岐するものたち V 奪われる言葉たち

安岡章太郎論 風景と変容

I 回避と遭遇の背理 II 中間層の彷徨者たち III 作品＝作家＝文学

おわりに

昭和 54(1979)年 10月 10日 発行(中央公論社)

358) 「表層批評宣言」(蓮實重彦著)

- ・表層批評宣言に向けて ・言葉の夢と「批評」 ・表層の回帰と「作品」
- ・健康という名の幻想 ・倒錯者の「戦略」 ・風景を超えて

あとがき

昭和 54(1979)年 11月 20日 初版第 1刷発行(筑摩書房)

359) 「映像の詩学」(蓮實重彦著)

I 《巨匠》たちの挑発 1 ジョン・フォード、または翻える白さの変容

2 ハワード・ホークス、または映画という名の装置

3 ジャン・ルノワール、または触覚都市の痕跡

II 《亡命者》たちの栄光 1 ルイス・ブニュエル、または越境者の論理

2 フリッツ・ラング、または円環の悲劇

3 ジョセフ・ローギー、または廃墟と廃墟以前

III 《B級アクション》の系譜 1 ロバート・オルドリッチ、または快樂の陰鬱な構造

2 ドン・シーゲルとリチャード・フライシャー、または混濁と透明

3 サム・ペッキンパー、または契約者の自由と不自由

IV ファシズムと戯れる作家たち 1 アラン・レネ、あるいは鏡を恐れるナルシス

2 ベルナルド・ベルトッチ論、闇-迷路-偶然

3 フェリーニ ルイ-マル ジャック-ドワロン、レジスタンス神話と映画

V ゴダールの《変貌》? 1 『勝手にしやがれ』から『気狂いピエロ』へ

2 『イタリアにおける闘争』批評とフィルム体験

3 『万事快調』隠蔽と顕示

あとがき

昭和 54(1979)年 2月 15日 初版第 1刷発行(筑摩書房)

360) 「必殺するめ固め」つげ義春漫画集

- ・会津の釣り宿 ・庶民御宿 ・魚石 ・退屈な部屋 ・日の戯れ ・夜が掴む
- ・アルバイト ・コマツ岬の生活 ・必殺するめ固め ・ヨシボーの犯罪
- ・外のふくらみ ・窓の手

昭和 56(1981)年 5月 30日 初版

昭和 56(1981)年 6月 30日 2刷(晶文社)

361) 「つげ義春とぼく」(つげ義春著)

- ・イラストレーション傑作集　・颯爽旅日記　・ぼくの漫画作法
  - ・夢日記　・旅の絵本　・漫画集
- 昭和 52(1977)年 6 月 30 日初版  
昭和 54(1979)年 5 月 30 日 7 刷(晶文社)

362) 「黙示録と牧歌」(川村二郎著)

- I・白夜の学匠　・批評と音楽　・眠る不在　・夢、旋律、現実　・独逸の短篇小説
- II・柳田國男とハイネ　・ハイネとプラーテン　・プラーテンの「日記」  
・石の夢　・小さな絵
- III・ヴェニスの死の音楽　・真率なパロディ　・『ブッデンブローク家の人々』  
・認識の抒情　・『ウェルギリウスの死』
- IV・正直な綺譚作者　・北海の海　あるいは海辺の文学　・傷つけられた夢  
・魂と形式　・黙示録と牧歌　現代ドイツ文学私論  
あとがき　昭和 54(1979)年 10 月 10 日初版第 1 刷発行(集英社)

363) 「限界の文学」(川村二郎著)

- I・文学の位置決定のための五章
  - II・保田與重郎論　・経験と原理--ルカーチとベンヤミン　・断章の美学--ベンヤミン  
・批評の生理--ルカーチとアドルノ　・ヴァーグナーの没落--アドルノに即して
  - III・『死者の書』について--釈迦空論　・虚実の帝国--『特性なき男』について  
・イシスとオシリス--ムシルと神話　・始原への旅--現代神話文学論  
・虚構のリアリズム--浄瑠璃の世界
  - IV・複数形の現実
- あとがき　昭和 44(1969)年 4 月 30 日初版発行  
昭和 49(1974)年 9 月 20 日再版発行(河出書房新社)

364) 「銀河と地獄」幻想文学論(川村二郎著)

- 走るやさしさ(上田秋成)　反自然の自然(狂言作者たち)　瞳視された空間(泉鏡花)  
観察から幻視へ(幸田露伴)　伝説と小説(折口信夫)　経験主義と神秘(柳田国男)  
博物誌の文体(南方熊楠)　銀河と地獄(岩野泡鳴)　幻想の地誌(佐藤春夫)  
篤実な誇張法(牧野信一)　陰画の浄土(藤枝静男)　魂の修練の諸段階(吉行淳之介)
- 昭和 48(1973)年 9 月 20 日第 1 刷発行  
昭和 51(1976)年 7 月 15 日第 2 刷発行(講談社)

365) Ludwig Dietz: "Die lyrische Form Georg Trakls." Trakl-Studien, Band 5.

Herausgegeben von Ignaz Zangerle. Otto Müller Verlag, Salzburg 1959

- 1-1. Die gereimten Gedichte mit festem Metrum
- 1-2. Die wichtigsten Bauelemente der Sprache Trakls
- 1-3. Über das Problem der sogenannten freien Rhythmen
- 2-1. Die ersten Versuche in reimlosen Versen ohne festes Metrum
- 2-2. Das Gedicht in dreizeiligen Strophen und ihm benachbarte Verse  
oder: Die Grund- und Ausgangsform für die verschiedenen Ausdrucksweisen  
der eigenrhythmischen Verse
- 2-3. Die "Elegie" Georg Trakls oder: Die lyrisch-epische Ausdrucksform  
seiner eigenrhythmischen Verse

366) Walter Ritzer: "Trakl-Bibliographie." Trakl-Studien, Band 3.

Herausgegeben von Ignaz Zangerle. Otto Müller Verlag, Salzburg 1956

- ・Zeitungen　・Zeitschriften　・Bücher　・Anthologien　・Vertonungen
- ・Übersetzungen　・Kritik　・Bilder
- ・Werkregister; Anhang: Briefe　・Nachtrag
- ・Zeitungs- und Zeitschriftenverzeichnis
- ・Personen-Verzeichnis

- 367) Walter Ritzer: "Neue Trakl-Bibliographie." Trakl-Studien, Band 12.  
Herausgegeben von Ignaz Zangerle, Walter Methagl, Alfred Doppler.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1983
1. Unselbständige Schriften und Anthologien  
Außerhalb der historisch-kritischen Ausgabe
    - Erstdrucke (1906) • Erste Gesamtausgabe (1918) • Erinnerungsbuch (1926)
    - Die Jugendliteratur (1939) • Gesammelte Werke (1949) • Bibliographie (1956)
 Historisch-kritische Ausgabe (1969)
  2. Selbständige Schriften
  3. Übersetzungen
  4. Sekundärliteratur
    - Werkregister; Anhang: Briefwerk
    - Periodika-Verzeichnis • Personen-Verzeichnis
- 368) Heinz Wetzel: "Konkordanz zu den Dichtungen Georg Trakls."  
Trakl-Studien, Band 7. Herausgegeben von Ignaz Zangerle.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1971
- 369-370) Georg Trakl: "Dichtungen und Briefe, 2 Bände." Historisch-kritische Ausgabe.  
Herausgegeben von Walther Killy und Hans Szklener.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1969
- 371) Otto Basil: "Georg Trakl in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten."  
Rowohlt Taschenbuch Verlag, 1965  
herausgegeben von Kurt Kusenberg.
1. Trakl und die Trakl-Deutung
  2. Das verfluchte Geschlecht
  3. Kindheit, Jugend, provinzielle Bohème
  4. Die Fremdlingin
  5. Wien und Innsbruck
  6. Das Schlachthaus
- 372) Walter Killy: "Über Georg Trakl." Vandenhoeck & Ruprecht in Göttingen.  
Dritte, erweiterte Auflage, 1967
1. Über Georg Trakl
  2. Strukturen des Gedichts (Über die "Passion")
  3. Perspektiven des Gedichts
  4. Entwurf des Gedichts (Über den "Helian"-Komplex)
  5. Bestand und Bewegung in Gedichten Georg Trakls
- 373) Walter Falk: "Leid und Verwandlung; Rilke, Kafka, Trakl und der Epochenstil  
des Impressionismus und Expressionismus." Trakl-Studien, Band 6.  
Herausgegeben von Ignaz Zangerle. Otto Müller Verlag, Salzburg 1961
1. Rainer Maria Rilke und das Weh
  2. Franz Kafka und die Qual
  3. Georg Trakl und die Schwermut
  4. Rückblick und Ausblick
- 374) Hans-Georg Kemper: "Georg Trakls Entwürfe." Aspekte zu ihrem Verständnis.  
Max Niemeyer Verlag, Tübingen 1970
1. Zur Semantik
    - 1) Die Varianten als Assoziationen
      - a) Analogie und Kontrast als Assoziationsgesetze
      - b) Assoziation und Bedeutung
    - 2) Einzelne semantische Phänomene
      - a) Die Erweiterung des Wortinhalts durch Analogie
      - b) Die antithetische Erfahrung eines Motivs und die Analogie der Gegensätze
    - 3) Deutung der Varianten unter semantischem Aspekt
      - a) Semantische Gradation durch bewußtes Gestalten
      - b) Semantische Reduktion durch assoziative "mythische Strukturen"

2. Zur Komposition
    - 1) Semantik und Komposition
      - a) Assoziation und Komposition
      - b) Wortbedeutung und Komposition
    - 2) Einzelne Kompositionsprinzipien
      - a) Bewegungsabläufe und Imaginationsprozesse
      - b) Kreis- und Zielkomposition
    - 3) Darstellung und Deutung der Entwürfe unter kompositorischem Aspekt
      - a) Edition und Komposition
      - b) "Bauform" und "Vorgangsform" als Grundprinzipien der Komposition
  3. Zur Deutung
    - 1) Komposition und Gehalt
      - a) "Konstruktion" und "Destruktion" der Lesererwartung
      - b) Gehaltliche Offenheit als Sinn der Komposition
    - 2) Zur inhaltlichen Funktion einzelner ästhetischer Phänomene
      - a) Die Verfremdung der Erwartung durch die kühne Metapher
      - b) Die Erfüllung der Erwartung durch Exorbitanz und die Möglichkeit symbolischer Aussage
    - 3) Zum Sinn der semantischen Verhältnisse
      - a) Schweigen als Grenzphänomen und Existenzial
      - b) Das Mystische als Konvergenzpunkt von Person und Werk
- Schluß

- 375) Eckhard Philipp: "Die Funktion des Wortes in den Dichtungen Georg Trakls."  
Linguistische Aspekte ihrer Interpretation.  
Max Niemeyer Verlag, Tübingen 1971
1. Der sprachkritische Prozess in Georg Trakls Gedichten
  2. Farbe als Analogon der Sprache
  3. Die Auflösung syntaktischer Beziehungen
  4. Sprachliche Beziehungen in der Substitutionsebene
  5. Zum Sinn der Dichtung Trakls und zu ihrer Stellung im Kontext der Literaturgeschichte
- 376) Karl Ludwig Schneider:  
"Der bildhafte Ausdruck in den Dichtungen Georg Heims, Georg Trakls und Ernst Stadlers"  
Carl Winter, Universitätsverlag, Heidelberg 1968. Dritte, unveränderte Auflage.
1. Die Metaphorik Georg Heyms
  2. Die Metaphorik Georg Trakls
  3. Die Metaphorik Ernst Stadlers
  4. Die Merkmale der expressionistischen Metaphorik und des expressionistischen Sprachvorgangs
- 377) Rudolf Dirk Schier: "Die Sprache Georg Trakls."  
Carl Winter, Universitätsverlag, Heidelberg 1970.
1. Perspektiven der Poetik    2. Analysen der Grammatik
  3. Analysen der Bildsprache    4. Perspektiven im Gedicht
- 378) Albert Hellmich: "Klang und Erlösung.  
Das Problem musikalischer Strukturen in der Lyrik Georg Trakls."  
Trakl-Studien, Band 8. Herausgegeben von Ignaz Zangerle.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1971
1. Voraussetzungen    2. Untersuchungen    3. Ergebnisse
- 379) Walter Gorgé: "Auftreten und Richtung des Dekadenzmotivs im Werk Georg Trakls."  
Peter Lang, Frankfurt/M. 1973

1. Einleitende Betrachtungen zum Dekadenzbegriff
  2. Das Dekadenzmotiv in den Dichtungen Georg Trakls
    - 2-1. Der Verfall
    - 2-2. Das gealterte Menschengeschlecht
    - 2-3. Die Zivilisationsmotivik
    - 2-4. Schuld und Verfallenheit
  3. Zum Abschluss
- 380) "Salzburger Trakl-Symposion."  
 Herausgegeben von Walter Weiß und Hans Weichselbaum  
 Trakl-Studien, Band 9. Herausgegeben von Alfred Doppler und Ignaz Zangerle.  
 Otto Müller Verlag, Salzburg 1978
1. Bernhard Böschstein: Hölderlin und Rimbaud.  
 Simultane Rezeption als Quelle poetischer Innovation im Werk Georg Trakls
  2. Adrien Finck: Die französischen Trakl-Übersetzungen
  3. Französische Übersetzungen von Jacques Legrand
  4. Gerald Stieg: Georg Trakl und Karl Kraus
  5. Eberhard Sauermann: Die Widmungen Georg Trakls
  6. Arbeitsgespräche
- 381) Christa Saas: "Georg Trakl." Metzlerische Verlagsbuchhandlung, Stuttgart 1974
1. Materialien
    - 1-1. Werkausgaben
    - 1-2. Bibliographien
    - 1-3. Biographie und Erinnerungen
    - 1-4. Gesamtdarstellungen
    - 1-5. Vergleichende Studien
    - 1-6. Einzelinterpretationen
  2. Leben und Werk
    - 2-1. Jugend in Salzburg (1887-1908)
    - 2-2. Die Jahre in Wien (1908-1911/12)
    - 2-3. Innsbruck: Die letzten Jahre (1912-1914)
  3. Probleme und Aufgaben der Forschung
- 382) Gudrun Grapow: "Die Elis-Gedichte Georg Trakls" Verlag Peter Lang, 1982
1. Literaturkritische Praemissen
  2. Metaphorisches oder symbolisches Sprechen bei Trakl?
  3. Methodologische und theoretische Ueberlegungen zum Problem der Metapher und des Symbols
  4. Statt "Metapher" und "Symbol": Trakl-Woerter
  5. Die Notwendigkeit eines Trakl-Woerterbuchs
  6. Die "Elis"-Gedichte Trakls. Versuch einer Interpretation
- 383) TEXT+KRITIK, Georg Trakl  
 Zeitschrift für Literatur, Herausgegeben von Heinz Ludwig Arnold.  
 Vierte, erweiterte Auflage 1985
1. Friedrich Georg Jünger: Trakls Gedichte
  2. Heinz Wetzel: Über Georg Trakls Gedicht "Nachtergebung".  
 Eine Untersuchung der fünf Fassungen
  3. Hans-Georg Kemper: Varianten als Interpretationshilfe.  
 Zur Genese von Georg Trakls "Melancholie"
  4. Elsbeth Wolffheim: "Die Silberstimme des Totengleichen".  
 Das Farbwort "silbern" im lyrischen Werk Georg Trakls
  5. Bernhard Böschstein: Motivwanderung in Trakls Gedichten. Am Beispiel des "Wilds"
  6. Iris Denneler: Erinnerung-ein Fragment. Zu Georg Trakls später Prosa
  7. Heinz Rölleke: Zivilisationskritik im Werk Trakls
  8. Gebhard Rusch/Siegfried J. Schmidt: Georg Trakl-welcher?  
 Literaturgeschichtsschreibung als Konstruktionsarbeit
  9. Alfred Doppler: Die Erstöffentlichungen Trakls von 1906-1913  
 in Tageszeitungen und Zeitschriften
  10. Hans Szklenar: Georg Trakl. Ein biographischer Abriß

## 11. Hans-Georg Kemper: Bibliographie

- 384) Londoner Trakl-Symposion  
Herausgegeben von Walter Methlagl und William E. Yuill  
Trakl-Studien, Band 10. Herausgegeben von Alfred Doppler und Ignaz Zangerle.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1981
1. Walter Methlagl: Wirkung und Aufnahme des Werkes von Georg Trakls seit dem Ersten Weltkrieg
  2. Michael Rogers: Trakl's Imagery
  3. T. J. Casey: Returning to Trakl: On Re-reading a Trakl-Poem
  4. Hans Weichselbaum: Die "Zivilisation" bei Georg Trakl
  5. Alfred Doppler: Der Stilwandel in der Lyrik Georg Trakls
  6. Raymond Furness: Trakl and the literature of decadence
  7. Patrick Bridgwater: Georg Trakl and the Poetry of the First World War
  8. Michael Hamburger: "Trakl in English". Reading and Discussion of Translations of Selected Poems
- 385) Hans Esselborn: "Georg Trakl. Die Krise der Erlebenslyrik"  
Böhlau Verlag, Köln 1981
1. Ziel und Methode der Arbeit
  2. Die Veränderung der traditionellen lyrischen Formen bei Georg Trakl
  3. Die Veränderung der traditionellen lyrischen Thematik und ihrer Darstellung bei Georg Trakl
  4. Das Schicksal des traditionellen lyrischen Ich bei Georg Trakl
  5. Die literarische Selbstanalyse als Antwort Trakls auf die Problematik des lyrischen Ausdrucks
- 386) Gunther Kleefeld: "Das Gedicht als Sühne."  
Georg Trakls Dichtung und Krankheit. Eine psychoanalytische Studie.  
Max Niemeyer Verlag, Tübingen 1985
1. Das Schizophrenieproblem: Gegenstand, Fragestellung und Methodik der Untersuchung
  2. Die Passion des Georg Trakl: Versuch einer Psychobiographie
  3. Die nächtliche Landschaft der Seele: Interpretationsstudien zum dichterischen Werk Trakls
  4. Schluß: Das Schuldgefühl, kritisch betrachtet
- 387) Hildegard Steinkamp: "Die Gedichte Georg Trakls.  
Vom Landschaftscode zur Mythopoesie." Verlag Peter Lang, 1988
1. Einleitung
  2. Die Gestaltung von Raum durch Landschaftswörter
  3. Die Gestaltung von Zeit durch Landschaftswörter
  4. Trakls Verfahren der Bedeutungserweiterung von Landschaftswörter
  5. Trakls Landschaftscode: Genese einer Mythopoesie
- 388) Kathrin Pfisterer-Burger: "Zeichen und Sterne."  
Georg Trakls Evokationen lyrischen Daseins. Trakl-Studien, Band 11.  
Herausgegeben von Ignaz Zangerle, Walter Methlagl und Alfred Doppler.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1983
- 389) Ernst Hanisch, Ulrike Fleischer: "Im Schatten berühmter Zeiten.  
Salzburg in den Jahren Georg Trakls, 1887-1914." Trakl-Studien, Band 13.  
Herausgegeben von Ignaz Zangerle, Walter Methlagl und Alfred Doppler.  
Otto Müller Verlag, Salzburg 1986
- 390) Peter Schünemann: "Georg Trakl" Verlag C. H. Beck, München 1988

1. Kontur eines Lebens
2. Stadt im Gegenlicht
3. Jugendbildnis
4. Das Schattenfeld
5. Mechanische Landschaft
6. Leerer Himmel

391) Hermann Zwerschina: "Die Chronologie der Dichtungen Georg Trakls."

Innsbrucker Beiträge zur Kulturwissenschaft  
Germanistische Reihe Band 41. Innsbruck 1990

1. Bemerkungen zur Methode
2. Datierungshilfe: Die von Trakl verwendeten Schreibmaschinen
3. Korrespondenz zwischen verwendeten Schreibmaschinen und Papiergruppen
4. Editionsgeschichte der 'Gedichte' (1913)
5. Editionsgeschichte 'Sebastian im Traum' (1915)
6. Editionsgeschichte der 'Sammlung' (1909)
7. Datierung der Dichtungen

392) Sieglinde Klettenhammer: "Georg Trakl in Zeitungen und Zeitschriften seiner Zeit."

Kontext und Rezeption. Innsbrucker Beiträge zur Kulturwissenschaft  
Germanistische Reihe Band 42. Innsbruck 1990

1. Methodologische Vorbemerkungen
2. Poetischer Text, literarischer, historischer und sozialer Kontext am Beispiel der Erstveröffentlichungen Trakls in Salzburger und Wiener Zeitungen und Zeitschriften von 1906 bis 1913
3. Die Rezeption Georg Trakls im Umkreis des "Brenner"
4. Personelles Umfeld, weltanschauliche und ästhetische Positionen von Distributionsorganen als rezeptionssteuernde Faktoren

393) "Trakl in fremden Sprachen."

Internationales Forum der Trakl-Übersetzer  
Herausgegeben von Adrien Finck und Hans Weichselbaum.  
Trakl-Studien, Band 17. Otto Müller Verlag, Salzburg 1991

1. Krzysztof Lipinski (Krakau): Übersetzungsfall Georg Trakl: Strategien der Schlüsselwortwiedergabe  
Übersetzungsbeispiele: "Die Bauern" "An die Schwester"  
"Nähe des Todes" "Untergang"
2. Peter Zajac (Bratislava): Trakl in den slowakischen Übersetzungen  
Übersetzungsbeispiele: Drei Übersetzungen von "Grodok"
3. Waldemar Weber (Moskau): Trakls Lyrik auf dem Weg ins Russische  
Übersetzungsbeispiele: "Rondel" "An die Schwester" "De Profundis"
4. Hikmet Kayahan (Istanbul): Übersetzen ist ein kulturelles Problem  
Übersetzungsbeispiele: "Die schöne Stadt" "Das Herz" "Untergang"
5. Liang Jiazhen (Xi'an/Göttingen): Trakl im Chinesischen  
Übersetzungsbeispiele: "Ein Winterabend" "Die Schwermut"
6. Kasuhiko Kubo (Tokio): Die Trakl-Übersetzungen in Japan  
Übersetzungsbeispiele: "Im Frühling" "Rondel" "Verklärter Herbst" "De Profundis"
7. Asako Nakamura (Tokio/Salzburg): Anmerkungen einer japanischen Trakl-Übersetzerin  
Übersetzungsbeispiele: "Rondel" "De Profundis"
8. Heinz Wetzel (Toronto): Sprachmusik und Übersetzung:  
Der Tonfall Trakls in fremden Sprachen  
Übersetzungen von Michael Hamburger: "Musik im Mirabell" "Das Herz"  
"Die Schwermut" "An den Knaben Elis" "Untergang"
9. Jacques Legrand (Villemors-Valcresnes): Blick in das Atelier eines Trakl-Übersetzers  
Übersetzungsbeispiele: "Sonja" (mit Übersetzung von Giraud) "Afra"  
"Sebastian im Traum" "In Milch und Öde;..."
10. Ida Porena (Rom): Auf den Spuren einer Übersetzung von Georg Trakl  
Übersetzungsbeispiele: "Die schöne Stadt" "Die Schwermut" "Untergang"



11. José Luis Reina Palazon (Sevilla): Probleme der Übersetzung von Georg Trakl  
ins Spanische  
Übersetzungsbeispiele: "Die Schwermut" "Untergang"
12. Übersetzungsanthologie von drei Gedichten
- 394) Alfred Doppler: "Die Lyrik Georg Trakls." Beiträge zur poetischen Verfahrensweise  
und zur Wirkungsgeschichte. Böhlau Verlag, 1992
1. Orphischer und apokalyptischer Gesang (Zum Stilwandel in der Lyrik Georg Trakls)
  2. Die Stufe der Präexistenz in den Dichtungen Georg Trakls
  3. Bemerkungen zur poetischen Verfahrensweise Georg Trakls
  4. 'Psalm' von Georg Trakl
  5. Die Musikalisierung der Sprache in der Lyrik Georg Trakls
  6. Georg Trakl und Otto Weininger
  7. "Der Brenner" als Kontext zur Lyrik Georg Trakls
  8. Georg Trakl als Vorbild für die Bestimmung des Dichters im "Brenner" nach 1945
  9. Die Verwandlungen des Gartens: Das Weiterwirken eines Motivs
- 395) Martin Heidegger: "Unterwegs zur Sprache."
- Die Sprache
  - Die Sprache im Gedicht. Eine Erörterung von Georg Trakls Gedicht.
  - Aus einem Gespräch von der Sprache. Zwischen einem Japaner und einem Fragenden.
  - Das Wesen der Sprache. • Das Wort. • Der Weg zur Sprache.
  - Hinweise Verlag Günther Neske Pfullingen. Vierte Auflage 1971
- 396) Gedichte der "Menschheitsdämmerung"  
Interpretationen expressionistischer Lyrik. Mit einer Einleitung von Kurt Pinthus.  
Joerg Schaefer: Georg Trakl, "Der Herbst des Einsamen" (S.18-32)
- 397) Walter Muschg: "Tragische Literaturgeschichte"  
Francke Verlag, München. Fünfte Auflage 1983
1. Die Seher; Moderne Seher und Propheten (Trakl, siehe!155-156)
  2. Das Leiden; Weihe des Leidens (Künstliche Rauschmittel, s.437)
  3. Die Liebe; Heilige Liebe (Kafka, s.484)
  4. Die Schuld; Das Schweigen (Mystisches Verstummen, s.526,  
Dichtung als Schweigen, s.527)
- 398) Ludwig Wittgenstein: "Briefe an Ludwig von Ficker"  
Herausgegeben von Georg Henrik von Wright.  
Brenner-Studien, Band 1. Otto Müller Verlag, Salzburg 1969
- 399) Gudrun Susanne Littek: Existenz als Differenz.  
Der "Dichter" im Werk Georg Trakls. Tectum Verlag, Marburg 1995
1. Dichterische Existenz in der Nähe des Todes
  2. "Verflossen ist das Gold der Tage"- "o unser verlorenes Paradies"
  3. Nietzsches Ausspruch: "Gott ist tot"
  4. Der Standort des Dichters: Sein in "dürftiger Zeit"
  5. Der Dichter als heimatloser Fremdling
  6. Der Dichter in Schwermut und sprachloser Trauer
  7. Trost im Leid: Die Liebenden 8. Existenz als Differenz
- 400) Mechtild Kirschner: "Die Metaphorisierung des vegetativen Lebensbereiches  
in der frühen Lyrik Else Lasker-Schülers und Georg Trakls"  
Verlag Peter Lang GmbH, Frankfurt am Main 1990

- 401) "Zyklische Kompositionsformen in Georg Trakls Dichtung"  
 Szegeder Symposion, Herausgegeben von Károly Csúri.  
 Max Niemeyer Verlag, Tübingen 1996  
 Vorwort
1. Wolfgang Braungart: Zur Poetik literarischer Zyklen.  
 Mit Anmerkungen zur Lyrik Georg Trakls
  2. Iris Denneler: Textbegehrlichkeiten oder Was fasziniert am Zyklus?  
 Zum Einfluß des Lesers auf die Textkonstitution am Beispiel  
 von Georg Trakls Gedichtbänden
  3. Károly Csúri: Grundprinzipien in statu nascendi.  
 Zyklus-Schemata und Transparenzstruktur in Gedichten  
 Georg Trakls frühen Gedichten
  4. Hans Esselborn: Wiederkehr und Ende.  
 Zyklische und finale Strukturen in Gedichten Georg Trakls
  5. Walter Methlagl: Zur "ewigen Wiederkehr" in Trakls Lyrik
  6. Jaak De Vos: Die Quadratur des Kreises.  
 Überlegungen zum zyklischen Kompositionsprinzip in Trakls Lyrik
  7. Eric Williams: Schwegendes Tönen: Zur Wiederkehr der Flöten
  8. Eberhard Sauermann: Zyklische Strukturen in Trakls "Helian"
  9. Sieglinde Klettenhammer: Figurationen des Weiblichen in der Lyrik Georg Trakls
  10. Alfred Doppler: Strukturformen der dreiteiligen Gedichtkompositionen Georg Trakls
  11. Gunther Kleefeld: Maß und Gesetz.  
 Zahlenkompositorik in Georg Trakls Gedichtband "Sebastian im Traum"
- Literaturverzeichnis

- 000) 「ドイツ詩学入門」一ノ瀬恒夫著 大学書林 昭和 40(1965)年  
 000) 「愛の黄昏」たんなか・ゆうた著 Niemand Null 出版 平成後の元号(2020)年  
 000) 「狂気の戦場 総員玉砕せよ！」(水木しげる著)  
 出版日の記載なし(オハヨー出版)

- 402) 「トラーケル詩集」(平井俊夫訳) 筑摩叢書 100  
 I 美しい街 小協奏曲 農夫たち 悪の夢 深き淵より 村にて ヘリアン  
 II 夢のなかのゼバステイアン 孤独者の秋 死の七つの歌  
 III 夢と狂気 訣れを告げた者の歌 啓示と没落  
 ・年譜 ・解説(エーミル・バルト) ・あとがき ・詳細目次  
 昭和 42(1967)年 11 月 30 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

- 403) 「対訳 ゲオルク・トラーケル詩集」  
 Georg Trakl: Die Dichtungen (Deutsch-Japanisch)  
 (herausgegeben und übersetzt von Norbert Hormuth, Satoru Kurisaki und Natsuki Takita)  
 (ノルベルト・ホルムート 栗崎了 滝田夏樹訳注)  
 昭和 42(1967)年 10 月 20 日初版発行  
 昭和 60(1985)年 11 月 20 日再版発行(同学社)

- 404) 「トラーケル詩集」(吉村博次訳) 世界の詩 51  
 ・美しい街 ・小協奏曲 ・農夫たち ・悪の夢 ・デ-プロフンディス  
 ・村で ・夢のなかのゼバステイアン ・孤独な者の秋 ・死の七つの歌  
 ・離別した者の歌 ・啓示と没落  
 昭和 43(1968)年 2 月 29 日初版発行(彌生書房)

- 405) 「ユリイカ」6月号  
 Eureka 詩と批評 第 16 卷 第 6 号 (通巻 209 号)  
 特集 表現主義<終末>の超克  
 昭和 59(1984)年 6 月 1 日発行(青土社)

406) 「トラークル全詩集」(中村朝子訳)

I 詩集

II 夢のなかのセバスチャン

- ・夢のなかのセバスチャン
- ・孤独な者の秋
- ・死の七つの歌
- ・訣別した者の歌
- ・夢と錯乱

III 1914年から1915年に「ブレンナー」誌に発表された詩

IV その他の生前に発表された詩

V 遺稿 ・1909年集 ・1909年～1912年 ・1912年～1914年  
昭和58(1983)年9月1日発行(青土社)

407) 「ドイツ表現主義の詩人たち」(滝田夏樹著)

序章 ドイツ表現主義のプロフィール

第1章 ドイツ表現主義詩論(1) 第2章 ドイツ表現主義詩論(2)

第3章 「死者」の系譜 第4章 七月子たちの目 第5章 「ヘーリアン」考

第6章 トラークル『詩集』の成立 第7章 トラークルの「眠る男」

第8章 「父親」からの脱走 第9章 築地小劇場とドイツ表現主義

第10章 「新感覚派」とドイツ表現主義

終章 モダニズムの中に

- ・詩人紹介
- ・あとがき
- ・付録「ヘーリアン」原文
- ・主要参考文献

平成2(1990)年11月20日初版発行

平成4(1992)年4月1日2版発行(同学社)

408) 「夕べの窓」(久保和彦著)

はじめに

I ・復活祭のころ ・ヴィーン、時と言葉は流れ----- ・野のマリア ・花について

II ・ティロルの宿 1 アルプスの秋 2 土と人びと 3 再会

- ・プスターの谷 1 天使の時 2 光と陰 3 イニヒェンまで

- ・ミューラウの丘

III ・冬の日々 ・私的な言葉 個人の言葉 ・孤独な漁夫 ・きよしこの夜

注・あとがき・地名一覧

昭和59(1984)年11月25日第1刷発行(作品社)

409) 「広く知られし時代の陰に」ゲオルク・トラークル時代のザルツブルク

(エルンスト・ハーニッシュ ウルリケ・フライシャー著)

Ernst Hanisch, Ulrike Fleischer: Im Schatten berühmter Zeiten

----Salzburg in den Jahren Georg Trakls(1887-1914.) (植和田光晴訳)

序論 墮落した種族?

第1部 前提システム

第1章 市民階級の秋 第2章 ザルツブルクの世紀末

第2部 作品のテーマに沿って

終章 広く知られし時代の陰に 平成7(1995)年12月10日第1刷発行(三修社)

410) 「カスパー・ハウザー」(A. v.フォイエエルバッハ著)

Anselm Ritter von Feuerbach: Kaspar Hauser

--Beispiel eines Verbrechens am Seelenleben des Menschen.

J. A. L. Singh and R. M. Zingg: Wolf-Children and Feral Man.(中野善達・生和秀敏訳)

はじめに----英訳版の刊行にあたって

第1章 カスパー・ハウザーの出現 第2章 出現当時の所持品と特徴

第3章 カスパー・ハウザーの行動と精神状態 第4章 地下牢生活の謎

第5章 日常の生活態度や視覚の特徴 第6章 精神的成長と宗教意識

第7章 回顧録の執筆と暗殺の未遂 第8章 エピローグ----悲劇的結末

付章 カスパー・ハウザー「バーデン大公後継者説」

- ・参考文献
  - ・訳者あとがき
- 昭和52(1977)年6月10日初版発行(福村出版)

411) 「現代ドイツ詩論」(川村二郎編) 世界詩論大系 4

「チャンドス卿の手紙・詩についての対話」

Hugo von Hofmannsthal(フーゴー・フォン・ホーフマンスタール) 富士川英郎訳

「若い詩人について」 Rainer Maria Rilke(ライナー・マーリア・リルケ) 川村二郎訳

「詩の冒険」 Oskar Loerke(オスカー・レルケ) 神品芳夫訳

「詩の根底」 Wilhelm Lehmann(ヴィルヘルム・レーマン) 杉浦博訳

「詩の誕生」

Rudolf Alexander Schröder(ルドルフ・アレクサンダー・シュレーダー) 轡田修訳

「詩の問題性・クノック講演」 Gottfried Benn(ゴットフリート・ベン) 内藤道雄訳

「詩についての試み」

Hans Egon Holthusen(ハンス・エゴン・ホルトゥーゼン) 生野幸吉訳

「知的な快活さ」 Karl Krolow(カルル・クローロウ) 杉浦博訳

「前提」 Helmut Heißenbüttel(ヘルムート・ハイセンビュッテル) 内藤道雄訳

「詩作の実際」 Heinz Piontek(ハインツ・ピオンテク) 高本研一訳

「手紙」 Paul Celan(パウル・ツェーラン) 川村二郎訳

「即興詩」 Günter Grass(ギュンター・グラス) 川村二郎訳

「ユートピアとしての文学」

Ingeborg Bachmann(インゲボルク・バッハマン) 生野幸吉訳

「詩と政治」

Hans Magnus Enzensberger(ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガー) 野村修訳

『祖国の涙』の序

Johannes Robert Becher(ヨハネス・ローベルト・ベッヒャー) 井上正蔵訳

「抒情詩について」 Bertolt Brecht(ベルトルト・ベッヒャー) 五十嵐敏夫訳

「詩の暗さ」 Werner Kraft(ヴェルナー・クラフト) 高本研一訳

「言葉」 Martin Heidegger(マルチン・ハイデッガー) 清水康雄訳

「比喩・シンボル・アレゴリ」 Ernst Broch(エルンスト・ブロッホ) 菅谷規矩雄訳

昭和 52(1977)年 7月 15日 発行(思潮社)

412) 「詩とリズム」(ゲールハルト・シュトルツ著) ドイツ近代韻律論

Gerhard Storz: Der Vers in der neueren deutschen Dichtungie Sprache(坂田正治訳)

- ・序説
- ・リズムとメートゥルム Metrum
- ・韻律論上の図式(Das Versmaß)
- ・詩句の種類(詩脚)
- ・強弱音節が規則正しく交替する韻律図式  
(ヤンブス Jambus とトロヘーウス Trochäus)
- ・強弱音節が規則正しい交替をしない韻律図式(ダクテュルス Daktylus,  
アナペースト Anapäst, アムフィーブラッハ Amphibrach, クレーティクス Kretikus)
- ・四音節の韻律図式(イオニア詩句 Ionikus とコールヤンブス Chorjambus)
- ・ツェズール(中間休止 Zäsur)
- ・アンジャンブマン(詩行のまたがり Enjambement)
- ・強弱音節が規則正しく交替する詩句の基本的なタイプ
- ・韻と韻の置き方
- ・押韻詩節とその形式
- ・押韻詩の定形
- ・詩行の繰り返しによる韻の漸層法(ロンドー Rondeau, トリオレット Triolett,  
グロッセ Glosse, ゼスティーネ Sestine, ガゼール Ghasel)
- ・強弱音節が規則正しい交替をしない古代の詩句、及び詩節形式の模造
- ・ヘクサーメター(Hexameter)
- ・ペンターメター(Pentameter)
- ・オーデ(Ode)
- ・アルカイオス詩節(Alkäische Ode)
- ・アスクレピーアデス詩節(Asklepiadeische Ode)

- ・サッフォー詩節(Sappische Ode)
  - ・自由な、自律的なリズム
  - ・新高ドイツ語の詩句の歴史に関する概観
- 昭和 53(1978)年 3 月 15 日発行(九州大学出版会)

413)「表現主義の詩、ドイツ表現主義 1」 編集責任 (高安国世)

「人類の薄明--序」

- Kurt Pinthus(クルト・ピントゥス)Menschheitsdämmerung-Zuvor(高安国世訳)  
 Gottfried Benn(ゴットフリート・ベン)  
 Else Lasker-Schüler(エルゼ・ラスカー＝シューラー)  
 Ernst Stadler(エルンスト・シュタードラー)  
 Georg Heym(ゲオルク・ハイム)  
 Jakob van Hoddis(ヤーコプ・ファン・ホディイス)  
 August Stramm(アウグスト・シュトラム)  
 Franz Werfel(フランツ・ヴェルフェル)  
 Georg Trakl(ゲオルク・トラークル)  
 Yvan Goll(イヴァン・ゴル)  
 Johannes Robert Becher(ヨハネス・ローベルト・ベッヒャー)  
 Gottfried Kölwel(ゴットフリート・ケルヴェル)  
 Oskar Loerke(オスカー・レルケ)  
 Paul Zech(パウル・ツェヒ)  
 Ernst Blass(エルンスト・ブラス)  
 Mynona(ミュノーナ)  
 Ludwig Rubiner(ルートヴィヒ・ルービナー)  
 Walter Hasenclever(ヴァルター・ハーゼンクレーヴァー)  
 Alfred Lichtenstein(アルフレート・リヒテンシュタイン)  
 Paul Boldt(パウル・ボルト)  
 Albert Ehrenstein(アルベルト・エーレンシュタイン)  
 Max Hermann-Neiße(マックス・ヘルマン＝ナイゼ)  
 Oskar Kanehl(オスカー・カーネール)  
 Wilhelm Klemm(ヴィルヘルム・クレム)  
 Alfred Wolfenstein(アルフレート・ヴォルフエンシュタイン)  
 Edlef Köppen(エードレーフ・ケッペン)  
 Ludwig Bäumer(ルートヴィヒ・ボイマー)  
 Ferdinand Hardekopf(フェルディナント・ハルデコップ)  
 Adolf von Hatzfeld(アドルフ・フォン・ハッツフェルト)  
 Heinrich Lersch(ハインリヒ・レルシュ)  
 Hugo Sonnenschein(フーゴー・ゾンネンシャイン)  
 Gerrit Engelke(ゲリート・エンゲルケ)  
 Karl Otten(カール・オッテン)  
 Lothar Schreyer(ロータル・シュライアー)  
 Hans Kaltneker(ハンス・カルトネッカー)  
 Ernst Toller(エルンスト・トラー)  
 Kurt Heynicke(クルト・ハイニッケ)  
 Bruno Goetz(ブルーノー・ゲッツ)  
 Paul Klee(パウル・クレー)  
 Wassily Kandinsky(ヴァシーリイ・カンディンスキー)  
 Hugo Ball(フーゴー・バル)  
 Richard Hülsenbeck(リヒアルト・ヒュルゼンベック)  
 Hans Arp(ハンス・アルプ)  
 Kurt Schwitters(クルト・シュヴィッターズ)

昭和 46(1971)年 7 月 25 日初版発行(河出書房新社)

414) 「詩と言葉」(マルティン・ハイデッガー著)  
Martin Heidegger: Die Sprache im Gedicht. Das Wort.  
・詩のなかの言葉・言葉(三木正之訳)  
昭和 38(1963)年 7 月 1 日 第 1 版 第 1 刷 発行  
昭和 42(1967)年 10 月 25 日 第 1 版 第 3 刷 発行(理想社)

415) 「ドイツ現代文学批判」危機と変革  
Hans Kaufmann: Krisen und Wandlungen der deutschen Literatur  
von Wedekind bis Feuchtwanger(今村孝・梶野啓・須賀洋一・  
杉浦実・辻善夫・長橋英美子・溝辺敬一・南次郎・八木浩訳)

序言

第 1 章 対象と課題  
第 2 章 20 世紀初頭におけるドイツ文学の状況  
第 3 章 ふたりの劇作家 ゲルハルト・ハウプトマンとフランク・ヴェーデキント  
第 4 章 ふたりの小説家 ハイน์リヒ・マンとトーマス・マン  
第 5 章 ふたりの抒情詩人 ライナー・マリーア・リルケとシュテファン・ゲオルゲ  
第 6 章 「文学革命」 第 7 章 付論 ゴトフリート・ベンの『イータカ』  
第 8 章 表現主義抒情詩 第 9 章 表現主義演劇  
第 10 章 長篇小説の危機と変遷 第 11 章 革命以後  
第 12 章 あたらしい演劇の創造 初期のブレヒト  
第 13 章 1920 年代の小説における分析とユートピア  
第 14 章 アルノルト・ツヴァイクとリーオン・フォイヒトヴァンガー  
演劇の努力と小説の成果  
第 15 章 表現主義以後の抒情詩  
昭和 45(1970)年 6 月 20 日 第 1 刷 発行(ミネルヴァ書房)

416) 「笹まくら」(丸谷才一著) 講談社文庫  
解説(川村二郎)  
昭和 48(1973)年 6 月 15 日 第 1 刷 発行(講談社)

417) 「私のヨーロッパ」(犬養道子著) 新潮選書  
・その本質 ・ユラの農家で ・逆説の陸地 ・週末 ・ヴィア-プリンチパリス  
・ヨーロッパの父 ・ヨーロッパの本質「信ずる」 ・ナニイとイザベル  
・巨人たちの影 ・たばこの煙 ・死の思想 ・あとがき  
昭和 47(1972)年 10 月 20 日 発行  
昭和 55(1980)年 12 月 20 日 16 刷(新潮社)

418) 「ラインの河辺」(犬養道子著) ドイツ便り  
・窓 ・ドイツの風土 ・ケルンの家具屋 ・駅 ・ミッタークエッセン  
・ドイツの家事整理学 ・社交 ・マーケット ・電気のはなし ・常識と礼  
・ヨーロッパ式の住 ・ハンコとサイン ・貧と病と死と ・福祉 ・薬と健康食  
・車椅子と夜会服 ・湯の町 ・古い美と新しい美 ・あとがき  
昭和 48(1973)年 6 月 20 日 初版  
昭和 49(1974)年 9 月 10 日 7 版(中央公論社)

419) 「セーヌ左岸で」(犬養道子著) パリ便り  
・トラック、ライン河を越す ・私が見つけた生活用品 ・ゴミ-この世界の問題  
・パリのメニュー ・着たきりスズメ ・ドアと窓 ・渦巻の町パリ ・私の住む区  
・スイスの山と落書 ・性の尊さ ・もろはのナイフ-性教育  
・花も実もある保険制度 ・黄色い人 ・海外での病気 ・幻想だった経済大国  
・スプーン一杯 ・伝承について ・ロンドンの施設にて ・十八人の会葬者  
・「スプーン一杯」その後 ・あとがき  
昭和 50(1975)年 2 月 20 日 初版  
昭和 50(1975)年 4 月 30 日 7 版(中央公論社)

420) 「私のスイス」(犬養道子著)

- ・プロローグ ブリークの宿
- ・西南の谷 ・アルプスと谷 氷のうえ ・共同体 道案内
- ・東の谷 アルプスの湖 1 エシネン 2 ラゴ-ビアンコ 3 シルス-マリア
- ・峠ありき ロスワルド ・スイス誕生 パラディツ
- ・谷と傭兵しして金 スイスの投票 ・貧から富へ マッターホルン東
- ・特色いくつか スイス効率ナンバーワン
- ・エンガディンにて 頂上(ピツ-ランガード)

昭和 57(1982)年 5 月 25 日発行(中央公論社)

421) 「聖書の天地」(犬養道子著)

序 聖書が語るもの---日々深まり人を新しくしつづける生命の言葉

1 人類存在の意義---「いま」と「こんご」と「時の終り」の間の歴史

2 神の名・人名・地名---名前の持つ意味・使命

3 成る者・在る者---人間と神とのちがい

4 宇宙と人間---創造者を持つ全宇宙・万物

5 アダムとエワ---素晴らしきかな、人間

6 女性的なるもの---叡智と生命の本質は女性的

7 女の日々---聖書時代の衣食住 8 放蕩息子---悲と悪と苦の根源は何?

9 旅立ち---死から生へ、苦しみから喜びへの過ぎ越し

10 十戒前後---神と人とが共に生きる道

11 啓示---神は創造したすべてを通して語る

12 ダビド---キリストの前じらせとしての人と事業

13 預言の書---生に立ち返る日への希望

14 愚と栄光---キリストの十字架の輝きの意味

15 愛---われと汝、及びその二者をつなぐ生命的な愛の三者

16 神の国---神に受け入れられる者たち 17 奇蹟---蘇生、充滿、そして神の實在

18 光と水---神の奥義・人の秘義 19 影響(思想その他)---人と人・約と信

20 美術の手引---シンボリズムその他 21 聖書と現代---正義・平和・和解への努力

22 成就への糧---最後の晩餐の意味 23 然あれかし---全聖書完結の言葉

あとがき 参考文献

昭和 56(1981)年 4 月 10 日発行

昭和 57(1982)年 11 月 15 日 6 刷(新潮社)

422) 「旧約聖書物語」(犬養道子著)

I モイゼ五書 1 約束 2 ふたりの子 3 イスラエル 4 ヨゼフとその兄弟

5 ファラオの国で 6 出エジプト(エクソダス) 7 荒野にて 8 十戒

9 天地のはじめ 10 洪水と塔 11 律法 12 レヴィの書 13 民々の書

II ヨシュアの記 ヨルダンを越えて

III 判事たち 1 ユウド 2 デボラ女判事 3 ギデオン 4 サムソン

IV 歴史の書 1 サムエル 2 初代の王 3 ダビド 4 イスラエルの統一

5 アブサロム、アブサロム! 6 智者ソロモン 7 王国分裂 8 預言者エリア

9 北からの嵐 10 イスラエル滅亡 11 ユダ最後の日々

V 預言の書 1 イザヤ 2 ミカヤ 3 エレミア 4 バルク 5 エレミア哀歌

6 エゼキエル 7 ダニエル

VI 滅亡ののち 1 エストラ記 2 ネヘミヤ記 3 ユダの女 4 女王エステル

5 マカベの書 6 マカベの書簡

VII 待つ人

VIII 詩篇

IX 教訓の書 1 ヨブ記 2 ルト記 3 格言集 4 集会の書 5 雅歌

あとがき

昭和 44(1969)年 12 月 10 日発行

昭和 50(1975)年 9 月 15 日 15 刷(新潮社)

423) 「旧約聖書物語」(犬養道子著) 増訂版

第一部 モーセ五書

- 第1章 約束 1 約束 2 ふたりの子 3 イスラエル
- 第2章 ヨゼフ 1 兄弟たち 2 ファラオの国で
- 第3章 出エジプト 1 エクソダス 2 荒野にて 3 十戒
- 第4章 創世 1 天地のはじめ 2 洪水と塔
- 第5章 契約 1 律法 2 レヴィの書 3 民々の書

第二部 歴史の書

- 第1章 河のかなた ヨシュアの記
- 第2章 判事たちのころ 1 ユウド 2 デボラ女判事 3 ギデオン 4 サムソン 5 ルトの記

第三部 列王の書

- 第1章 ジェッセの根 1 サムエル 2 初代の王 3 ダビド 4 イスラエル統一  
5 アブサロム、アブサロム!
- 第2章 風雲 1 智者ソロモン 2 王国分裂 3 預言者エリア  
4 北からの嵐 5 イスラエル滅亡 6 ユダ最後の日々

第四部 滅亡ののち

- 1 エストラ記 2 ネヘミヤ記 3 ユダの女 4 トビアの書  
5 女王エステル 6 マカベの書 7 マカベの書簡

第五部 文学の書

- 第1章 詩篇
- 第2章 人生の書 1 考古学・聖書学的考察 2 ヨブ記 3 格言集 4 集会の書
- 第3章 永遠なる智 1 叡智の書 2 雅歌

第六部 来し方行く末

- 第1章 預言の書 1 イザヤ 2 ミカヤ 3 エレミア 4 バルク  
5 エレミア哀歌 6 エゼキエル 7 ダニエル

第2章 待つ人

- ・詳細年表 ・あとがき ・旧約-新約関連重要事項総合  
昭和 52(1977)年 12月 10日 発行  
昭和 57(1982)年 7月 25日 9刷(新潮社)

424) 「文学と狂気」(加賀乙彦著)

- I 芸術と狂気 ・大岡昇平における私と神 ・夏目漱石論  
・ドストエフスキイと聖なる狂気 ・カフカと反世界の文学  
・覚めたる狂気の画家ボッシュ ・狂気への視点
  - II 私の小説の地平 ・異常と正常の間 ・私の小説の地平 ・LSD 幻覚と私の文学  
・フランドルの誕生日 ・括弧の中の世界 ・私のパリ  
・現代にとって文学とは何か ・私の読書遍歴 ・科学者の文章  
・医者で文士であること ・解禁された病跡学 ・『歯車』の診断  
・青春の文学としての芥川龍之介 ・川端さんの指  
・デュラス--影と暗示の手法が目指すもの ・『実験小説論』と『実験医学序説』  
・観念小説と現実世界 ・原口統三の死 ・正田昭と砂漠の思想 ・刑死した友へ  
・二つの不安 ・刑務所は現代の実験室である ・死刑囚の思惟 ・引かれ者の小唄考
  - III 大都会の片隅で ・わが人工楽園 ・偏頭痛 ・墜落 ・ジャネの法則  
・インプリンティング ・孤独と気晴し ・常食のたのしみ ・パリと東京の休日  
・わが愛するうた ・見晴し台 ・カラコロ---- ・記憶の明暗 ・実感的新宿論  
・十三番線異聞 ・新宿の朝 ・負の存在感が良い ・デモ街道  
・高い窓から眺めれば ・マンション探し事始
  - IV 現代と狂気 ・現代と狂気 ・団地殺人と女性 ・サイケデリック論  
・凶悪犯罪と識者の意見 ・犯罪学の貧困 ・文明と性の禁圧 ・車という魔の機械  
・学生運動と観念小説 ・反逆の心理 ・新宿西口広場 ・1969-10-21印象記  
・変身への願望 ・ソニミ虐殺事件と文明の狂気 ・道は近くに  
・現実をのみこんだ狂気 ・冷たい狂気 ・三島由紀夫と強者の倫理
- あとがき 昭和 46(1971)年 6月 29日 初版第 1刷 発行(筑摩書房)



425) 「見れば見るほど・・・」(加賀乙彦著)

- ・毎日毎日--- ・おかしなおかしな--- ・子と親と子と--- ・こまった人たちが---
- ・不愉快で無神経な--- ・犬も歩けば---

昭和 55(1980)年 5 月 23 日 1 刷(日本経済新聞社)

426) 「聖書」その歴史的事実(新井智著) NHK ブックス 250

序章 聖書、この不可解な本へのアプローチ

- 1 エルサレムにて 2 聖書理解の多様性 3 聖書理解の歴史 4 私たちの聖書理解
  - 一 天地創造 1 二つの天地創造 2 ノアの箱舟 3 バベルの塔
  - 二 アブラハムの系譜 1 族長物語の手がかり 2 アブラハム物語 3 ヤコブ物語  
4 ヨセフ物語
  - 三 モーセと解放 1 モーセのたどった道 2 神との出会い 3 解放物語  
4 神のおきて「十戒」
  - 四 民族の統一 1 ヨシュア 2 宗教的部族連合 3 土師時代
  - 五 ダビデの栄光 1 王政の開始 2 ダビデの生涯 3 「救世主」の原型ダビデ
  - 六 信仰に燃えた人びと、予言者 1 予言者とは何か 2 愛の予言者ホセア  
3 聖の予言者イザヤ 4 「申命記」記者 5 苦難の予言者エレミア  
6 第二イザヤの「しもべの歌」
  - 七 レジスタンスの文学 1 エズラ・ネヘミヤの改革 2 ルツ記 3 ヨナ書  
4 ダニエル書
  - 八 イエスの神の国運動 1 その前夜 2 ナザレのイエス 3 死と復活
  - 九 世界へ羽ばたく 1 使徒パウロ 2 長老ヨハネ
- 昭和 51(1976)年 4 月 20 日第 1 刷発行  
平成 6(1994)年 2 月 10 日第 46 刷発行(日本放送出版協会)

427) 「ゲーテ詩集」(大山定一訳)

序(吉川幸次郎)

- ・初期の詩 ・シュトゥルム-ウント-ドラング時代 ・ワイマル初期 ・古典期
- ・晩年の詩 ・『西東詩集』 ・遺稿と他の巻々から ・補遺

あとがき(前田敬作)

大山定一略年譜

昭和 50(1975)年 2 月 25 日第 1 刷発行(新潮社)

428) 「ドイツ神秘主義研究」(上田閑照編)

序 今日における神秘主義研究の意義(西谷啓治)

第一部 ・独逸神秘主義(西谷啓治) ・独逸神秘主義と独逸哲学(西谷啓治)

第二部

- ・「神の子の誕生」と「神聖への突破」  
--ドイツ語説教集に於けるマイスター-エックハルトの根本思想(上田閑照)
- ・ゾイゼ解釈の諸問題(川崎幸夫)
- ・風格としての神--ドイツ神秘思想の体得のために(松山康國)
- ・「無限」の思惟--ニコラウス-クザーヌスにおける神と世界(菌田担)
- ・ルターにおける信仰と神秘主義--予備的考察(武藤一雄)
- ・ヨハン-アルント----「キリストの教えの生」--ルター後のドイツ神秘主義
- ・ベーメの神秘主義--「キリストへの道」の問題をめぐって(岡村圭真)
- ・知的直観と神秘主義(大峯頌)
- ・無底--シェリング『自由論』に於ける(辻村公一)
- ・生と反省--ヘーゲルの『1800年の体系断片(第一部)』に於ける哲学と宗教  
(ハルトムートブフナー・樋口寛訳)

あとがき

執筆者紹介 文献目録

昭和 57(1982)年 2 月 27 日第 1 刷発行(創文社)

429) 「不知火の記」(秋山六郎兵衛著)

昭和 43(1968)年 1 月 25 日発行(白水社)

430) 「国家語を超えて」(田中克彦著) 国際化のなかの日本語

- 1 ・「宗主国家語」をこえて 日本語の「国際化」をめぐるイデオロギー状況  
・かわいい日本語に旅をさせよ ・国際化時代の日本語 ・英語の呪縛  
・国際交流を論ずる際の哲学的基礎 ・オトは翻訳できるか?
  - 2 ・ことばと権力 ・「単語」から「文脈」へ ・新しい「文化方言」の試み  
・外国語を学ぶことの意味 ・考えさせないことばの伝統
  - 3 ・西洋人はシナ語をどう見てきたか アウグスト-シュライヒャーのばあい  
・言語の革命、意識の革命 ・ヨーロッパと言語イデオロギー  
・「蘭」からたちのぼる政治の香り ・現代言語学の「不幸」
  - 4 ・愛のカタカナ ・借金旅行も今や商品 ・ところてんの話  
・今、エスペラントが問いかけるもの ・エスペラント百年  
・二つのモンゴル学会議から ・本姓はアンガイ小さなところにあらわれる  
・左翼小児病とはどんな病気か? ・メンデルさんはメンドリさんじゃないったら  
・ヒフミの倍加説 ・ことばの本いくつか
- 平成 1(1989)年 9 月 30 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

431) 「Origami」(Hideaki Sakata)

Published by Graph-Sha LTD., Toky, Japan. 29. printing: November 1997

Basic Origami Techniques

- ・ Crane Base ・ Rabbit Base ・ Pinwheel Base ・ Kabuto Base
- ・ Yakko Base ・ Balloon Base ・ Organ Base ・ Fish Base

432) 「英語で折り紙 Origami in English」(山口真著)

はじめに Preface

日本の折り紙の歴史 The History of Origami in Japan

折り方の約束記号と基本の折り方 Symbols and Basic Folding Techniques

第 1 章 使える、遊べる折り紙 Origami That Can Be Used and Played with

用紙を選ぶ Choosing the Right Paper

第 2 章 かわいい動物、植物 Delightful Animals and Plants

第 3 章 楽しい飾り小物 Charming Decorative Accessories

平成 8(1996)年 4 月 19 日第 1 刷発行

平成 8(1996)年 6 月 17 日第 3 刷発行(講談社インターナショナル株式会社)

433) 「博士の折り紙夢 Book」 Doctor's Origami Dream Book

(川崎敏和編・著)144 作品

- ・はじめに
  - ・折る前に読んでね!
  - ・記号と基本的な折り方
  - ・3 つの「基本形」
  - 第 1 章 植物 第 2 章 動物と虫 第 3 章 鳥と水の生き物
  - 第 4 章 乗り物と飛ぶもの 第 5 章 遊びとおもちゃ 第 6 章 実用と飾り
- 平成 18(2006)年 12 月 20 日初版第 1 刷発行(朝日出版社)

434) 「日本を伝える! 英語で折り紙」(山口真著・立石浩一訳)

Folding Japan with Origami in English

第 1 章 年中行事 Yearly Event 第 2 章 子どもの遊び Children's Playing

第 3 章 食べもの Foods 第 4 章 植物 Plants 第 5 章 生活 Everyday Life

第 6 章 伝統文化 Traditional Culture 第 7 章 十二支の動物 The Twelve Horary Signs

第 8 章 千羽鶴 Senbazuru(Thousand Cranes)

平成 17(2005)年 9 月 30 日発行(株式会社ナツメ社)

435) 「福沢諭吉の真実」(平山洋著) 文春新書 394

はじめに

第1章 『時事新報』の「我輩」たち

- 1 日本近代最大の文章家・福沢諭吉と『時事新報』の創刊
- 2 福沢の甥・中上川彦次郎と後年の外交官・波多野承五郎
- 3 多芸の人・高橋義雄と熱血の政治少年・渡辺治
- 4 総編集・伊藤欽亮と後の主筆・石河幹明
- 5 有望の少年・菊池武徳と福沢諭吉の再来・北川礼弼

第2章 『福沢全集』はいかに編纂されたか

- 1 1898年・福沢編纂の明治版『福沢全集』
- 2 1925年・石河編纂の大正版『福沢全集』
- 3 1933年・石河編纂の昭和版『続福沢全集』
- 4 1958年・富田編纂の現行版『福沢諭吉全集』

第3章 検証・石河幹明は誠実な仕事をしたのか

- 1 全ては『福沢諭吉伝』の執筆依頼を受けた時に始まった
- 2 大正版『全集』と『福沢諭吉伝』の関係
- 3 石河が『時事新報』社説で主導権を握った時期はいつか
- 4 『全集』未収録単行本『修業立志編』について
- 5 石河は何を基準として「時事論集」への採否を決めたのか

第4章 1932年の福沢諭吉

- 1 『福沢諭吉伝』が描く福沢像
- 2 『福沢諭吉伝』が描かない福沢像
- 3 時局的思想家としての石河幹明
- 4 福沢と石河のアジア認識は全く異なっている
- 5 「福沢ルネサンス」のただ中で

第5章 何が「脱亜論」を有名にしたのか

- 1 1885年・『時事新報』紙上に掲載される
  - 2 1933年・『続福沢全集』に収録される
  - 3 1951年・遠山茂樹によって発見される
  - 4 1961年・突如「有名」となる
- おわりに 平成16(2004)年8月20日第1刷発行(文藝春秋)

436) 「フリーメイソンリー」その思想、人物、歴史(湯浅慎一著) 中公新書 955

第1章 フリーメイソンリーの思想

- 第1節 前史 第2節 アンダソンの「古い義務」とその背景

第2章 フリーメイソンリーとカトリック教会

- 第1節 1738年の教皇クレメンス12世による破門令
- 第2節 1751年の教皇ベネディクト14世による破門令
- 第3節 1896年のトリエントの反フリーメイソンリー大会
- 第4節 フリーメイソンリーとカトリック教会の接近の試み
- 第5節 そして決裂、現在にいたる

第3章 ドイツ啓蒙主義におけるフリーメイソンリー

- 第1節 ゴットホルト・エフライム・レッシング
- 第2節 ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー
- 第3節 ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
- 第4節 フリードリッヒ・フォン・シラー
- 第5節 ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ
- 第6節 アダム・ヴァイスハウプトと啓明会
- 第7節 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

第4章 フリーメイソンリーとヨーロッパ王朝の政治的関係

- 第1節 イギリスの王朝
- 第2節 フランス・ブルボン王朝とナポレオン王朝
- 第3節 ドイツ・オーストリア王朝
- 第4節 ロシア・ロマノフ王朝
- 第5節 スペインの王朝
- 第6節 ヨーロッパにおけるその他の王朝
- 第7節 結語

平成2(1990)年1月25日発行(中央公論社)

437) 「わたしの少女時代」

(池田理代子・宮城まり子・石垣綾子ほか著) 岩波ジュニア新書 3

- ・"生きる"ことに目覚めたとき(池田理代子) ・わが道を行く(今井通子)
- ・バイオリンと歩むなかから(黒沼ユリ子) ・幼き頃へのノスタルジア(増井光子)
- ・二番目娘の個性(中川季枝子) ・二、三秒の闇(林京子)
- ・私、もう一人の私(宮城まり子) ・弁護士にかけた夢(土井たか子)
- ・戦時下の青春(石井ふく子) ・地理学にあこがれて(靱山政子)
- ・似顔絵かきの体験(丸木俊) ・女学校へゆきたい(沢村貞子)
- ・アメリカに旅立つまで(石垣綾子)

昭和 54(1979)年 6月 21日 第1刷発行

昭和 62(1987)年 2月 20日 第10刷発行(岩波書店)

438) 「いのち--生命科学に言葉はあるか」(最相葉月著) 文春新書 474

序章 ドリーの遺言

- 第1章 痛い、もやもやしたもの--鷺田清一との対話
- 第2章 宇宙のなかの人間--柳澤桂子との対話
- 第3章 いのちの始まりと宗教の役割--島蘭進との対話
- 第4章 科学者の社会的責任--中辻憲夫との対話
- 第5章 動物と人間の関係--山内一也との対話
- 第6章 センス・オブ・ワンダー--萩原樹徳との対話
- 第7章 日本人の死生観--額田勲との対話
- 第8章 先端医療を取材して--後藤正治との対話
- 第9章 宇宙で知る地球生命--黒谷明美との対話
- 第10章 遺伝子診断と家族の選択--アリス・ウェクスラー&武藤香織との対話
- 第11章 進化と時間の奇跡

終章 未来

平成 17(2005)年 10月 20日 第1刷発行(文藝春秋)

439) 「秘密の花園 上」(バーネット作・吉田勝江訳) 岩波少年文庫 2028

- 第1章 だれもないおうち 第2章 つむじまがりのメアリさん
- 第3章 曠野<ムア>の旅 第4章 マーサ 第5章 廊下のさけび声
- 第6章 だれか泣いている 第7章 お庭のかぎ 第8章 コマドリの道案内
- 第9章 ふしぎな家 第10章 ディッコン 第11章 ツグミの巣
- 第12章 土地をすこし 第13章 ぼくはコリンだ
- 第14章 子どもの王様<ラジャー>

昭和 33(1958)年 1月 10日 第1刷発行

昭和 56(1981)年 11月 20日 第19刷発行(岩波書店)

440) 「秘密の花園 下」(バーネット作・吉田勝江訳) 岩波少年文庫 2029

- 第15章 小鳥の巣 第16章 いうことをきかないメアリ 第17章 かんしゃく
- 第18章 こうしてはいられない 第19章 春がきた
- 第20章 「いつまでも生きるよ」 第21章 ベン・ウェザスタッフ
- 第22章 日がしずむころ 第23章 魔法 第24章 笑わせておきなさい
- 第25章 カーテン 第26章 「ぼくのおっかさん」 第27章 お庭にいます

昭和 33(1958)年 2月 10日 第1刷発行

昭和 57(1982)年 7月 20日 第19刷発行(岩波書店)

441) 「アーサー王物語」(R. L. グリーン編 厨川文夫・厨川圭子訳) 岩波少年文庫 3057

- 1 アーサー王と日本の剣<つるぎ> 2 悲運の兄弟、バリンとバラン
- 3 ガウェイン郷と緑の騎士 4 トリスタンと美女イゾーの悲恋物語
- 5 ジェレイントとイーニッド姫 6 ガウェイン郷とラグネル姫
- 7 ラーンスロットとエレイン姫の物語 8 カメロットにあらわれた聖杯
- 9 ガラハッド郷の初冒険 10 ラーンスロット郷の冒険
- 11 カーボネック城に着いた、ラーンスロットとガウェイン

12 探求の終り 13 ラーンスロットと王妃グウィネヴィア  
14 モルドレッドのたくらみ 15 最後の戦い 16 アヴァロン  
昭和 32(1957)年 12 月 10 日第 1 刷発行  
昭和 61(1986)年 3 月 31 日第 28 刷発行(岩波書店)

442) 「宝島」(スティーブンスン作 阿部知二訳) 岩波少年文庫 3001

第 1 部 老海賊

1 「ベンボー提督亭」にあらわれた老海賊 2 「黒犬」があらわれ、きえる  
3 黒丸 4 海員衣服箱 5 めくらの最後 6 船長の書類

第 2 部 船の料理番

7 ブリストルへゆく 8 「遠めがね屋」で 9 火薬と武器  
10 航海 11 リンゴだるののできいた話 12 戦略会議

第 3 部 陸上の冒険

13 陸上の冒険のはじまり 14 第一撃 15 島の男

第 4 部 とりでの柵

16 ここからリブシー医師の話になる----どうして船をすてたか  
17 医師の話がつづく----小さなボートの最後の航海  
18 医師の話がつづく----第一日の戦闘がおわる  
19 ここからまたジム・ホーキンスの話になる----とりでの守備隊  
20 シルバーが談判にくる 21 攻撃

第 5 部 海の冒険

22 ぼくは、どのように海の冒険をはじめたか 23 ひき潮にまかせて  
24 皮船のさすらい 25 海賊旗をおろす 26 イズレイル・ハンズ 27 「八印銀貨」

第 6 部 シルバー船長

28 敵陣で 29 またも黒丸 30 しばらくの自由  
31 宝さがし----フリントの道しるべ 32 宝さがし----木立<こだち>の中の声  
33 かしらの敗北 34 そして、とうとう

昭和 42(1967)年 12 月 15 日第 1 刷発行

昭和 58(1983)年 9 月 10 日第 18 刷発行(岩波書店)

443) 「海市<かいし>」(福永武彦著) 純文学書下ろし特別作品

昭和 43(1968)年 1 月 15 日発行

昭和 43(1968)年 11 月 10 日 6 刷(新潮社)

444) 「開高 健集」新潮日本文学 63

・輝ける闇・パニック・裸の王様・なまけもの・流亡記 解説(磯田光一)

昭和 46(1971)年 12 月 12 日発行

昭和 51(1976)年 5 月 30 日 5 刷(新潮社)

445) 「北 杜夫集」新潮日本文学 61

・楡家の人びと ・どくとるマンボウ航海記  
・羽蟻のいる丘 ・不倫 ・谿間にて 解説(なだ いなだ)

昭和 43(1968)年 10 月 12 日発行(新潮社)

446) 「福永武彦集」新潮日本文学 49

・草の花 ・忘却の河 ・海市 ・廃市 解説(辻邦生)

昭和 45(1970)年 8 月 12 日発行(新潮社)

447) 「谷崎潤一郎集」新潮日本文学 6

・細雪 ・痴人の愛 ・卍 ・少将滋幹の母 ・瘋癲老人日記  
・刺青 ・秘密 ・金色の死 ・春琴抄 解説(三島由紀夫)

昭和 45(1970)年 4 月 12 日発行

昭和 46(1971)年 3 月 10 日 2 刷(新潮社)

- 448) 「安岡章太郎集」新潮日本文学 52  
 ・遁走 ・海辺の光景 ・幕が下りてから ・カラスの靴 ・愛玩  
 ・蛾 ・陰気な愉しみ ・悪い仲間 ・サアカスの馬 ・青葉しげれる  
 ・雨 ・質屋の女房 解説(遠藤周作)  
 昭和 47(1972)年 3 月 12 日発行  
 昭和 53(1978)年 4 月 10 日 5 刷(新潮社)
- 449) 「徳田秋声集」新潮日本文学 4  
 ・あらくれ・縮図・元の枝へ・町の踊り場・和解 解説(平野謙)  
 昭和 48(1973)年 11 月 12 日発行  
 昭和 51(1976)年 12 月 15 日 3 刷(新潮社)
- 450) 「三島由紀夫集」新潮日本文学 45  
 ・仮面の告白・愛の渴き・潮騒・金閣寺  
 ・宴のあと ・午後の曳航 解説(村松剛)  
 昭和 43(1968)年 9 月 12 日発行(新潮社)
- 451) 「大江健三郎集」新潮日本文学 64  
 ・芽むしり 仔撃ち ・個人的な体験 ・奇妙な仕事 ・死者の奢り  
 ・人間の羊 ・見るまえに跳べ ・不意の啞 ・共同生活 ・後退青年研究所  
 ・セヴンティーン・性的人間・敬老週間・空の怪物アグイー 解説(平野謙)  
 昭和 48(1973)年 11 月 12 日発行  
 昭和 51(1976)年 12 月 15 日 3 刷(新潮社)
- 452) 「小川国夫集」新鋭作家叢書  
 ・役者たち ・物と心 ・海と鰻 ・速い馬の流れ ・相良油田  
 ・東海のほとり ・動員時代 ・高砂族 ・三月 ・お麦  
 ・爽かな辻 ・エリコへ下る道 ・修道士の墓地 ・アポロンの島  
 ・地中海の漁港 ・鞭打苦行者 ・アフリカン-ナイト  
 ・旅の痕跡 ・ゲラサ人の岸 ・影の部分 ・心臓 ・河口の南  
 ・枯木 ・アポロナスにて ・海からの光 ・主観的照明  
 小川国夫の目(古井由吉)  
 昭和 46(1971)年 12 月 25 日初版発行  
 昭和 47(1972)年 1 月 14 日再版発行(河出書房新社)
- 453) 「後藤明生集」新鋭作家叢書  
 ・関係 ・笑い地獄 ・S 温泉からの報告 ・何? ・誰? ・書かれない報告  
 ・散文の問題  
 自由なる潜行者(田久保英夫)  
 昭和 47(1972)年 5 月 30 日初版発行(河出書房新社)
- 454) 「大庭みな子集」新鋭作家叢書  
 ・ふなくい虫 ・棧橋にて ・あいびき ・H、Y、G に捧ぐ  
 『ふなくい虫』の詩的構造(平岡篤頼)  
 昭和 47(1972)年 1 月 30 日初版発行(河出書房新社)
- 455) 「風の地平」(日野啓三著)  
 ・ヤモリの部屋(原題「ヤモリのいる部屋」)昭和 50(1975)年 5 月「群像」  
 ・空中庭園 昭和 51(1976)年 1 月「海」  
 ・天堂への馬車代 昭和 50(1975)年 1 月「中央公論」  
 ・霧の参道(原題「暗い参道」)昭和 50(1975)年 5 月「海」  
 ・彼岸の墓 昭和 51(1976)年 1 月「中央公論」  
 ・風の地平 昭和 50(1975)年 3 月「文芸」  
 昭和 51(1976)年 4 月 20 日発行(中央公論社)

456) 「TN 君の伝記」(なだ いなだ著)(司 修画) 福音館日曜日本文庫  
第1章 少年時代 第2章 青年時代の(1)高知から長崎へ  
第3章 青年時代の(2)江戸で 第4章 青年時代の(3)ヨーロッパで  
第5章 青年時代の(4)フランスで 第6章 青年時代の(5)日本に帰る  
第7章 自由をもとめる人たち 第8章 抵抗のなかで(1)  
第9章 抵抗のなかで(2) 第10章 ふまれる麦のように  
第11章 東洋自由新聞をだす 第12章 十年先の約束  
第13章 自由のために流される血 第14章 まだ、あきらめない  
第15章 最初の国会 第16章 TN君、いづくにある 第17章 いやな感じ  
あとがき

昭和 51(1976)年 5月 30日 初版発行

昭和 52(1977)年 6月 30日 第5刷(福音館書店)

457) 「高橋和巳作品集 6」

・日本の悪霊 ・暗殺の哲学 ・散華 ・散華の世代--往復書簡  
<巻末論文> 苦悩教の始祖(埴谷雄高)

昭和 44(1969)年 10月 5日 初版発行

昭和 44(1969)年 10月 25日 再版発行(河出書房新社)

458) 「悲の器」(高橋和巳著) 長篇小説 Kawade Paperbacks 14

昭和 37(1962)年 11月 20日 初版発行

昭和 37(1962)年 12月 27日 3版発行(河出書房新社)

459) 「文学のすすめ」(高橋和巳編) 学問のすすめ 6

I イメージの形成と追求

・想像力の根源(大江健三郎) ききて(高橋和巳)

・想像力の解放と人間の解放(野間宏) ききて(高橋和巳)

・夢と想像力(埴谷雄高) ききて(高橋和巳)

II 時代と文学

・現代思想と文学(高橋和巳)

・疎外と文学--文学による人間復権は可能か--(平井啓之)

III 文学と感動

・壁の意識(秋山駿) ・文学的感動の図式(作田啓一) ・研究と感動(柴田翔)

IV 現代文学の問題

・無神論と小説--喪失の時代の中で--(真継伸彦)

・二つのものを結ぶ力--新しい方法を求めて--(飯島耕一)

・未来社会の文学(小松左京)

昭和 43(1968)年 10月 30日 初版第1刷発行(筑摩書房)

460) 「近松秋江」日本文学全集 14

(編集委員: 伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)

・雪の日 ・別れた妻に送る手紙 ・執着 ・疑惑 ・疑惑続編

・黒髪 ・狂乱 ・霜氷る宵 ・旧恋 ・旧恋(続篇) ・苦海

作家と作品(平野謙)

昭和 49(1974)年 5月 8日 発行(集英社)

461) 「正宗白鳥」日本文学全集 11

(編集委員: 伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)

・塵埃 ・妖怪画 ・何処へ ・五月幟 ・微光 ・泥人形 ・入江のほとり

・牛部屋の臭い ・生まざりしならば ・ある日本宿 ・六十の手習い

・戦災者の悲しみ ・流浪の人 ・今年の秋 ・リー兄さん

作家と作品(山本健吉)

昭和 48(1973)年 11月 8日 初版

昭和 49(1974)年 11月 20日 2版(集英社)

462) 「高見 順」日本文学全集 65

(編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)

- ・起承転々 ・故旧忘れ得べき ・如何なる星の下に ・由紀子の死
- ・インテリゲンチア ・湿原植物群落 ・片耳のたれた兎

作家と作品(久保田正文)

昭和 49(1974)年 2 月 8 日発行(集英社)

463) 「ガン回廊の朝くあした」(柳田邦男著)

第 1 部 ・陰影欠損 ・素直なヘソ曲がり ・現代の戦場 ・土佐っぼ ・実力本位  
・診療革命 ・「誤診」の罰金 ・潰瘍かガンか ・執念の源泉 ・手術の証明  
・天使の反乱 ・絶筆「ヨクナル」

第 2 部 ・負けず嫌い ・金具師の協力 ・顕微鏡下の極彩色 ・ライバル意識  
・切磋琢磨 ・反発心の結晶 ・新しい波 ・五ミリのガン ・狙撃撮影  
・覚悟の旅路 ・痛手を越えて

第 3 部 ・手ごたえ ・九項目の要求条件 ・切り拓く時代 ・壁の中の孤独  
・宣告なしの退陣 ・天使の報われぬ町 ・雷雨 ・道標

第 4 部 ・偶然と必然 ・苦悩 ・オリジナリティ ・意外な盲点 ・曲り角  
・「見落とし」ゼロヘ ・研究の輪廻 ・死の中の生 ・論争 ・飛躍のルーツ  
・劇的な好転 ・曙光

あとがき

昭和 54(1979)年 6 月 30 日第 1 刷発行

昭和 54(1979)年 11 月 25 日第 12 刷発行(講談社)

464) 「外国語 ABZ」(辻邦生編) エッセイ・大人の時間

遠い外国語 近い外国語(辻邦生)

I 上達法 A から Z まで

- ・英語勉強法(丸谷才一) ・エンジンバラ行き急行(倉谷直臣)
- ・怠けものの語学勉強法(河野與一)
- ・音読-作文-暗唱(シュリーマン)(関楠生訳)
- ・英語上達法(吉田健一)
- ・外国語が好きなわけ(ギルバート-ハイエット)(織田智恵訳)
- ・「カムカム英語」と「英会話」(富岡多恵子)
- ・日本の外国語教育について(鈴木孝夫)

II 翻訳恐るべし

- ・翻訳家を志して(中村保男) ・さいしょの訳(田中小実昌)
- ・ヴィセラルという形容詞(森有正) ・伊勢物語とアメリカの学生(山崎正和)
- ・十人十訳(福永武彦) ・『トニオ・クレーガー』あれこれ(北杜夫)
- ・翻訳または『ガルガンチュワとパンタグリユエルの物語』の事(加藤周一)
- ・難解をありがたがることはない(別宮貞徳)

III とかく珍談はつきもの

- ・アメリカ人との出会い(池田満寿夫) ・危ない話(松原秀一)
- ・オカーメ?(大町陽一郎) ・バッテンボー(和田誠)
- ・語学について(潮野七生) ・辞書二題(大岡信)

IV 日本語だって外国語

- ・アダム日本語(小沼丹)
- ・「アイアムソーリー」と「すみません」(岩崎宏之)
- ・日本の発見(ドナルド・キーン)

昭和 60(1985)年 10 月 20 日発行

昭和 60(1985)年 12 月 25 日 3 刷(新潮社)

465) 「私の日本文学逍遙」(ドナルド・キーン著)

昭和 56(1981)年 5 月 20 日発行(新潮社)



- 466) 「胡蝶の夢(1)」(司馬遼太郎著)  
 ・恋が浦 ・平河町界限 ・良順と妻 ・伊之助 ・春風秋雨 ・放れ駒  
 ・猫の恋 ・佐倉へ ・順天堂 ・帰雁 ・城の中  
 昭和 54(1979)年 7 月 20 日発行  
 昭和 54(1979)年 10 月 15 日 2 刷(新潮社)
- 467) 「胡蝶の夢(2)」(司馬遼太郎著)  
 ・長崎 ・はるかな海 ・伊之助の長崎 ・ポンペ ・小さな航海  
 ・夏の雲 ・江戸の風聞 ・秋の丘 ・万延元年  
 昭和 54(1979)年 8 月 20 日発行(新潮社)
- 468) 「胡蝶の夢(3)」(司馬遼太郎著)  
 ・小島養生所 ・平戸 ・崎陽の雲 ・暗転 ・江戸へ ・殿中 ・変転  
 昭和 54(1979)年 9 月 20 日発行(新潮社)
- 469) 「胡蝶の夢(4)」(司馬遼太郎著)  
 ・関寛斎 ・良順 ・浮雲 ・江戸晩景 ・大坂 ・西の風  
 昭和 54(1979)年 10 月 20 日発行  
 昭和 55(1980)年 1 月 20 日 4 刷(新潮社)
- 470) 「胡蝶の夢(5)」(司馬遼太郎著)  
 ・江戸の正月 ・西軍来る ・佐渡から ・阿波から ・江戸の良順  
 ・脱走 ・横浜 ・惨風 ・西風東雨 ・東京 ・陸別  
 伊之助の町で--あとがきのかわりに--  
 昭和 54(1979)年 11 月 20 日発行(新潮社)
- 471) 「知られざるフリーメーソン」(スティーブン・ナイト著)  
 The Brotherhood by Stephen Knight(岸本完司訳)  
 著者まえがき  
 第 1 部 フリーメーソンとは何か  
 第 1 章 フリーメーソンの起源 第 2 章 変容 第 3 章 分裂と再統合  
 第 4 章 海外進出から現代へ 第 5 章 33 の位階  
 第 2 部 警察 第 6 章 論争 第 7 章 高級幹部たち 第 8 章 汚染の構造  
 第 9 章 カントリーマン作戦 第 10 章 誤解--三つのケース  
 第 11 章 バーミンガム市警察 第 12 章 結論  
 第 3 部 インサイド・インフォメーション  
 第 13 章 あるラビの話 第 14 章 五人の親方と一人のルイス  
 第 15 章 友愛の裏側に 第 16 章 報復  
 第 4 部 法曹界 第 17 章 システム 第 18 章 両刃の剣 第 19 章 弁護士と判事  
 第 5 部 バッキンガム宮殿からヴァチカンまで  
 第 20 章 政府 第 21 章 王家の人々  
 第 22 章 ザ・シティ 第 23 章 悪魔信仰説を追って  
 第 6 部 KGB コネクション  
 第 24 章 イタリアの危機 第 25 章 チャイナマン・レポート  
 第 26 章 英国を脅かすもの  
 エピローグ 昭和 62(1987)年 6 月 25 日初版発行(中央公論社)
- 472) 「フリーメーソン」(リュック・ヌフォンテーヌ著)  
 Luc Nefontaine: La Franc-Maçonnerie, une fraternité révélée  
 (吉村正和監修・村上伸子訳)  
 第 1 章 フリーメーソンの起源 第 2 章 啓蒙主義とフリーメーソン  
 第 3 章 フリーメーソンの政治参加 第 4 章 現代のフリーメーソン  
 平成 8(1996)年 10 月 20 日第 1 版第 1 刷発行  
 平成 16(2004)年 6 月 20 日第 1 版第 6 刷発行(創元社)

- 473) 「葛西善蔵 嘉村磯多」日本文学全集 31  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 葛西善蔵集 ・哀しき父 ・悪魔 ・贖物 ・子をつれて ・遁走 ・遊動円木  
 ・浮浪 ・父の出郷 ・おせい ・父の葬式 ・蠢く者 ・椎の若葉 ・湖畔手記  
 ・血を吐く ・死児を産む ・われと遊ぶ子 ・酔狂者の独白 ・忌明  
 嘉村磯多 ・業苦 ・崖の下 ・父となる日 ・生別離 ・足相撲 ・曇り日  
 ・牡丹雪 ・秋立つまで ・途上 ・神前結婚 作家と作品(平野謙)  
 昭和 50(1975)年 1月 8日 発行(集英社)
- 474) 「尾崎紅葉 泉 鏡花」日本文学全集 2  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 尾崎紅葉集 ・二人比丘尼 色懺悔 ・猿枕 ・三人妻  
 泉鏡花集 ・夜行巡查・外科室・照葉狂言・高野聖・歌行燈 作家と作品(福田清人)  
 昭和 49(1974)年 6月 8日 発行(集英社)
- 475) 「横光利一」日本文学全集 38  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 ・寝園 ・御身 ・蠅 ・ナポレオンと田虫 ・春は馬車に乗って  
 ・機械 ・罌粟の中 ・雪解 ・上海 作家と作品(保晶正夫)  
 昭和 48(1973)年 6月 8日 初版  
 昭和 49(1974)年 11月 20日 2版(集英社)
- 476) 「三島由紀夫」日本文学全集 82  
 (編集委員：伊藤整・井上靖・中野好夫・丹羽文雄・平野謙)  
 ・潮騒 ・中世 ・頭文字 ・美神 ・詩を書く少年 ・女方  
 ・憂国 ・月 ・孔雀 ・金閣寺 作家と作品(磯田光一)  
 昭和 46(1971)年 12月 8日 初版  
 昭和 49(1974)年 8月 20日 5版(集英社)
- 477) 「シーボルト」(石山禎一著) 里文選書  
 Philipp Franz von Siebold 日本の植物に賭けた生涯  
 第 1 章 日本の植物への期待  
 ・はじめに ライデンの街並 ライデン大学の植物園 シーボルトの略伝  
 ・長崎への来航  
 ・長崎での生活 鳴滝塾の植物園 出島の植物園  
 『寄陽』に見えるシーボルトの活動  
 第 2 章 長崎近郊の旅での発見  
 ・長崎近郊への調査の旅 漁村小瀬戸への調査旅行 岩尾山への調査旅行  
 西山御楽園での調査  
 第 3 章 日本茶と植物標本  
 ・ジャワでの日本茶の移植栽培に成功  
 ・出島蘭館日雇熊吉と植物標本  
 ・シーボルトの収集植物の処理法と植物標本の作り方  
 ・絵師川原慶賀とドゥ-フィレネーフェの植物画  
 第 4 章 江戸参府途上の観察とシーボルト事件  
 ・江戸参府途上から見た日本の自然 日本の農業 日本植物の景観 四季の植物  
 山地の植物 街道沿いの植物  
 第 5 章 帰国後の日本の植物普及活動  
 ・帰国後のヨーロッパでの生活  
 オランダに移入栽培した日本の植物  
 ライデン気候馴化<じゅんか>園と王立園芸奨励協会の設立  
 ・第二回日本旅行で観察した江戸の園芸植物  
 ・おわりに 平成 12(2000)年 4月 20日 発行(里文出版)

478) 「日本新史」(森清人著)  
昭和37(1962)年5月28日発行(錦正社)

479) 「『いき』の構造」(九鬼周造著)  
1 序説  
2 「いき」の内包的構造 3 「いき」の外延的構造  
4 「いき」の自然的表現 5 「いき」の芸術的表現  
6 結論  
昭和5(1930)年11月20日第1刷発行  
昭和42(1967)年9月14日第12刷改版発行  
昭和44(1969)年1月20日第16刷発行(岩波書店)

480) 「戦艦大和の最期」(吉田満著)  
戦艦大和の最期  
あとがき  
跋文 吉川英治 小林秀雄 林房雄 川上徹太郎 三島由紀夫  
昭和27(1952)年8月30日初版発行  
昭和27(1952)年9月10日再版発行(創元社)

481) 「善の研究」(西田幾多郎著)  
第1編 純粹経験  
第1章 純粹経験 第2章 思惟 第3章 意志 第4章 知的直観  
第2編 實在  
第1章 考究の出立点 第2章 意識現象が唯一の實在である  
第3章 實在の眞景 第4章 眞實在は常に同一の形式を有つて居る  
第5章 眞實在の根本的方式 第6章 唯一實在 第7章 實在の分化發展  
第8章 自然 第9章 精神 第10章 實在としての神  
第3編 善  
第1章 行為上 第2章 行為下 第3章 意志の自由 第4章 価値的研究  
第5章 倫理学の諸説其一 第6章 倫理学の諸説其二  
第7章 倫理学の諸説其三 第8章 倫理学の諸説其四 第9章 善(活動説)  
第10章 人格的善 第11章 善行為の動機(善の形式)  
第12章 善行為の目的(善の内容) 第13章 完全なる善行  
第4編 宗教  
第1章 宗教的要求 第2章 宗教の本質 第3章 神  
第4章 神と世界 第5章 知と愛  
大正10(1921)年3月18日発行  
昭和7(1932)年6月15日第179版発行(岩波書店)

482) 「自殺者の系譜」(日沼倫太郎著)  
夭折者の肖像 ・自殺と遺書思想 ・青春の墓のかなた  
自殺者の系譜 ・孤独の流星の詩学 長沢延子 ・摩周湖の死 杉山章夫  
・虚栄と山岳の死 服部達 ・地獄の光景の涯に 原民喜  
・私が死んだら友よ 蛭田昭  
宗教と文学 ・文学における宗教性の復権 ・無常と永遠  
・宗教と文学<中世文学私感> ・無常美感の超克--亀井勝一郎と待然草  
・平家物語--その時間と空間  
深沢七郎論 ・存在透視力 ・深沢七郎と「物」 ・現代の「見者<ヴォワイヤン>」  
・深沢七郎さんのこと ・輪廻の美学 ・愛と無常 ・変化と数の思想  
・明知と真言の彼方 ・作品解説  
解題(笠原伸夫)  
昭和46(1971)年5月1日初版発行(豊島書房)

- 483) 「フジ子・ヘミング 魂のピアニスト」(フジ子・ヘミング著)  
 プロローグ  
 第1章 幼い日の記憶から 第2章 ベルリン留学  
 第3章 カラヤン、光の中の魔法使い 第4章 大きな夢の目前で  
 第5章 悲しいことは忘れて 第6章 聴衆に支えられて  
 第7章 母のいない日本で  
 エピローグ わたしのピアノ  
 絵日記から  
 平成12(2000)年5月7日初版  
 平成19(2007)年5月7日13刷(求龍堂)
- 484) 「風土」(福永武彦著)  
 第1部 夏 --1939年--  
 1章 再会 2章 少年少女 3章 海について 4章 タヒチの女  
 第2部 過去 --1923年8月--  
 第3部 夏の終り --1939年--  
 1章 灯台 2章 傷ついた指 3章 わが生のすべてのもの  
 4章 風土 5章 「月光」 6章 悪夢・回想  
 解説(丸谷才一)  
 昭和43(1968)年12月10日発行  
 昭和47(1972)年8月20日9刷(新潮社)
- 485) 「風のかたみ」(福永武彦著) 長編王朝小説  
 ・すすき野 ・しなの人 ・姫 ・笛 ・百鬼夜行 ・雪 ・影 ・幻術  
 ・嵐の前 ・虚実 ・恋のみだれ ・背信 ・渦 ・胡人月に向って ・破滅  
 ・東の獄 ・火焰の中 ・いさら川  
 昭和43(1968)年6月25日発行  
 昭和49(1974)年11月30日17刷(新潮社)
- 486) 「安部公房 小島信夫集」筑摩現代文学大系 77  
 安部公房集 ・他人の顔 ・赤い繭 ・水中都市 ・棒 ・鉛の卵  
 ・無関係な死 ・詩人の生涯(ラジオ・ドラマ)  
 小島信夫集 ・抱擁家族 ・小銃 ・弱い結婚 ・ハッピーネス  
 ・どちらでも(小説風に書かれた戯曲)  
 人と文学 ・安部公房(ドナルド・キーン) ・小島信夫(高橋英夫)  
 昭和51(1976)年9月15日初版第1刷発行(筑摩書房)
- 487) 「ガンビアの春」(庄野潤三著)  
 昭和55(1980)年4月30日発行(河出書房新社)
- 488) 「浮き燈臺」(庄野潤三著) 純文学書下ろし特別作品  
 昭和36(1961)年9月21日発行  
 昭和54(1979)年3月15日12刷(新潮社)
- 489) 「ゴーゴリ集」世界文学全集 21  
 ・タラス・ブーリバ(服部典三訳) ・検察官(野崎韶夫訳)  
 ・外套(横田瑞穂訳) ・死せる魂(横田瑞穂訳)  
 解説(横田瑞穂訳)  
 年譜(服部典三)  
 昭和45(1970)年11月1日発行(筑摩書房)
- 490) 「ディケンズ集 (1)」世界文学全集 22  
 荒涼館 I (青木雄造・小池滋訳)  
 昭和45(1970)年11月1日発行(筑摩書房)

- 491) 「ディケンズ集 (2)」世界文学全集 23  
 荒涼館Ⅱ(青木雄造・小池滋訳)  
 解説・年譜(小池滋)  
 昭和 45(1970)年 11 月 1 日発行(筑摩書房)
- 492) 「メルヴィル集」世界文学全集 24  
 ・白鯨(阿部知二訳) 解説・年譜(阿部知二)  
 昭和 45(1970)年 11 月 1 日発行(筑摩書房)
- 493) 「悪名くあくみょう」の棺 笹川良一伝(工藤美代子著)  
 プロローグ  
 第 1 章 西国街道----家郷を越えて  
 第 2 章 国粋の旗幟----憂国の情やみがたし  
 第 3 章 修羅を奔くはしる----「下半身の人格は別」  
 第 4 章 戦う A 級戦犯----上等兵、大将を叱る  
 第 5 章 獄中対決----田中隆吉の罟・児玉誉士夫の背信  
 第 6 章 王国の船----情に生き、利に通じ  
 第 7 章 終生の煩惱----九十歳、恋情  
 第 8 章 棺の蓋----絢爛たる逆光の下で  
 エピローグ  
 平成 22(2010)年 10 月 25 日第 1 刷発行  
 平成 22(2010)年 11 月 10 日第 2 刷発行(幻冬舎)
- 494) 「小説『聖書』旧約篇」(ウォルター・ワンゲリン著)  
 Walter Wangerin: The Book of God(中村明子訳)  
 第 1 部 父祖たち(The Ancestors)  
 第 2 部 契約(The Covenant)  
 第 3 部 主の戦い(The Wars of the Lord)  
 第 4 部 王たち(Kings)  
 第 5 部 預言者たち(Prophets)  
 第 6 部 捕囚からの手紙(Letters from Exile)  
 第 7 部 切望(The Yearning)  
 平成 10(1998)年 5 月 31 日第 1 刷  
 平成 10(1998)年 10 月 10 日第 15 刷(徳間書店)
- 495) 「浮き燈臺」(庄野潤三著) 純文学書下ろし特別作品  
 昭和 36(1961)年 9 月 21 日発行  
 昭和 54(1979)年 3 月 15 日 12 刷(新潮社)
- 496) 「佐藤春夫集」 現代日本の文学 13  
 佐藤春夫文学紀行 熊野路(中谷孝雄)  
 ・わんぱく時代 ・田園の憂鬱 ・女誠扇綺譚 ・のんしゃらん記録  
 ・熊野路 ・殉情詩集 ・車塵集  
 佐藤春夫文学アルバム 評伝的解説(尾崎秀樹)  
 昭和 45(1970)年 7 月 1 日初版発行  
 昭和 50(1975)年 1 月 20 日 18 版発行(学習研究社)
- 497) 「中野重治集」 現代日本の文学 19  
 中野重治文学紀行 城の見える故郷(佐々木基一)  
 ・歌のわかれ ・むらぎも ・春さきの風 ・鉄の話 ・村の家 ・詩集  
 中野重治文学アルバム 評伝的解説(亀井秀雄)  
 昭和 45(1970)年 12 月 1 日初版発行  
 昭和 49(1974)年 8 月 1 日 13 版発行(学習研究社)

- 498) 「林芙美子 平林たい子集」 現代日本の文学 23  
 林芙美子文学紀行 尾道・因島(瀬戸内晴美)  
 ・放浪記 ・風琴と魚の町  
 林芙美子文学アルバム 評伝的解説(足立巻一)  
 平林たい子文学紀行 諏訪・銚子(山室静)  
 ・砂漠の花(第一部)  
 平林たい子文学アルバム 評伝的解説(亀井秀雄)  
 昭和 46(1971)年 3 月 1 日初版発行  
 昭和 50(1975)年 1 月 20 日 15 版発行(学習研究社)
- 499) 「檀一雄 織田作之助 田中英光集」 現代日本の文学 33  
 檀一雄文学紀行 筑紫放浪(奥野健男)  
 ・此家の性格 ・退屈な危惧 ・美しき魂の告白 ・衰運  
 ・花筐序 ・花筐 ・夕張胡亭塾景観 ・母  
 檀一雄文学アルバム 評伝的解説(森川達也)  
 織田作之助文学紀行 大阪ミナミ食べて夢見る(奥野健男)  
 ・二十歳 ・夫婦善哉 ・ジュリアン-ソレル  
 織田作之助文学アルバム 評伝的解説(森川達也)  
 田中英光文学紀行 戦後の希望と挫折のあと(奥野健男)  
 ・放浪記 ・風琴と魚の町  
 田中英光文学アルバム 評伝的解説(森川達也)  
 昭和 46(1971)年 3 月 1 日初版発行  
 昭和 50(1975)年 1 月 20 日 15 版発行(学習研究社)
- 500) 「阿川弘之 三浦朱門集」 現代日本の文学 43  
 阿川弘之文学紀行 広島への愛着とふしぎなる御性格(北杜夫)  
 ・春の城 ・年年歳歳 ・霊三題  
 阿川弘之文学アルバム 評伝的解説(阪田寛夫)  
 三浦朱門文学紀行 優等教授と摺りがたい御性格(北杜夫)  
 ・冥府山水図 ・二つの家 ・偕老同穴 ・楡のある町 ・誠実な他人 ・爪の会  
 三浦朱門文学アルバム 評伝的解説(阪田寛夫)  
 昭和 46(1971)年 7 月 1 日初版発行  
 昭和 50(1975)年 1 月 20 日 15 版発行(学習研究社)